授業科目名	キャリア教育						
担 当 者 名	橋元　隆・中村　吉男						
科目コード	1200005	**授 業 形 態**	講義				
学　　年	2	**開 講 期**	後期				
単 位 数	2	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	仕事において専門知識・技術を持つことは当然のことながら，その一人ひとりの人格が最も大切な仕事上のベースとなる．個人の人格を主体とし，社会人としての明確な天職の自覚意識形成を不可欠である．専門的な知識・技術及び国家資格の取得と共に，明確な仕事に対する天職としての「務め意識」への信念と使命感について教授する．建学の精神に基づく人格教育の部分と，社会人・医療人として働くことの意義・価値を認識する講義内容とする．
授業の到達目標	建学の教育理念に基づく行事教育や人格教育，生活指導教育と本学の専門的教科教育・就職支援の取り組みについて理解できる． 自らが目指す理学療法士・作業療法士像を探求し，それにむかっての短・中期プランを構築できる．
授業計画	1.　キャリアとは何か　（橋元） 2.　医療の動向（特にリハビリテーション医療の流れについて）　（橋元） 3.　キャリア教育方法論の新たな視座　（中村） 4.　理学療法士・作業療法士の現況と就労状況　（橋元） 5.　理学療法士・作業療法士の卒前・卒後教育　（橋元） 6.　理学療法士・作業療法士に望まれる資質　（橋元） 7.　理学療法士・作業療法士の展望　（橋元） 8.　理学療法士・作業療法士の社会的責務　（橋元） 9.　キャリア教育論　（中村） 10.　医療職の使命について　（橋元） 11.　医療におけるリスクマネジメント・感染予防について　（橋元） 12.　学内行事への参加，建学の精神　（学長講話） 13.　学内行事への参加　針供養・学内成人式の意義　（学長講話） 14.　社会人としてのマナー：飲酒・喫煙　（橋元） 15.　食と運動の融合「健康生活の番人」とは　（橋元）
成績評価の方法	評価項目と割合 ①成績評価方法：出席し議論に主体的に参加して，問題点の指摘と自ら提案する姿勢を評価する． ②成績評価基準：橋元（80%），中村（20%），課題の提出，授業態度にて評価する．
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	教室だけのものでなく専門職を目指す自らの将来について夢を描き，それを実現するために日常から友人・教職員と語り合うことが重要です．
使用テキスト	橋元　隆：毎回講義資料を配布する． 中村吉男：「キャリア教育学総論」　中村吉男　著
参考書（参考資料等）	適宜，資料を配布する．
その他 (受講生への要望等)	自ら目指すリハビリテーションの専門職として，夢を言葉として表現することから始めましょう．
教員 e-mail アドレス	橋元　隆：hashimoto@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">食と福祉</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">藤野　博史</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1000003</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>理学療法士必修</td><td>理学療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">「食」は人間の健康に密接な関係を持っている。健康は、肉体的、精神的及び社会的に健全な状態を意味しており、そこに「食」が重要な役割を果たしている。「食」を取り巻く環境の変化により、肥満や生活習慣病の増加など、国民の健康の保持・増進及び生活の質（QOL）の向上を妨げている。本講義では、
①健康の定義と健康の現状、　②栄養の面からの理解、
③精神と健康（食欲の面から）の理解、④福祉の面からの理解（高齢社会と食）、
⑤子どもの食生活の問題点と食育、　⑥専門職と食、
について取り上げ、食と人間生活を取り巻く諸問題について理解するとともに、食を通して福祉を実現するためにはどうしたらいいかを考える。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">・国民の健康と栄養の現状について知り、問題点を把握し、健康を確保するための方法について考える。
・健康を守る職業人としてのあるべき姿について考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　ガイダンス　食と福祉の基本理念（本学教育思想）について考える。</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　健康の定義、国民の健康と栄養の現状</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　栄養学の基礎（1）：栄養学の成立（体内の燃焼・消化と吸収）</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　栄養学の基礎（2）：ビタミンの発見の歴史</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　栄養学の基礎（3）：エネルギー代謝、栄養学と社会</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　人間活動における食欲（1）：脳における食欲（視床下部を中心に）</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　人間活動における食欲（2）：脳における食欲（食欲のしくみ）</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　人間活動における食欲（3）：人の食欲と食生活（食欲の制御は可能か）</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　人間の幸福と福祉（福祉の制度）</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　高齢化社会における現状と問題点</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　老化と食生活</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　子どもの食生活の現状</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　食育を考える</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　専門職（リハビリテーション）と食</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　まとめ（食を通して福祉を実現するには）</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">主として、定期試験の結果により評価するが、レポート、小テストなどを実施した場合にはその評価も加味する。また、授業態度も評価に加味する。
評価の比率は：期末テスト（90%）、その他（小テスト、レポート）（10%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">・テキストは全て触れることはできないので、可能な限り授業外で熟読しておくこと。
・適宜、課題を出すので、その課題に取り組むこと。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">「栄養学を拓いた巨人たち」杉　晴夫著（ブルーバックス、講談社）
「食欲の科学」櫻井　武（ブルーバックス、講談社）</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">「国民衛生の動向」厚生労働統計協会　編（厚生労働統計協会）
「国民健康・栄養の現状」（第一出版）
「食育白書　平成 26 年版」内閣府　編（勝美印刷）</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">・テキスト、配布資料に基づき、授業を進める。
・適宜、関係 DVD を映写する。その際は必ずレポートを求める。
・可能な限り、質問の時間を設けたいので、活発に質問をしていただきたい。
・配布資料については、授業で触れることのできない場合もあるので、熟読していただきたい。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">fujino@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	食と哲学						
担当者名	吉田　正史						
科目コード	1200092	**授業形態**	講義				
学　年	1	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	食の根本的意義や食をめぐる諸問題を哲学的視点から考察してみたい。具体的には様々な食思想の紹介が中心となるが、最初の数時間は、本学の「建学の思想」についても講じてみたい。また全体を通じて論理的思考力を涵養することも狙いの一つとしている。
授業の到達目標	代表的な食思想の理解を通して、食の根本的意義や食をめぐる諸問題を出来るだけ多くの観点からまた出来るだけ深く自ら論理的に考察する力を獲得する。また本学の「建学の思想」についての理解を深める。
授業計画	1.　はじめに
	2.　建学の思想　本学園の歴史
	3.　建学の思想　勇気・親和・愛・知性　―筑紫の心―
	4.　食思想の様々　道元①　その生涯と著作
	5.　食思想の様々　道元②　「食は諸法の法なり」
	6.　食思想の様々　道元③　「五観の偈」
	7.　食思想の様々　道元④　「典座教訓」
	8.　食思想の様々　道元⑤　「喜心、老心、大心」
	9.　食思想の様々　貝原益軒①　その生涯と著作
	10.　食思想の様々　貝原益軒②　天地父母の大恩と養生
	11.　食思想の様々　貝原益軒③　養生の要
	12.　食思想の様々　貝原益軒④　天寿
	13.　食思想の様々　貝原益軒⑤　飲食の心得
	14.　食思想の様々　水野南北　慎食と禍福
	15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業中に指示した参考図書を読むことが望ましい。
使用テキスト	教科書は使用しないが、適宜資料等を配布する。
参考書（参考資料等）	『九州栄養福祉大学の教育思想』(非売品)。その他参考図書は授業中に適宜指示する。
その他 (受講生への要望等)	自分で考える姿勢が大切です。
教員 e-mail アドレス	yoshida@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">食と健康</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">三嶋　敏雄</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200001</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	外食や出来あいの弁当・サプリメントといった食生活をする人が少なくない昨今。この授業では生活の基本である「食」の心と体の健康に対しての重要性について学びます。健康に良い食習慣に関する基礎的事項を身につけることを目標とします。
授業の到達目標	①リハビリにかかわる仕事につく上での、食の重要性を理解する。 ②リハビリにかかわる仕事につく上での、食の安全性を理解する。 ③食生活と健康の関わりを理解する。 ④栄養素の種類とはたらきを理解する。 ⑤生体調節機能成分の働きを理解する。
授業計画	1.　食生活と健康（健康とは　他） 2.　栄養素の種類と働き（糖質） 3.　栄養素の種類と働き（脂質） 4.　栄養素の種類と働き（タンパク質） 5.　栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル） 6.　食品のおいしさと化学成分（呈味成分、香気成分、色素、物性） 7.　生体調製機能成分（食物繊維、オリゴ糖、抗酸化成分） 8.　各種食品と生体調節機能 9.　保健機能食品（特定保健用食品、栄養機能食品他） 10.　栄養素の消化と吸収 11.　代謝（基礎代謝、エネルギー代謝） 12.　食品の安全性（食品添加物、化学性食中毒他） 13.　食品の安全性（細菌性食中毒） 14.　食生活と生活習慣病（糖尿病他） 15.　食生活と生活習慣病、まとめ
成績評価の方法	期末テスト（100%）により、評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	①準備としては、特に無い。 ②事後として、授業で出た重要語句の整理と暗記をする。
使用テキスト	なし
参考書（参考資料等）	なし
その他 (受講生への要望等)	食品は人が生きて行くうえで欠かせないものであり、健康な生活を送るには良い食習慣を持つことが重要です。リハビリに携わる上でも食の知識は大切ですので、食と健康に関する基礎的知識を身につけてください。
教員 e-mail アドレス	mishima@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">栄養カウンセリング</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">松本　明夫</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200002</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	食事療法を受けなければならない患者は、長い年月をかけてつくりあげられた食習慣を大きく変える必要に迫られる。これは簡単にできることではない。こうした場面では、まず患者につらく苦しい胸のうちをじっくり語ってもらって、感情的な問題を解決する必要がある。そのためには、そうした話をしっかり傾聴してくれて、パートナーとして一緒に治療に取り組んでくれる栄養カウンセラーの存在が必要である。そこで、本講義では栄養カウンセラーが身につけるべき基本的知識と技能の習得を目的とする。
授業の到達目標	1) 栄養カウンセリングの基本的態度と技法を身につけ、栄養教育に活用することができる。 2) クライエントとの直接的な接遇の要点を理解し、適切なコミュニケーションを行うことができる。 3) 拒食症、過食症、アルコール依存症者の心理を理解し、クライエントを具体的に支援することができる。 4) 行動科学の諸理論に関する知識を身につけ、食行動変容に役立てることができる。
授業計画	1.　栄養カウンセリングとは何か？ 2.　栄養カウンセリングの実際 3.　患者とのコミュニケーションについて 4.　精神分析療法について 5.　来談者中心療法について 6.　個人の行動変容に関する理論(1)　刺激－反応理論など 7.　個人の行動変容に関する理論(2)　トランスセオレティカルモデルなど 8.　個人間の行動変容に関する理論 9.　集団や社会の行動変容に関する理論 10.　行動変容技法の応用(1)　刺激統制など 11.　行動変容技法の応用(2)　認知再構成など 12.　拒食症について 13.　過食をコントロールするためのプログラム 14.　飲酒のコントロール 15.　まとめ
成績評価の方法	コメントシート、レポート、期末テストをもとに成績評価を行う。評価の比率は、コメントシート（30%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）とする
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事後に復習に励んで下さい。レポート課題は次回の講義時に担当教員に提出して下さい。
使用テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書（参考資料等）	「演習栄養教育　第6版」医歯薬出版株式会社刊 「イラスト栄養教育・栄養指導」東京教学社刊 「ライフスタイル療法Ⅰ　第3版」医歯薬出版株式会社刊
その他 (受講生への要望等)	本講義では栄養学の知識（望ましい食生活の在り方）については扱いません。行動科学とカウンセリングを栄養指導に応用する方法について講じます。
教員 e-mail アドレス	a-matsumoto@knwu.ac.jp

授業科目名	北九州市のノーマライゼーション（ESD）						
担当者名	大丸　幸・石橋　敏郎・深町　晃次						
科目コード	1200071	授業形態	講義				
学　　年	1	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	当大学のテーマとして、　地域住民が障害の有無や年齢、性別等にかかわらず互いに支えあい、住みよい街づくりをめざすために「ノーマライゼーション」を掲げている。本演習では、1970 年代より全国にさきがけ、ノーマライゼーションの実践に携わってきた多くの先輩セラピストが在職する本市において、その想いを近隣の学生とともに学び、継承し発展させることを目標とする。
授業の到達目標	リハビリテーションが目指すノーマライゼーションとは、単に身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害と分野別に区切られた世界ではなく、どのような状況にあっても対象者が「その人らしい生活」を続けていけるよう支援していくことを基本理念としている。ここでは「お互い様」「相手の立場や状況の発見」等々を知り合える体験から、北九州市における「ノーマライゼーションの地域づくり」をともに考えていく。
授業計画	1.　世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する①　ESD とは？
	2.　世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する②　グループ演習
	3.　世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する③　ワークショップ
	4.　子孫たちから借りている地球①　ダイアログ
	5.　子孫たちから借りている地球②　話題提供
	6.　子孫たちから借りている地球③　ワークショップ
	7.　北九州市におけるノーマライゼーションの実際①　話題提供
	8.　北九州市におけるノーマライゼーションの実際②　ワークショップ
	9.　北九州市におけるノーマライゼーションの実際③　グループ演習
	10.　豊かに楽しく食べる事①　ダイアログ
	11.　豊かに楽しく食べる事②　グループ企画
	12.　豊かに楽しく食べる事③　ワークショップ
	13.　チーム対抗の発表会①　発表準備
	14.　チーム対抗の発表会②　振り返り
	15.　チーム対抗の発表会③　まとめ
成績評価の方法	「まちなか ESD センターにおける共同授業の実施および単位互換に関する包括協定書」に基づき、講義への取組み（50%）、最終レポート（50%）で評価する。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	各回、次回講義への課題が提出されるため 2 時間程度の事前学修が必要となる。
使用テキスト	各回講義にて適宜、資料配布がなされる。
参考書（参考資料等）	適宜、参考書の紹介がなされる。
その他(受講生への要望等)	本講義は ESD「持続可能な開発のための教育」（Education for Sustainable Development）の一環として、北九州市内 10 大学が連携して取り組む持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目的とした講座です。学生間交流による幅広い学びが期待されます。
教員 e-mail アドレス	大丸：ohmaru@knwu.ac.jp　　石橋：t-ishiba@knwu.ac.jp 深町：fukamachi@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">北九州市のノーマライゼーション（ESD）</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">大丸　幸・石橋　敏郎・深町　晃次</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200088</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	当大学のテーマとして、　地域住民が障害の有無や年齢、性別等にかかわらず互いに支えあい、住みよい街づくりをめざすために「ノーマライゼーション」を掲げている。本演習では、1970年代より全国にさきがけ、ノーマライゼーションの実践に携わってきた多くの先輩セラピストが在職する本市において、その想いを近隣の学生とともに学び、継承し発展させることを目標とする。
授業の到達目標	リハビリテーションが目指すノーマライゼーションとは、単に身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害と分野別に区切られた世界ではなく、どのような状況にあっても対象者が「その人らしい生活」を続けていけるよう支援していくことを基本理念としている。ここでは「お互い様」「相手の立場や状況の発見」等々を知り合える体験から、北九州市における「ノーマライゼーションの地域づくり」をともに考えていく。
授業計画	1.　リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会①　話題提供
	2.　リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会②　所外演習
	3.　リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会③　ワークショップ
	4.　今、世界で起こっていること　①　話題提供
	5.　今、世界で起こっていること　②　ゲスト紹介
	6.　今、世界で起こっていること　③　ワークショップ
	7.　まちのにぎわいを自分たちの手でつくる①　グループ演習
	8.　まちのにぎわいを自分たちの手でつくる②　学外演習
	9.　まちのにぎわいを自分たちの手でつくる③　グループ創作
	10.　生物多様性をのぞいてみる　①　話題提供
	11.　生物多様性をのぞいてみる　②　学外演習
	12.　生物多様性をのぞいてみる　③　ワークショップ
	13.　微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」①　発表準備
	14.　微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」②　振り返り
	15.　微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」③　まとめ
成績評価の方法	「まちなか ESD センターにおける共同授業の実施および単位互換に関する包括協定書」に基づき、講義への取組み（50%）、最終レポート（50%）で評価する。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	各回、次回講義への課題が提出されるため2時間程度の事前学修が必要となる。
使用テキスト	各回講義にて適宜、資料配布がなされる。
参考書（参考資料等）	適宜、参考書の紹介がなされる。
その他(受講生への要望等)	本講義はESD「持続可能な開発のための教育」（Education for Sustainable Development）の一環として、北九州市内10大学が連携して取り組む持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目的とした講座です。学生間交流による幅広い学びが期待されます。
教員 e-mail アドレス	大丸：ohmaru@knwu.ac.jp　石橋：t-ishiba@knwu.ac.jp 深町：fukamachi@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">社会福祉と地域ケア</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">田中　保尚</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200013</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	近年注目されている「地域ケア」と関連づけながら、社会福祉の形成過程や現在の課題を講義していく。社会福祉における政策論や援助論を解説するが、現場での事例や対応を紹介して理解を深めるように努めていく。 また、授業の進行に合わせて資料などを配付する。
授業の到達目標	1．社会福祉の形成や意義、制度や施策について理解する。 2．援助活動の基礎的方法論を理解する。 3．保健・医療・福祉の専門職、行政や地域の資源（人材や仕組み）が協力して住民を支えている状況を理解する。
授業計画	1.　社会福祉とは
	2.　社会福祉の援助活動
	3.　社会福祉の個人援助と集団援助
	4.　社会福祉の政策
	5.　福祉国家の形成　（イギリスの歴史的展開を中心に）
	6.　日本の社会福祉のあゆみ（戦前：慈善事業から社会事業へ）
	7.　日本の社会福祉のあゆみ（戦後：急速な少子高齢化と福祉制度改革）
	8.　社会福祉の運営　（対象）
	9.　社会福祉の運営　（行財政）
	10.　社会福祉の運営　（国、地方自治体の役割）
	11.　社会福祉の運営　（サービスを提供する仕組み）
	12.　地域包括ケアシステムとは
	13.　福祉のマンパワー
	14.　社会福祉の理念　（ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ）
	15.　社会福祉の理念　（エンパワメント）
成績評価の方法	・定期筆記試験を実施。授業の最終講義までに、提出された課題レポートで評価する。 ・評価は、定期試験（90%）、レポート（10%）の割合で行う。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・毎回、授業までにテキストを講義の項目の部分を読んでおくこと。 ・講義時に提供する事例について、各自で検討しておくこと。
使用テキスト	・社会福祉をつかむ【改訂版】（共著　稲沢公一、岩崎晋也）有斐閣（2014 年）
参考書（参考資料等）	・社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
その他 (受講生への要望等)	・講師に積極的に疑問点を提起すること。受講生の質問に対し回答します。 ・行政機関、高齢者施設、障害者施設。児童施設などの施設や在宅サービス事業者を、ボランティア活動やインターンシップとして訪問し、保健福祉の現場の様子を体験することを推奨する。
教員 e-mail アドレス	tanakaya1951@clock.ocn.ne.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">食と農園</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">佐野　幹剛・室井　由起子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200093</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">通年（前期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえるために、学生は土づくりから始め、畑を耕し、種をまき、草をとり、肥料を与えるといった実学教育の中で、植物の生命力、仲間とのふれあい、自然の恵みに対する感謝、作物に関する知恵を学ぶ。また、学生は、畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について学ぶ。
授業の到達目標	・農園作業を体験し、作物の成長までの過程を理解することができる。 ・作業に伴う身体的精神的特性を理解することができる。
授業計画	1.　前期コースオリエンテーション、農園実習について
	2.　夏野菜を育てよう①　土づくり、苗床づくりの基本
	3.　夏野菜を育てよう②　土づくり、苗床づくりと身体的作業負担について
	4.　夏野菜を育てよう③　種蒔きの準備
	5.　夏野菜を育てよう④　種蒔き
	6.　夏野菜を育てよう⑤　サツマイモ畑づくりの準備
	7.　夏野菜を育てよう⑥　サツマイモ畑づくり
	8.　夏野菜を育てよう⑦　サツマイモ畑の苗床づくりの準備
	9.　夏野菜を育てよう⑧　サツマイモ畑の苗床づくり
	10.　夏野菜を育てよう⑨　サツマイモの苗植え準備
	11.　夏野菜を育てよう⑩　サツマイモの苗植え
	12.　夏野菜を育てよう⑪　畑のメンテナンス(除草作業)
	13.　夏野菜を育てよう⑫　畑のメンテナンス(追肥、害虫忌避)
	14.　夏野菜を育てよう⑬　夏野菜の収穫、野菜の栄養成分、栄養価について
	15.　まとめ
成績評価の方法	「農園作業と身体的負担について」の課題レポートと種蒔き祭の体験レポートを総合的に判断し評価します。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	「自分たちが積極的に野菜を育てる」という意識が重要です。授業外の時間に野菜に水を撒いたり、草をとったりしてください。
使用テキスト	適宜プリントを配布します。
参考書（参考資料等）	九州栄養福祉大学研究紀要第 12 号 「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」p65-74
その他 (受講生への要望等)	作業ができる服装で参加してください。特に、靴は汚れますので長靴を各自用意してください。また、軍手、タオル、水分なども用意しておくと便利です。受講生が多い場合は、抽選にします。
教員 e-mail アドレス	佐野：sano@knwu.ac.jp　室井：muroi1120@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">食と農園</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">佐野　幹剛・室井　由起子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200093</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">通年（後期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえるために、学生は土づくりから始め、畑を耕し、種をまき、草をとり、肥料を与えるといった実学教育の中で、植物の生命力、仲間とのふれあい、自然の恵みに対する感謝、作物に関する知恵を学ぶ。また、学生は、畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について学ぶ。
授業の到達目標	・農園作業を体験し、作物の成長までの過程を理解することができる。 ・畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について理解することができる。
授業計画	1.　後期コースオリエンテーション 2.　秋・冬野菜を育てよう①　土づくり、苗床づくりの基本 3.　秋・冬野菜を育てよう②　土づくりの実際 4.　秋・冬野菜を育てよう③　苗床づくりの実際 5.　秋・冬野菜を育てよう④　種蒔きの基本 6.　秋・冬野菜を育てよう⑤　種蒔きの準備 7.　秋・冬野菜を育てよう⑥　種蒔き 8.　秋・冬野菜を育てよう⑦　畑のメンテナンス(除草作業) 9.　秋・冬野菜を育てよう⑧　畑のメンテナンス(追肥、害虫忌避) 10.　秋・冬野菜を育てよう⑨　サツマイモのつる返し 11.　秋・冬野菜を育てよう⑩　サツマイモの収穫の準備 12.　秋・冬野菜を育てよう⑪　サツマイモの収穫の実際と精神作用について 13.　秋・冬野菜を育てよう⑫　野菜の収穫、野菜の栄養成分について 14.　秋・冬野菜を育てよう⑬　野菜の収穫、野菜の栄養価について 15.　まとめ
成績評価の方法	「野菜の収穫と精神作用について」、「野菜の持つ栄養成分と栄養化について」2つの課題レポートと収穫感謝祭の体験レポートを総合的に判断し評価します。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	「自分たちが積極的に野菜を育てる」という意識が重要です。授業外の時間に野菜に水を撒いたり、草をとったりしてください。
使用テキスト	適宜プリントを配布します。
参考書（参考資料等）	九州栄養福祉大学研究紀要第 12 号 「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」p65-74
その他 (受講生への要望等)	作業ができる服装で参加してください。特に、靴は汚れますので長靴を各自用意してください。また、軍手、タオル、水分なども用意しておくと便利です。受講生が多い場合は、抽選にします。
教員 e-mail アドレス	佐野：sano@knwu.ac.jp　室井：muroi1120@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">医療人のための教育学</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">山田　千秋</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200009</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	人間の相互理解の基本的要件は、相互理解を求める情熱と、それを理解し伝えるためのコミュニケーションの力である。言うまでもなく教育とは人と人との関わりの中に存在するものであり、人と人との関わりそのものでもある。したがって本講義では、学校教育等の狭義の教育論の展開に留まることなく、広義の教育理論の理解や哲学的思考を土台とした「人間研究」によって、医療人を目指すものとしての見識を高めることに研究・学習の視座を置くものである。何千年にわたる先人たちの教育思想や哲学に触れ、その理解が受講生各自の自己啓発および日々の自己表現の一助となることを目標としている。 また人間研究においては、学習者自身にその研究プロセスの実感と喜びがともなうことが肝要であるため、本講では出来得る限り各自が身近で具体的な事例を掘り起こすことに留意し、理論的な理解を自らの具体的な教育論や人間論として再構築できる表現力の習得にまで高めることを目指したい。通常極めて日常的に用いられている「教育」という概念のもつ多様な人間学的視点や哲学的意味を再認識することによって、幻想としての社会通念や停滞しがちな日常性を打破する人間力の獲得に繋がることを期待している。
授業の到達目標	本講においては、医療人として人間のとらえ方を学ぶことを基本的な目的とし、人と人の関わり方の基本ともいえる教育的作用の研究を土台にその根本的原理と基礎理論をじっくり探求しながら、人間研究に対する哲学的な思考を身に付けていくことを目標にしている。また、各自の研究姿勢や表現方法が、できる限り論理的でありかつ具体的で現実的な事象と結びついたものになること目指す。
授業計画	1.　教育学の概要：教育の意味 2.　人間と教育：人格の形成過程と教育愛 3.　人間と社会：日常性と行動規範 4.　人間と学校：集団と教育作用 5.　教育の目的：人間形成と職業 6.　教育の哲学：人間性と教育思想 7.　教育の思想：日本と世界の教育史 8.　教育観と人生観：人生と幸福 9.　教育における倫理とモラル：正義と善悪 10.　医療人のモラル：教育臨床学 11.　教授法と学習：教授と学習 12.　言語と思考：哲学的思考と自己表現 13.　教育における評価：評価の在り方と方法 14.　職業としての医療：教育及び医療関連法規 15.　総　括（医療人としての決意）
成績評価の方法	評価項目と評価の割合： 受講姿勢（10%)、自主的発問やテーマ研究のレポート提出（10%)、講義中に配布する資料を含めた全授業内容を整理した「授業ノート」の作成（30%)、定期試験（50%)
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	講義内容についての事前準備はテキストにおける対象予定箇所の一読を必要とし、事後学習は、「授業ノート」の整理・作成をこれにあてること。
使用テキスト	＊毎回プリント教材を併用する。
参考書（参考資料等）	＊参考図書については随時講義中に紹介。（副読本「語りきれないこと」鷲田清一著　角川 one テーマ 21 角川学芸出版 1912、「臨床哲学がわかる事典」(田中智志　高陵社書店 2012.11「次世代の教育原理」中田正浩編著　大学教育出版 1912、「高校生と大学一年生のための倫理学講義」　藤野寛　ナカニシヤ出版 2011.4 他）
その他 (受講生への要望等)	授業の進め方については、プリント教材を併用し、毎回の講義内容の習得・蓄積に努める。欠席については事前に届出をし、当該講義の内容について次週までに指示された方法で必ず補うこと。
教員 e-mail アドレス	yamada@hcc.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">人間関係の心理</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">松本　明夫</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1000004</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">心理学は「人間行動の科学」と定義される。行動の法則を定立し、それをもとに行動を記述・説明・予測・制御することを目的としている。そして、その研究分野は多岐にわたっている。パーソナリティとその成り立ち、人生における心の成長と変化の過程、対人関係の始まりと展開、心の悩みや病を抱える人に対する心理学的な理解と援助など多くのテーマがある。そこで、本講義では医療従事者にとって役に立つ心理学の知識を精選し、主に人格・発達・社会・臨床心理学について講じ、人間理解を深めるための一助としたい。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">1)人間関係の心理に関する知識を身につけ、他者と良好な人間関係を築く。
2)人格形成に関する基礎的な理論を理解し、心理検査を体験することにより自己理解を深める。
3)アサーショントレーニングやアクティブリスニングに関する知識と技能を身につける。
4)ストレスマネージメント等に関する知識や技能を身につけ、自らの心のセルフケアを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　心理学の定義・歴史・方法・分野</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　パーソナリティの類型論と特性論</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　エゴグラムまたは新性格検査実習、TST 実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　バウムテスト実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　ゲゼル・ワトソン・フロイトの発達理論</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　エリクソン・ピアジェ・バンデューラの発達理論</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　アクティブリスニング実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　アサーショントレーニング実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　対人認知、説得的コミュニケーション、同調と服従</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　職場におけるコミュニケーション・リーダーシップ論</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　カウンセリングとサイコセラピー</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　ストレスマネージメント実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　リラクゼーション・自律訓練法・フォーカシング実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　認知療法実習</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　まとめ</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">コメントシート、レポートをもとに成績評価を行う。評価の比率は、
コメントシート（40%）、レポート（60%）とする。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">毎回の講義終了後に各自で復習を行い、レポート作成に向けて自己分析を深めて下さい。レポート課題は次回の講義時に担当教員に直接提出してもらいます。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">適宜、プリントを配布します。</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">なし</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">レポートはプライバシーに関わる内容も含まれますので、記述できる範囲で書いてもらって結構です（レポートについては担当教員以外が見ることはありません)。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">a-matsumoto@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">医学倫理学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">大峯　三郎</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200012</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	現在の医療は従来のパターナリズム的医療概念から患者権利の尊重に基づくインフォームドコンセント、カルテ開示など患者を中心とする医療への転換が行われており、これは大きな医療改革の一つと言える．このような背景において PT,OT は専門職としての資質と医療人としての倫理観に基づく強い自己規制が医療現場では今まで以上に強く求められる．本授業では、患者の権利やインフォームドコンセントを背景としてさまざまな視点から医療現場で必要となる倫理観について学習する．
授業の到達目標	①医療における倫理観について理解することができる． ②医療における患者の権利やインフォームドコンセントについて理解できる． ③医療現場における倫理観に基づく自己規制について事例を通して理解できる．
授業計画	1.　倫理学総論（シラバスの説明、オリエンテーションを含む） 2.　バイオエシックス（生命倫理学、定義と領域） 3.　健康と QOL の概念（定義と評価） 4.　疾病と障害（不健康の概念、ICF の紹介） 5.　患者の権利①（患者の権利意識の芽生えと改革） 6.　患者の権利②（人間の尊厳、アドボカシー） 7.　インフォームドコンセント①歴史的背景と意義について 8.　インフォームドコンセント②インフォームドコンセントと信頼関係 9.　カルテ開示①カルテ開示の背景と問題点 10.　カルテ開示②カルテ開示の実際 11.　医療における自己規制 12.　医学研究と倫理①研究の定義と倫理綱領の歴史 13.　医学研究と倫理②生命倫理における研究方法論 14.　職業倫理（専門職の定義、職業倫理ガイドライン） 15.　医療事故と医療訴訟（法的責任の所在、医療過誤、インシデント）
成績評価の方法	定期試験（100%）で成績評価を行う．
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	配付された資料に事前に目を通しておき、内容に関連する情報収集を行っておくこと．授業内容については復習し、疑問点については質問をすること（研究室２．オフィスアワー等の利用を勧める）
使用テキスト	なし
参考書（参考資料等）	授業内容に沿ったプリント資料を前週に配布する．
その他 (受講生への要望等)	医学倫理に関する新しい情報についてはメディア（新聞、HP など）等を通して関心を常に持つように努める事.
教員 e-mail アドレス	ohmine@knwu.ac.jp

授業科目名	医療人のための科学論						
担当者名	岩田　一男						
科目コード	1200085	授業形態	講義				
学　　年	1	開講期	後期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

項目	内容
授業の概要と方法	科学的判断をめぐる様々な歴史的・現代的事例を通じて、科学とは何かを考える。例えば、身近な事例から安全性と危険性、有用性と経済性など異なる方法から、学生同士で議論を展開する。また、科学的思考方法を学び、演習する。例えば、論理展開、事象の構造化などについて学び、実際に演習を行う。 この授業は、講義形式を取り入れるものの、グループでの活動形式（ディスカッション）に時間を割く。
授業の到達目標	・科学技術（特に社会とのかかわりの強い側面）についてきちんと考えるためのスキルや知識を身につける。 ・科学的にものを考えることの習慣や科学的センスを、（日常に接している身近なところから）養うコツをつかむ。
授業計画	1.　ガイダンス、クリティカルシンキングとは
	2.　「遺伝子組換え作物」についてディスカッション
	3.　議論を特定するスキルほか
	4.　「脳神経科学の実用化」についてディスカッション
	5.　三段論法と妥当な推論スキルほか
	6.　「喫煙を認めるか否か」についてディスカッション
	7.　暗黙の前提の明示化スキルほか
	8.　中間まとめ
	9.　「血液型性格判断」についてディスカッション
	10.　定義の明確化スキルほか
	11.　「地震の予知」についてディスカッション
	12.　確証バイアスと利用可能性バイアスのスキルほか
	13.　「動物実験の是非」についてディスカッション
	14.　二重基準と普遍化可能性テストのスキルほか
	15.　まとめ
成績評価の方法	グループでの貢献（30%）、成果発表内容（30%）、確認テスト（40%）で総合評価する。（グループ内の学生評価、グループ外の学生評価、教員評価など多角度から捉える）
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	グループ学習を円滑にするため、テキストの指定箇所を事前に読んでおく。
使用テキスト	「科学技術をよく考える」伊勢田哲司・戸田山和久ほか　名古屋大学出版。
参考書（参考資料等）	必要に応じて授業中に案内する。
その他(受講生への要望等)	なし
教員 e-mail アドレス	k-iwata@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">人間と環境</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">大峯　三郎・奥村　チカ子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200003</td><td>授業形態</td><td colspan="4">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="4">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

Note: the last header "作業療法士選択必修" column:

必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
	○			○

授業の概要と方法

疾病・事故・加齢等に伴う心身機能の障害やそれらから起こる生活障害等により生じるハンディキャップはヒトの身体機能・風習・生活文化・社会組織・物理的・経済的制度等の多様な環境によって個別に異なる形で現れる。生活環境の多様性を理解することにより，支援者のあり方を理解することを目的とする。

授業の到達目標

①生活環境と障害の関係を説明できる。
②障害の有無に関わらず共存するための環境とは何かを説明できる。
③生活障害の概念と生活支援の在り方について理解できる。

授業計画

1.	オリエンテーション、人を取り巻く環境を考える	（奥村）
2.	生活環境の概念	（大峯）
3.	機能障害と生活障害	（大峯）
4.	生活障害の評価について	（大峯）
5.	老化と身体機能	（大峯）
6.	住環境と機能障害	（大峯）
7.	住環境と ADL	（大峯）
8.	移動と環境	（大峯）
9.	障害の概要と共生を阻む障壁	（奥村）
10.	共生社会を目指す施策	（奥村）
11.	バリアフリーとユニバーサルデザイン	（奥村）
12.	グループ討議：テーマの選択・決定	（奥村）
13.	グループ討議：テーマごとにグループ内討議	（奥村）
14.	グループ討議：発表、全体討議	（奥村）
15.	生活と環境の関係総括とまとめ	（奥村）

成績評価の方法

課　題　（50%）：講義関連のニュースに関するレポート、グループ発表など
定期試験（50%）

授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)

1 日 1 回、新聞または TV、ラジオなどのニュースに目を通し、本講義に関連する時事問題に関心を持つ。

使用テキスト

適宜資料を配布する。

参考書（参考資料等）

適宜紹介する。

その他(受講生への要望等)

討議に積極的に参加してください。

教員 e-mail アドレス

奥村：okumura@knwu.ac.jp　　大峯：ohmine@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">文化人類学</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">塩田　光重</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200072</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「文化人類学」は鉄・火・水と物流の応用人類学の視点で、人類が鉄と共に歩み創り継承している生活の仕組みを、鉄との熱い戦いを通して総合的に学ぶ。自然の対局としての人間の営みから、人類を研究しようとするものである。探検し、その地に固有の生活の解明に取り組む。私は鉄の「ものづくり」に携わり、その過程でリサイクル会社 5 社の設立に参画事業展開、マレーシア物流現地法人設立、国際物流フォワーダー事業展開など、必要に応じてその活動のフロンティアを拡げて来た。人類学が取り組む対象は拡大、社会問題を扱う応用人類学の分野が成長し、急速に多様化が進みつつある。日本は今、前人未踏の超高齢化社会、少子化社会へ向かって、世界の最先端を走っており、食と健康、リハビリテーション、保健、福祉、介護の諸問題は喫緊の対応を余儀なくされている。これら諸問題に対し、人類学的に見る素養を養うことを目標とする。
授業の到達目標	1）人間は命を害するものに対抗するため社会規範を作ってきたことを理解する。 2）自ら作り出した社会規範により、人間は統制されることを説明できる。 3）人間の多様性を認識できる。 4）フィールドワークという人間探検の研究法を理解する。
授業計画	1.　人類の移動と共生 2.　人種は存在するのか 3.　鉄と人類 4.　「銃・病原菌・鉄」を読む 5.　植民地獲得競争 6.　それぞれの文化をどうとらえるか。 7.　個人 8.　家族のかたち 9.　通過儀礼 10.　死への対応 11.　社会のかたち 12.　持続可能な社会へ 13.　国際物流 14.　グローバル化の中で日本を考える 15.　フィールドワーク
成績評価の方法	社会を形づくる規範とは何か、自ら考え理解することに取り組む学習姿勢が重要である。提出レポートと併せて総合的に評価する。 学習姿勢（50%）とレポート（50%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	資料を授業の前に配布するので、良く読んで自ら考えて講義に臨むこと。 また、授業の中で参考図書を紹介するので自ら読んで思索を深めてほしい。
使用テキスト	講義中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	「甘えの構造」土居健郎 弘文堂、「銃・病原菌・鉄」ジャレド・ダイアモンド 草思社、「夜と霧」ビクトール・E・フランクル みすず書房、「菊と刀」ルース・ベネディクト 講談社、「タテ社会の人間関係」中根千枝 講談社
その他 (受講生への要望等)	人は誕生し、それぞれの社会に適合した行動様式を学習していく。自分はどんなルールに従って行動しているのか、例をいくつか考えてみよう。
教員 e-mail アドレス	mitprinshiota@gmail.com

授業科目名	医療人のための法学							
担当者名	田中　保尚							
科目コード	1200094	**授業形態**	講義					
学　　年	1	**開講期**	後期					
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修	
				○			○	

授業の概要と方法	民法総則を中心に、私法の基本的な考え方を講義していく。 日常生活や仕事の中で起こる事例を、法律と関連付けながら説明する。
授業の到達目標	①我が国の法体系の概要を理解する。 ②民法総則を中心に学びながら私法の基礎的な考え方を理解する。 ③保健福祉現場での法律の知識の必要性を理解する。
授業計画	1.　民法の歴史と構成
	2.　民法の基本原則
	3.　人　能力者制度
	4.　人　不在者財産管理制度
	5.　法人制度
	6.　物　権利及び権利変動の公示
	7.　物　従物及び果実
	8.　契約
	9.　法律行為
	10.　法律行為と意思表示　Ⅰ
	11.　法律行為と意思表示　Ⅱ
	12.　代理
	13.　無効及び取り消し
	14.　条件及び期限
	15.　時効
成績評価の方法	①定期試験を実施。 ②授業の最終講義までに提出された課題レポートで評価する。 ③評価は、定期試験（90%）、レポート（10%）で行う。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・毎回、授業までにテキストの講義項目の部分を読んでおくこと。 ・教科書の中の説明にある条文を事前に確認しておくこと。
使用テキスト	・民法がわかる民法総則【第３版】（著者　滝沢昌彦）弘文堂　2015 年
参考書（参考資料等）	・平成 28 年度版　模範六法（三省堂） 又は、平成 28 年度版　社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
その他 (受講生への要望等)	・講師に積極的に質問すること。必ず回答します。 ・ボランティア活動やインターンシップなどで保健福祉の現場を体験することを推奨します。
教員 e-mail アドレス	tanakaya1951@clock.ocn.ne.jp

授業科目名	基礎生物学						
担当者名	平川　輝行						
科目コード	1000006	授業形態	講義				
学　　年	1	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	本講義は現代生物学の知見に裏打ちされた生命観の基盤を形成することを目標とする。そのために、個体レベルで営まれる生命現象のしくみを明らかにしてきた実験生物学の概要を、ホメオスタシスの概念を確立したキャノンの著書を教本として解説しながら組み立てていきたい。
授業の到達目標	解剖学・生理学などの基礎医学科目の理解力を向上させるために、生物学的表現形式・図表による表現形式の特徴を学び、さらに論理的分掌に対する読解力の増強をはかる。
授業計画	1.　からだを満たしている液質
	2.　血液やリンパ液を良好な状態に保つからだの自衛機構
	3.　物質の供給を確保する手段としての渇きと飢え
	4.　血液中に含まれている水の量の恒常性
	5.　血液中に含まれている塩分の量の恒常性
	6.　血液中の糖の恒常性
	7.　血液中のタンパク質の恒常性
	8.　血液中の脂肪の恒常性
	9.　血液中のカルシウムの恒常性
	10.　充分な酸素の供給を維持すること
	11.　血液がつねに中性に維持されていること
	12.　体温の恒常性
	13.　生物に自然に備わる防衛手段
	14.　からだの構造と機能の安全性の限界
	15.　神経系の二つの大きな区分とその一般的な機能
成績評価の方法	レポート（75%）、授業態度（25%）
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	「解剖学Ｉ」、「生理学Ｉ」で学習している内容を復習しておくこと。
使用テキスト	「からだの知恵」（講談社学術文庫）
参考書（参考資料等）	なし
その他(受講生への要望等)	積極的に参加すること。
教員 e-mail アドレス	質問は講義中または、講義終了後教室にて受け付けます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">基礎物理学</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">田尾　悟</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200004</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	理学療法や作業療法には科学的根拠が必要とされています。これらを学び臨床現場で業務を行っていく中で、物理学の基礎的知識は必要となります。生活の中で起こっていたり、利用されたりしている“物理的事象”に着目しながら、講義を進めていきます。
授業の到達目標	理学療法、作業療法を行うにあたって必要な物理学（力、運動、電気、磁力、熱、音、波など）を理解する。
授業計画	1.　テコの原理 2.　定滑車と動滑車、車軸 3.　運動と速度、加速度 4.　力のベクトル 5.　重力、作用・反作用 6.　三角関数、摩擦係数 7.　パスカルの法則 8.　光線の進み方 9.　比熱、熱伝導、熱の伝わり方 10.　オームの法則（電圧、電流、抵抗） 11.　磁界 12.　周波数 13.　ジュールの法則 14.　波の伝わり方、波の増幅 15.　ドップラー効果
成績評価の方法	平常点（10%）、定期試験（90%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業中に次の講義予定を連絡し、予習復習、練習問題を解いておくことを指示する。
使用テキスト	教科書：物　理（東京書籍）
参考書（参考資料等)	必要に応じてプリントを配布する。
その他 (受講生への要望等)	①これまでに物理学に接する機会がなかった学生も理解できるようにゆっくりとした進度で講義を進めていきます。 ②高等学校において学習した数学Ⅰの内容は理解しておくこと。 ③講義内容は資料に書き込むのではなく、ノートに記載していくこと。必ず復習を行うこと。
教員 e-mail アドレス	講義終了後 10 分間は葛原キャンパス講師控室にて待機

授業科目名	基礎化学						
担当者名	南　育子						
科目コード	1000007	**授業形態**	講義				
学　　年	1	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	化学は自然現象を理解するために必須の知識である。本講義では、大学における化学を学ぶ上で土台となる、基礎的な知識を理解し身につけることを目標とする。
授業の到達目標	大学での化学を学ぶために必要な、基礎的な概念を理解する。自然現象を化学として説明するための、化学式、反応式、計算を独力であらわせるようになる。
授業計画	1. 第１編　物質の構成粒子とその結合 Ⅰ物質の構成（物質の成分、原子、電子配置）
	2. Ⅰ物質の構成（イオン、元素の周期表）
	3. Ⅱ粒子の結合（イオン結合とイオンからなる物質、共有結合と分子）
	4. Ⅱ粒子の結合（共有結合と分子、極性分子と電気陰性度、共有結合の結晶、金属結合と金属の結晶）
	5. Ⅲ粒子の相対質量と物質量（原子量・分子量・式量、物質量）
	6. Ⅲ粒子の相対質量と物質量（物質量）
	7. 第２編　物質の状態 Ⅰ物質の三態（拡散と粒子の熱運動、分子間力と三態の変化、物質の種類と物理的性質）　Ⅱ気体（気体の体積）
	8. Ⅲ溶液（溶液のしくみと溶解度、希薄溶液の性質）
	9. Ⅲ溶液（希薄溶液の性質） 第３編　物質の変化 Ⅰ化学反応式と熱化学方程式（化学反応式、反応熱）
	10. Ⅱ反応の速さと化学平衡（化学反応の速さ、反応の速さを変える条件、可逆反応と化学平衡、平衡状態） Ⅲ酸と塩基の反応（酸と塩基、中和反応）
	11. Ⅲ酸と塩基の反応（水の電離平衡と溶液の pH、塩）
	12. Ⅳ酸化還元反応（酸化・還元と電子の授受）
	13. Ⅳ酸化還元反応（酸化・還元と酸化数、酸化剤・還元剤）
	14. 第５編　物質の性質（2） 有機化合物の分類
	15. 天然有機化合物
成績評価の方法	授業態度（20%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）により判断する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。講義の度に課題として問題を出すので、自力で解けるよう復習すること。各自で問題集の自習をすること。
使用テキスト	なし
参考書（参考資料等）	なし
その他 (受講生への要望等)	特に高等学校で化学を履修していない学生は、講義の内容を習得する積極的な姿勢が望まれる。
教員 e-mail アドレス	mina@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">情報処理演習　I</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">岩田　一男</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200007</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">「情報処理演習Ｉ」と「情報処理演習Ⅱ」から構成されている。
「情報処理演習Ｉ」では、パソコンの基本操作、ワープロによる文書作成、プレゼンテーションソフトによるスライドの作成方法などを演習形式で学ぶ。
また、情報倫理や情報関係法について触れ、大学のみならずビジネス社会で必要不可欠なコンピュータリテラシーをトータルで身につける。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">・タイピングの基礎を習得する（50 字／分以上）。
・レポート作成、プレゼンにおける『表現的スキル』の基礎を身につける（ワープロ・スライド作成）。
・電子メールの利用、ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎知識を得る。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　ガイダンス、情報システム利用環境、タイピング</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　ネットワーク社会 1（電子メール、SNS、モバイル機器）</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　ネットワーク社会 2（モラル、セキュリティ、個人情報）</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　ネットワーク社会 3（知的財産権、著作権、潜む危険と対策）</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　基本的な文書作成</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　図表の作成と印刷</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　表現力をアップする機能と数式入力</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　長文レポート編集と校閲</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　ビジネス文章の書き方、『総合演習①』</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　基本的なプレゼンテーション作成</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　オブジェクト挿入と構成変更</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　特殊効果の設定と印刷</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　データ利用や共通スライドの設定とスライドショー</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　プレゼンテーションの流れ、『総合演習②』</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　まとめ、成果発表会</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">提出物など日常の受講状況（60%）、および確認テスト（40%）で総合評価する。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">概ね 1 週間単位で必ず提出しなければならない課題がある。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">「情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応」FOM 出版。
（情報処理演習Ｉ・Ⅱ共通）</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">必要に応じて授業中に案内する。</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">なし</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">k-iwata@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	情報処理演習 Ⅱ		
担 当 者 名	岩田　一男		
科目コード	1200008	授 業 形 態	演習
学　　　年	1	開　講　期	後期
単　位　数	1	履 修 方 法	（下表参照）

履修方法

必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
○			○	

授業の概要と方法	「情報処理演習Ⅰ」と「情報処理演習Ⅱ」から構成されている。 情報処理演習Ⅱでは、表計算ソフトの活用方法、データ分析の基礎を演習形式で学ぶ。 また、データサイエンスについて触れ、大学のみならずビジネス社会で必要不可欠なコンピュータリテラシーをトータルで身につける。
授業の到達目標	・タイピングの基礎を習得する（70 字／分以上）。 ・様々なデータを目的に沿って処理・分析するための『数量的スキル』の基礎を身につける（表・グラフ作成）。
授業計画	1.　ガイダンス、前期復習 2.　データ入力と表作成 3.　表の編集と印刷 4.　グラフの作成 5.　データベースの操作 6.　複数シートの操作と基本的な関数 7.　さまざまな関数 8.　表示形式と条件付き書式、『総合演習①』 9.　高度なグラフ作成 10.　ピボットテーブル 11.　データベースの活用 12.　マクロの作成 13.　データサイエンス 14.　データサイエンス（続き）、『総合演習②』 15.　まとめ、成果発表会
成績評価の方法	提出物など日常の受講状況（60%）、および確認テスト（40%）で総合評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	概ね 1 週間単位で必ず提出しなければならない課題がある。
使用テキスト	「情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応」FOM 出版。 （情報処理演習Ⅰ・Ⅱ共通）
参考書（参考資料等）	必要に応じて授業中に案内する
その他 (受講生への要望等)	なし
教員 e-mail アドレス	k-iwata@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">健康スポーツ科学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">野村　健</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200086</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	日常生活において定期的な運動を習慣づけ、生涯にわたって継続的かつ自主的に運動を行い、健康を維持することは極めて重要である。本講義では、スポーツに親しむきっかけづくりとなるようさまざまなスポーツを体験し、他人との協力、思いやりや協調性を育むことを目的とする。
授業の到達目標	1. 各種スポーツを実践できるようにし、身体を動かすことの楽しさや喜びを味わう。 2. 生涯にわたり健康や体力に配慮し、積極的に運動を実施する習慣を身に付ける。 3. 練習やゲーム時のマナーやルールを遵守する。
授業計画	1. オリエンテーション　授業内容の説明、ストレッチングの理論と実践 2. バレーボール１　基本的なルールと基本技術の習得 3. バレーボール２　ゲームの実践 4. ソフトボール１　基本的なルールと基本技術の習得 5. ソフトボール２　ゲームの実践 6. バドミントン１　基本的なルールと基本技術の習得 7. バドミントン２　ゲームの実践 8. フットサル１　基本的なルールと基本技術の習得 9. フットサル２　ゲームの実践 10. テニス１　基本的なルールと基本技術の習得 11. テニス２　ゲームの実践 12. バスケットボール１　基本的なルールと基本技術の習得 13. バスケットボール２　ゲームの実践 14. ドッジボール１　基本的なルールと基本技術の習得 15. ドッジボール２　ゲームの実践
成績評価の方法	授業態度・参加度（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	ケガ防止のため日頃からストレッチや適度な運動（体操、ウォーキング、ジョギングなど）を心掛けて下さい。
使用テキスト	なし
参考書（参考資料等)	必要に応じて資料を配布します。
その他 (受講生への要望等)	1. 運動に適した服装と体育館シューズを着用すること。 2. 怪我防止のためアクセサリー類は外すこと。
教員 e-mail アドレス	tnomura@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">実用英語の基礎　Ⅰ</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">川下　剛</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1000008</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	この授業では、“Because We Care：English for Healthcare Professionals”をテキストとして、医療現場で用いられる専門用語を英語で学習し、それに馴染むことを目標としています。授業では毎回、最初に医療用英単語の小テストを行います。次に、各項目の疾患症状に関する英語表現を説明し、症例に関する長文を読んでいきます。
授業の到達目標	① 医療用英単語を理解できる。 ② 病気の症状を英語で説明できる。 ③ 様々な症例に関する英文を読むことができる。
授業計画	1.　オリエンテーション
	2.　人体各部①
	3.　人体各部②
	4.　筋骨格系①
	5.　筋骨格系②
	6.　循環器系①
	7.　循環器系②
	8.　前半のまとめ
	9.　呼吸器系①
	10.　呼吸器系②
	11.　消化器系①
	12.　消化器系②
	13.　脳、神経、感覚系①
	14.　脳、神経、感覚系②
	15.　後半のまとめ
成績評価の方法	英単語の小テスト、授業への取組み姿勢、定期試験から総合的に評価します。評価の比率は、小テスト（30%）、授業への取組み姿勢（20%）、定期試験（50%）とします。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業計画に従って小テストを行うので、テスト範囲の英単語を予習してくること。説明された解説は次回までにすべて理解し、覚えておくこと。
使用テキスト	Because We Care：English for Healthcare Professionals Maki Inoue, Tadashi Ihara　CENGAGE Learning　2009
参考書（参考資料等）	オリエンテーションの際に指示します。
その他 (受講生への要望等)	辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。
教員 e-mail アドレス	kawashita@knwu.ac.jp

授業科目名	実用英語の基礎 Ⅱ						
担当者名	川下　剛						
科目コード	1000009	**授業形態**	演習				
学　　年	1	**開講期**	後期				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	この授業では、前期に引き続き、“Because We Care：English for Healthcare Professionals” をテキストとして、医療現場で用いられる専門用語を英語で学習し、それに馴染むことを目標としています。授業では毎回、最初に医療用英単語の小テストを行います。次に、各項目の疾患の症状に関する英語表現を説明し、症例に関する長文を読んでいきます。
授業の到達目標	① 医療用英単語を理解できる。 ② 病気の症状を英語で説明できる。 ③ 様々な症例に関する英文を読むことができる。
授業計画	1.　オリエンテーション
	2.　泌尿器系①
	3.　泌尿器系②
	4.　生殖器系①
	5.　生殖器系②
	6.　内分泌系①
	7.　内分泌系②
	8.　前半のまとめ
	9.　一次救命処置と二次救命処置①
	10.　一次救命処置と二次救命処置②
	11.　リハビリテーション①
	12.　リハビリテーション②
	13.　食事と栄養①
	14.　食事と栄養②
	15.　後半のまとめ
成績評価の方法	英単語の小テスト、授業への取組み姿勢、定期試験から総合的に評価します。評価の比率は、小テスト（30%）、授業への取組み姿勢（20%）、定期試験（50%）とします。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業計画に従って小テストを行うので、テスト範囲の英単語を予習してくること。説明された解説は次回までにすべて理解し、覚えておくこと。
使用テキスト	Because We Care：English for Healthcare Professionals Maki Inoue, Tadashi Ihara　CENGAGE Learning　2009
参考書（参考資料等）	オリエンテーションの際に指示します。
その他 (受講生への要望等)	辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。
教員 e-mail アドレス	kawashita@knwu.ac.jp

授業科目名	フランス語の基礎　I						
担当者名	コモン・ティエリ						
科目コード	1200095	授業形態	演習				
学年	1	開講期	前期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	対話形式で行う。ABC（アー，ベー，セーと発音します）から始めて、より複雑な構文の知識までを体系的に学習していくが、あわせて仏文和訳，和文仏訳および基本的なフランス語によるコミュニケーションの練習を行う。また、フランスという国の現状やフランス人の生活など文化的な特徴にも触れる。
授業の到達目標	平易な文章を読みこなせるようになる。基本的な聴き取り能力や会話能力を身につける。生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知る。 具体的には： 1. フランス語の発音がきちんとできるようになる。 2. 簡単なコミュニケーションができるようになる。
授業計画	1.　初対面／自己紹介（やり方）
	2.　自己紹介（実践）／子音と母音／子音の役割／音節とは
	3.　フランス語の成り立ち／アルファベット／w と "y"
	4.　アルファベットの書き方／フランス語の母音
	5.　挨拶／フランスという国／数字：0～20
	6.　フランス語の子音／名詞の性／文章の基本構成
	7.　プリント(動詞/単語)／ETRE／指示形容詞／所有形容詞［1］
	8.　AVOIR／IL Y A～／ALLER／～から～まで
	9.　VENIR／ここ､そこ､あそこ／否定形
	10.　中間テスト(20 分)／FAIRE／天気の表現
	11.　形容詞：位置と変化／SAVOIR／CONNAITRE
	12.　COMPRENDRE／とても／たくさん
	13.　冠詞（不定/定/部分)／VOULOIR／POUVOIR
	14.　ETRE と IL Y A／数字：21 以上／所有形容詞［2］
	15.　現在形（-er 動詞［1］)／前期のまとめ
成績評価の方法	・授業態度、課題の提出等、毎回の授業の取り組み方を含めて、学期末試験で総合的に評価する。 ・中間テストや小テストを行い、その結果も成績評価に反影させる。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	1）予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。 2）月に 1 回、フランス語で短い文章を作り、和訳と共にメールで送る。
使用テキスト	使用しない ・プリントを用意する。
参考書（参考資料等)	・最初の授業の時に紹介する。
その他(受講生への要望等)	・言葉は実践で身につけるものなので、習った事を使ったり、分からない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取組んでほしい。
教員 e-mail アドレス	tcomont.jp@gmail.com

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">中国語の基礎　I</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">鳥丸　知子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200097</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">中国語の文法・発音の基礎を習得する。簡単な日常会話が身につくレベルまで到達することを目標とする。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">簡単な日常会話が話せ、聴き取れるレベルまで到達する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　中国概説</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　中国語に関して　発音、表記方法などの解説と練習</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　基本フレーズをマスターする①　あいさつ、簡単な自己紹介</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　基本フレーズをマスターする②　動詞述語文</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　同上</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　基本フレーズをマスターする③　形容詞述語文</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　同上</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　基本フレーズをマスターする④</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　在、有、也、都の使い方、月日や時間の表現方法</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　自己紹介ができるようになる①　感情の表現方法</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　同上</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　自己紹介ができるようになる②　状況の表現方法</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　自己紹介ができるようになる③　丁寧な表現方法</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　自己紹介ができるようになる④　現在、過去、未来の表現方法</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　総合復習</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">授業態度（60%）、定期試験（40%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">・授業中に次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">・講義の進度に応じて適宜プリント及び資料を配布</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">特になし</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">・発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">tomochi69jp@yahoo.co.jp</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">フランス語の基礎 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">コモン・ティエリ</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200096</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	対話形式で行う。この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指す。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聴き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことが、この授業の目的である。
授業の到達目標	平易な文章を読みこなせるようになる。基本的な聴き取り能力や会話能力を身につける。生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知る。 具体的には： 1. 簡単な仏文を辞書を手かがりに読めて、訳せるようになる。 2. 短文作文をできるようになる。
授業計画	1. 前期の復習／前期末試験の内容について
	2. 現在形（-er 動詞［2]）／フランス語特殊文字の入力（パソコン）
	3. 現在形（-er 動詞以外［1]）
	4. 現在形（-er 動詞以外［2]）
	5. 日付けの言い方／現在形（代名動詞）
	6. 色の形容詞／疑問文／疑問詞
	7. 否定形と直接目的語の冠詞／直接目的語の代名詞化
	8. 強調形／近接過去／近接未来
	9. 代名詞 CE と CA／前置詞 EN／男性と女性の名前
	10. 中間テスト(20 分)／複合過去：AVOIR 助動詞の場合
	11. 複合過去：ETRE 助動詞の場合／過去分詞の変化［1]
	12. 過去分詞の変化［2]
	13. 命令形／現在分詞／ジェロンディフ
	14. 単純未来
	15. 後期末試験準備
成績評価の方法	・授業態度、課題の提出等、毎回の授業の取り組み方を含めて、学期末試験で総合的に評価する。 ・中間テストや小テストを行い、その結果も成績評価に反影させる。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	1）予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。 2）月に１回、フランス語で短い文章を作り、和訳と共にメールで送る。
使用テキスト	使用しない ・プリントを用意する。
参考書（参考資料等）	・最初の授業の時に紹介する。
その他(受講生への要望等)	・言葉は実践で身につけるものなので、習った事を使ったり、分からない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取組んでほしい。
教員 e-mail アドレス	tcomont.jp@gmail.com

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">中国語の基礎 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">鳥丸　知子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200098</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	実践で使える中国語の習得を目標とする。異文化に対する理解を深める。
授業の到達目標	中国生活や旅行で使用する中国語を学び、現地の人々と簡単な会話が 出来るレベルまで到達する。
授業計画	1.　中国概説
	2.　中国語の基礎Ⅰの復習
	3.　日常会話をマスターする①　経験の表現方法
	4.　同上
	5.　日常会話をマスターする②　時間や回数など数の表現方法
	6.　同上
	7.　日常会話をマスターする③　動作の表現方法
	8.　同上
	9.　日常会話をマスターする④　比較の表現方法
	10.　同上
	11.　日常会話をマスターする⑤　生活の中での中国語を学ぶ
	12.　同上
	13.　同上
	14.　総合復習
	15.　総合復習
成績評価の方法	授業態度（60%）、定期試験（40%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業中に次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。
使用テキスト	・講義の進度に応じて適宜プリント及び資料を配布
参考書（参考資料等）	特になし
その他 (受講生への要望等)	・発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。
教員 e-mail アドレス	tomochi69jp@yahoo.co.jp

授業科目名	実用英語　I							
担当者名	ロバート・サムナー							
科目コード	1000010	授業形態	演習					
学　　年	2	開講期	前期					
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修	
					○			

授業の概要と方法	この授業では、英語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目的に、ボキャブラリや文法はもちろん、スピーキングに力を入れて授業を進めていきます。
授業の到達目標	・英語に興味を持ち、基本的日常会話や医療の場で英語が使えるようになる。 ・英語を使うことに自信を持つ。
授業計画	1.　自己紹介、あいさつ 2.　自分について話そう。趣味や興味のあることについて話そう。 3.　現在形 4.　家族について話そう。人を言葉で説明（描写）しよう。 5.　過去形 6.　他の国や文化について話そう。 7.　おすすめを聞く、教える。 8.　現在完了形 9.　いろいろな場所について話そう。 10.　道を尋ねる、教える。 11.　トラベル英会話 12.　数字や時間の表現の仕方 13.　自分の意見を伝える。 14.　人に注意、アドバイスをする。 15.　まとめ
成績評価の方法	定期テスト：筆記（50%）、スピーキング（50%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業中に予習・復習について指示します。
使用テキスト	毎回プリントを配布します。
参考書（参考資料等）	必要に応じてプリントを配布します。
その他 (受講生への要望等)	分からないことや質問はいつでも聞いてください。間違うことを気にせず、自信を持って英語を話してください。
教員 e-mail アドレス	robandkyoko@hotmail.com

授業科目名	実用英語 Ⅱ						
担 当 者 名	ロバート・サムナー						
科目コード	1000011	**授 業 形 態**	演習				
学　　年	2	**開 講 期**	後期				
単 位 数	1	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○		

授業の概要と方法	この授業では、英語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目的に、ボキャブラリや文法はもちろん、スピーキングに力を入れて授業を進めていきます。
授業の到達目標	・英語に興味を持ち、基本的な日常会話や医療の場で英語が使えるようになる。 ・英語を使うことに自信を持つ。
授業計画	1.　未来形：be going to , will
	2.　病気や健康について：病状や処置
	3.　How often?　：頻度について
	4.　医学句動詞
	5.　Has got：病気や怪我の時に使う
	6.　Should：医学的状況でのアドバイス時に使う
	7.　医学的状況で使う複合名詞
	8.　健康についての複合名詞
	9.　薬についての形容詞
	10.　痛みや苦痛の説明
	11.　投薬の種類や方法
	12.　賛成や反対
	13.　提案・助言する
	14.　間接疑問文と直接疑問文
	15.　まとめ
成績評価の方法	定期テスト：筆記（50%)、スピーキング（50%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業中に予習・復習について指示します。
使用テキスト	毎回プリントを配布します。
参考書（参考資料等）	必要に応じてプリントを配布します。
その他 (受講生への要望等)	分からないことや質問はいつでも聞いてください。間違うことを気にせず、自信を持って英語を話してください。
教員 e-mail アドレス	robandkyoko@hotmail.com

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">解剖学　Ⅰ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">小林　繁</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200073</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。 人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかに巧妙に統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。
授業の到達目標	1. 細胞・組織・器官：人体を構成する細胞・組織・器官の多様性を理解する。 2. 骨格系：身体の運動や姿勢を支持する骨・靭帯の多様性を理解する。
授業計画	1.　解剖学総論（教科書 p1-7）：解剖学とは、人体の大要と解剖学用語
	2.　人体の構成（教科書 p8-11）：細胞
	3.　人体の構成（教科書 p11-18）：組織、器官、器官系
	4.　骨学総論（教科書 p27-30）：骨の形態、骨の構造、骨の血管と神経
	5.　骨学総論（教科書 p31-35）：骨の機能、骨の発生、骨のリモデリング
	6.　骨学各論（教科書 p36-47）：頭蓋
	7.　骨学各論（教科書 p47-57）：脊柱、胸郭とその連結
	8.　骨学各論（教科書 p57-62）：上肢帯、上腕骨
	9.　骨学各論（教科書 p62-67）：前腕骨、手
	10.　骨学各論（教科書 p67-72）：下肢帯、骨盤
	11.　骨学各論（教科書 p72-82）：自由下肢骨
	12.　関節靭帯総論（教科書 p87-94,101-103）：骨の連結、関節の構造と機能
	13.　関節靭帯各論（教科書 p104-113）：頭蓋の連結、脊柱、胸郭
	14.　関節靭帯各論（教科書 p113-127）：上肢の連結
	15.　関節靭帯各論（教科書 p128-144）：下肢の連結
成績評価の方法	定期試験で評価 評価項目と割合（%） 定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	教科書を用いての事前学習、事後学習。
使用テキスト	教科書：野村嶬編　標準理学療法学・作業療法学　解剖学 第4版　（医学書院） 分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（金原書店） 佐藤達夫　訳：『人体解剖カラーアトラス』、南江堂
参考書（参考資料等）	適宜プリントを配布する。
その他 (受講生への要望等)	人体解剖アトラスの関連項目を学修する。
教員 e-mail アドレス	origamishigeru@gmail.com

授業科目名	解剖学 Ⅱ						
担当者名	片岡　真司						
科目コード	1200074	授業形態	講義				
学年	1	開講期	後期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかに巧妙に統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。
授業の到達目標	1. 筋肉系：身体の運動や姿勢を支持する筋肉の構造と機能を理解する。 2. 神経系：脳・脊髄およびこれに出入りする末梢神経系の構造と機能を理解する。
授業計画	1. 筋学総論：筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用
	2. 筋学各論 1：上肢帯の筋、上腕の筋
	3. 筋学各論 2：前腕の筋、手の筋
	4. 筋学各論 3：下肢帯の筋、大腿の筋
	5. 筋学各論 4：下腿の筋、足の筋
	6. 筋学各論 5：頭部の筋、頸部の筋
	7. 筋学各論 6：胸部の筋、腹部の筋、背部の筋
	8. 神経学総論 1：神経系の区分、神経系の構成
	9. 神経学総論 2：髄膜と脳室系、神経系の発生
	10. 中枢神経系 1：脊髄、脳幹、小脳
	11. 中枢神経系 2：大脳
	12. 中枢神経系 3：神経路
	13. 末梢神経系 1：脊髄神経
	14. 末梢神経系 2：脳神経
	15. 末梢神経系 3：自律神経
成績評価の方法	中間試験（50%）および定期試験（50%）で評価。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	教科書、参考書、配布資料などを用いた準備学修・事後学修
使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学　解剖学（医学書院） 配布プリント
参考書（参考資料等）	分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（金原書店）
その他 (受講生への要望等)	授業ではプリントに色を塗るなどの指示をすることがあるので、色鉛筆などの準備が望ましい。
教員 e-mail アドレス	kshinji0813@gmail.com

授業科目名	生理学 Ⅰ						
担 当 者 名	野村　健						
科目コード	1200075	授 業 形 態	講義				
学　　年	1	開 講 期	前期				
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	生体の構造と機能を理解することは、将来医療の現場で働く者にとって必要不可欠である。「生理学Ⅰ」では、呼吸、循環、血液、消化・吸収、内分泌、排泄など生命維持に必要な生理機能である「植物性機能」について概説する。
授業の到達目標	1.　呼吸や循環、消化・吸収など植物性機能を理解する。 2.　人体の臓器の位置と各臓器の構造・機能の概要を理解し説明できる。
授業計画	1.　生理学概論、細胞と組織　(ﾃｷｽﾄ p 8-36) 2.　呼吸（1）呼吸器の構造、呼吸運動　(ﾃｷｽﾄ p 98-117) 3.　呼吸（2）呼吸気量、ｶﾞｽ交換とｶﾞｽの運搬　(ﾃｷｽﾄ p 117-124) 4.　呼吸（3）呼吸運動の調節、病的呼吸　(ﾃｷｽﾄ p 124-131) 5.　血液（1）血液の組成と機能　(ﾃｷｽﾄ p 131-146) 6.　血液（2）血液凝固、血液型　(ﾃｷｽﾄ p 146-155) 7.　循環（1）心臓の構造、心臓の興奮　(ﾃｷｽﾄ p 158-182) 8.　循環（2）心臓の拍出機能、末梢循環系の構造　(ﾃｷｽﾄ p 182-194) 9.　循環（3）血液の循環調節、ﾘﾝﾊﾟ系　(ﾃｷｽﾄ p 194-218) 10.　腎（1）腎臓の構造と機能、尿の生成、ｸﾘｱﾗﾝｽ　(ﾃｷｽﾄ p 220-236) 11.　腎（2）排尿、体液の調節　(ﾃｷｽﾄ p 236-248) 12.　内分泌（1）内分泌機能とﾎﾙﾓﾝ　(ﾃｷｽﾄ p 250-265) 13.　内分泌（2）各腺から分泌されるﾎﾙﾓﾝの作用　(ﾃｷｽﾄ p 265-295) 14.　消化・吸収（1）消化管の構造と機能　(ﾃｷｽﾄ p 54-85) 15.　消化・吸収（2）肝臓、膵臓、胆嚢、まとめ　(ﾃｷｽﾄ p 86-96)
成績評価の方法	受講態度（小テストを含む）（20%） 定期試験（80%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	準備学修：授業計画に対応するﾃｷｽﾄの該当箇所をよく読んで講義に臨むこと。 事後学修：毎時の授業で学習した内容について復習し理解すること。
使用テキスト	『解剖生理学』坂井建雄 著　医学書院
参考書（参考資料等）	講義に合わせて資料を配布します。 『生理学』岡田隆夫 著　医学書院 『標準生理学』福田康一郎 監修　医学書院
その他 (受講生への要望等)	教科書を中心に授業を進めます。授業で理解できなかった箇所は教科書及び参考書で学習し、その上で解決できない場合は質問に来て下さい。
教員 e-mail アドレス	tnomura@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">生理学 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">野村　健</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200076</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開 講 期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単 位 数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「生理学Ⅱ」では、「生理学Ⅰ」に引き続き植物性機能の一部と脳・神経、筋、感覚系、運動系など、特に動物で発達している「動物性機能」について概説する。さらに、運動時に生じる生体の諸変化について解説する。
授業の到達目標	1. 筋肉や脳・神経、感覚器など動物性機能を理解する。 2. 運動時における生体反応やその調節機構を説明できる。
授業計画	1. 筋肉（1）骨格筋の構造、筋収縮、筋の収縮特性　(ﾃｷｽﾄ p 359-372) 2. 筋肉（2）骨格筋の特性、骨の構造と機能　(ﾃｷｽﾄ p 302-305) 3. 神経（1）神経系の構造と機能　(ﾃｷｽﾄ p 374-384) 4. 神経（2）筋紡錘、ゴルジ腱器官、伸張反射　(ﾃｷｽﾄ p 313) 5. 中枢神経系（1）脳幹、小脳、間脳、大脳　(ﾃｷｽﾄ p 385-399) 6. 中枢神経系（2）脊髄神経、脳神経　(ﾃｷｽﾄ p 400-408) 7. 中枢神経系（3）脳の高次機能　(ﾃｷｽﾄ p 409-425) 8. 感覚器（1）視覚・聴覚　(ﾃｷｽﾄ p 425-443) 9. 感覚器（2）味覚・嗅覚・痛覚・触覚・圧覚　(ﾃｷｽﾄ p 443-458) 10. 身体の防御機構（免疫）　(ﾃｷｽﾄ p 458-470) 11. 代謝と体温　(ﾃｷｽﾄ p 470-477) 12. 生殖・発生・老化　(ﾃｷｽﾄ p 480-522) 13. 運動生理学（1） 14. 運動生理学（2） 15. 運動生理学（3）まとめ
成績評価の方法	受講態度（小ﾃｽﾄを含む）（20%） 定期試験（80%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	準備学修：授業計画に対応するﾃｷｽﾄの該当箇所をよく読んで講義に臨むこと。 事後学修：毎時の授業で学習した内容について復習し理解すること。
使用テキスト	『解剖生理学』坂井建雄 著　医学書院
参考書（参考資料等）	講義に合わせて資料を配布します。 『生理学』岡田隆夫 著　医学書院 『標準生理学』福田康一郎 監修　医学書院 『運動生理学』橋本勲、進藤宗洋　他著　同文書院
その他 (受講生への要望等)	教科書を中心に授業を進めます。授業で理解できなかった箇所は教科書及び参考書で学習し、その上で解決できない場合は質問に来て下さい。
教員 e-mail アドレス	tnomura@knwu.ac.jp

授業科目名	解剖生理学総合実習（解剖学実習）						
担当者名	小林　繁						
科目コード	1200077	授業形態	実習				
学　年	2	開講期	前期（集中）				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	「解剖学」および「運動解剖学特論」の講義で履修した内容を、実際に自分の眼と手で確かめ、より理解を深めることを目的とする。脳脊髄標本、人体解剖体の観察ならびにスケッチを行う。同時に人の生命に対する神秘、尊厳について教授する。	
授業の到達目標	①胸部・腹部内臓の有機的な位置関係を説明することができる。 ②動静脈神経の走行、分布を確認し、臓器との関係を説明できる。 ③筋の起始・停止を確認し、支配神経、作用について説明できる。 ④関節の解剖を行い、その形態との関係性を説明できる。 ⑤人体解剖実習を通して生命の神秘、生命の尊厳を自ら学び、倫理観の育成に努める。	
授業計画	1.	骨学実習 1：脊柱、胸郭、骨盤、上肢、下肢
	2.	骨学実習 2：頭蓋
	3.	解剖学実習の目的。献体とは。体の区分、胸部・腹部の筋。胸部・腹部臓器の位置関係、腹膜後器官の確認
	4.	消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系臓器ならびに相互関係の確認。心臓ならびに循環器系（大循環、小循環ならびにリンパ系）特に腹部循環器系の確認
	5.	胸神経と肋間動静脈の解剖。頸ならびに腕神経叢、腰仙骨神経叢の解剖。交感神経幹、大・小内臓神経の解剖
	6.	上肢屈筋群、下肢前面の筋の解剖。腹腔神経叢、腸間膜動脈神経叢、骨盤神経叢の解剖。
	7.	体幹背部の筋の解剖。上肢帯背側、上肢の伸筋群ならびに手背の解剖。殿部の筋、大腿後面、膝窩の解剖。
	8.	上肢帯の筋、上肢の伸筋群、手掌の解剖。下腿後面、足底の解剖。
	9.	肩関節の解剖。膝関節の解剖。
	10.	肘関節の解剖。股関節の解剖。
	11.	実習の中間まとめ
	12.	脳解剖の予習
	13.	手の関節と靱帯の解剖。足の関節と靱帯の解剖。
	14.	脳・脊髄の解剖
	15.	骨実習、人体解剖実習、脳実習のまとめ
成績評価の方法	実習態度ならびにスケッチ、レポート、感想文で評価する。 授業態度（20%）レポート（30%）その他〔スケッチ 30%、感想文 20%〕（50%）	
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	毎回、リハ実習書ならびに教科書の予習をしてくること。	
使用テキスト	野村　嶬　編：『標準理学療法学・作業療法学　専門分野解剖学　第４版』、医学書院 分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、金原書店 佐藤達夫　訳：『人体解剖カラーアトラス　原著第７版』、南江堂 リハ実習書（プリント）：関節の解剖手技	
参考書（参考資料等）	できるわかる人体解剖実習、哲学堂出版 骨学実習のてびき、解剖実習のてびき、南山堂	
その他 (受講生への要望等)	ご遺体は自分の死後、医学医療の発展のために無条件無報酬で自ら解剖されることを申し出られ献体された方々です。この篤志献体者の志を忘れてはならない。また、献体が成就できるのはご家族、病院、社会福祉関係者など多くの方々のご協力があって初めて可能なことであることも忘れてはならない。心得：①ご遺体に常に感謝の念を持つ。②ご遺体に礼を失してはならない。③ご遺体のご意思を考える。④ご遺体に報いることを考える。	
教員 e-mail アドレス	origamishigeru@gmail.com	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">解剖生理学総合実習（生理学実習）</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">野村　健</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200077</td><td>授業形態</td><td colspan="5">実習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">「生理学実習」では臨床現場で用いられる測定機器を使用し、グループに分かれて自分自身またはお互いが被検者となり測定を行い、人体の生理機能について理解することを目的とする。また、各測定項目の意義と測定原理を理解し正確な測定手技を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">1. 生体機能を正確に計測し、その意義を説明できる。
2. 実験機器の測定原理を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">1. オリエンテーション、グループ分け
2. 血圧の測定
3. 心電図の記録
4. 筋電図の測定
5. 伸張反射
6. 聴覚測定
7. スパイロメトリー
8. パルスオキシメーター
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">受講態度（50%）
レポート（50%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">準備学修：授業計画に対応する実習書の該当箇所をよく読んで実習に臨むこと。
事後学修：毎時の授業で学習した内容について復習し理解すること。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">『生理学実習書』</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">1. 『新訂・生理学実習書』日本生理学会教育委員会　南江堂
2. 『解剖生理学』坂井建雄 著　医学書院
3. 『生理学』岡田隆夫 著　医学書院</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">1. 不注意による怪我や事故を起こさぬよう各自十分注意すること。
2. レポートの提出は期限を厳守すること。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">tnomura@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	運動学総論						
担 当 者 名	吉田　真理子						
科目コード	1200020	**授 業 形 態**	講義				
学　　　年	1	**開　講　期**	後期				
単　位　数	2	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	運動学の知識は、身体の障害を理解し、障害に対する作業療法アプローチを考える上で重要である。この授業では、まず運動学で用いる用語と約束事について学ぶ。その後、運動にかかわる身体機能について学んでいく。 　授業は教科書と要約プリントを用い、キーワードを板書しながら進める。さらに、復習のための課題と確認テストで理解を深めていく。
授業の到達目標	1）運動学の基礎となる用語を説明することができる。 2）運動における関節の役割を説明することができる。 3）運動における骨格筋の役割を説明することができる。 4）運動における神経の役割を説明することができる。 5）効果的な運動学習方法を説明できる。
授業計画	1.　運動学とは　身体部位の名称、身体運動の面と軸
	2.　骨の構造と機能
	3.　関節の構造と機能、運動の表し方
	4.　関節の形態
	5.　骨格筋の構造と機能
	6.　二関節筋と単関節筋、筋収縮の様態
	7.　てこの原理
	8.　運動単位　筋の感覚受容器
	9.　神経系の分類　末梢神経系（脊髄神経、脳神経等）
	10.　末梢神経系　シナプス　反射
	11.　中枢神経系（脳の名称、機能局在）
	12.　中枢神経系　中枢神経伝導路
	13.　重心と姿勢の安定性　姿勢の名称と類型
	14.　運動の種類と類型　トレーニングの原理
	15.　運動学習（学習曲線、動機づけ、学習方法）
成績評価の方法	評価の比率は、期末テスト（80%）、課題（20%）とする。 課題には、予習・復習プリント、授業で行う作業、確認テストなどが含まれる。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	「解剖学」で学んだ、骨、関節、筋、神経の知識を復習しておくこと。 授業前に、教科書の対応するページを読んでおくこと。授業後は復習を行い、疑問点は調べ学習や質問により解決していくこと。
使用テキスト	教科書　「基礎運動学」医歯薬出版 さらに、適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	授業の中で紹介する。
その他 (受講生への要望等)	臨床実習や国家試験では、授業で学んだ知識以上のものが求められる場合がある。従って、授業だけで満足することなく、授業以外でも運動学の知識を増やし、理解を深めてほしい。
教員 e-mail アドレス	yoshida-m@lep.bbiq.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">運動学各論</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">吉田　真理子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200021</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>2</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">運動学の知識は、身体の障害を理解し、障害に対する作業療法アプローチを考える上で重要である。この授業では、1 年次の「運動学総論」で学んだ知識を基に、運動を可能にするメカニズムと生じうる障害について、身体部位ごとに学ぶ。
授業は教科書と要約プリントを用い、キーワードを板書しながら進める。さらに、復習のための課題と確認テストで理解を深めていく。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">1）各身体部位の運動を可能にするメカニズムを説明できる。
2）各身体部位の運動が障害されることにより生じる変形や、その原因となる疾患について説明できる。
3）障害部位を明らかにするための検査法について説明できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　肩甲帯と肩　構造と運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　肩甲帯と肩　運動と運動障害　（肩甲上腕リズム・回旋筋腱板等）</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　肩甲帯と肩　運動障害　（肩関節周囲炎等）</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　肘関節　構造と運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　手関節と手部、指の構造</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　手指の伸展機構と母指の運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　手のアーチと把持様式</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　手関節と手部、指の運動障害</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　頭部と顔面の運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　体幹　頸部と胸部</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　体幹　腰部</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　股関節の構造と運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　膝関節と足関節の構造と運動</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　正常歩行</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　異常歩行</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">評価の比率は、期末テスト（80%）、課題（20%）とする。
課題には、予習・復習プリント、授業内での作業、確認テストなどが含まれる。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">授業前に、教科書の対応するページを読んでおくこと。
授業後は復習を行い、疑問点は調べ学習や質問により解決していくこと。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">教科書　「基礎運動学」医歯薬出版
さらに、適宜、資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">授業の中で紹介する。</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">臨床実習や国家試験では、授業で学んだ知識以上のものが求められる場合がある。従って、授業だけで満足することなく、授業以外でも運動学の知識を増やし、理解を深めてほしい。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">yoshida-m@lep.bbiq.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	人間発達学					
担当者名	佐野　幹剛					
科目コード	1200022	授業形態	講義			
学　　年	1	開講期	後期			
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	乳児期から老年期までの発達過程全般について概説するとともに、障害児・者や高齢者に対する発達学的評価および治療ができる知識とスキルの習得を図れるよう教授する。
授業の到達目標	・人間の基本的な発達過程を理解することができる。 ・障害や老化に伴う心理的・身体的影響を発達学的に捉えることができる。
授業計画	1.　リハビリテーションにおける発達学視点と意義
	2.　乳児期の神経発達学的成熟とその発達的意義
	3.　乳児の反射･反応について
	4.　反射･反応検査の実際
	5.　乳児期における粗大運動の発達と臨床的応用
	6.　乳児期における手の運動発達と臨床的応用
	7.　乳幼児期の知覚･認知機能の発達と臨床的応用
	8.　乳幼児期のことばの発達と臨床的応用
	9.　発達障害を持つ子どもの理解
	10.　発達評価と治療
	11.　乳児～学童期の特徴と発達課題
	12.　青年期の特徴と発達課題
	13.　成人期の特等と発達課題
	14.　老年期の特徴と発達課題
	15.　まとめ
成績評価の方法	レポート課題｢反射と反応｣、期末試験を総合して評価する。 評価の比率は、レポート課題（30%）、期末試験（70%）とする。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	授業はワークノート・教科書を中心に進めます。ワークノートに準備学修の内容、事後学修のためのポイントの整理を示しているので活用してください。
使用テキスト	「リハビリテーション医学講座　人間発達学」　医歯薬出版 「運動発達と反射」　医歯薬出版
参考書（参考資料等）	「乳児の発達　写真で見る 0 歳児」　医歯薬出版 「機能的姿勢―運動スキルの発達」　協同医書
その他(受講生への要望等)	人間発達学は、人の運動機能や認知機能などの多角的な発達側面を概観します。作業療法アプローチの基本となるため、しっかり学習してください。
教員 e-mail アドレス	sano@knwu.ac.jp

授業科目名	病理学						
担当者名	船越　啓右						
科目コード	1200052	**授業形態**	講義				
学　年	2	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	臨床医学の全般の基礎となる疾患の概略について学ぶ分野である。 目標は、医師や看護師などが発言する医学的なことが理解できること。 国家試験科目であることを念頭において学ぶこと。 教科書の総論部分全部は時間不足のためにプリントを渡し、プリントに沿って講義し、教科書の内容を解説する。
授業の到達目標	・医学的用語を理解し、医師、看護師の指示や説明が充分に理解できる。 ・患者の疾患や訴えに正しい判断ができる。 ・国家試験に合格できるレベルまで理解できる。
授業計画	1.　病因－1　：内因
	2.　病因－2　：外因　　退行性病変－1：変性
	3.　退行性病変－2　：萎縮
	4.　退行性病変－3　：壊死
	5.　循環障害－1　：体液循環の機構
	6.　循環障害－2　：全身循環障害
	7.　循環障害－3　：局所循環障害　　適応現象－1：定義
	8.　適応現象－2　：疾患
	9.　奇形、炎症－1　：基本的病変
	10.　炎症－2　：炎症に関与する細胞
	11.　炎症－3　：炎症の種類
	12.　腫瘍－1　：定義
	13.　腫瘍－2　：悪性腫瘍の進行度
	14.　腫瘍－3　：発癌のメカニズム　　加齢現象－1：定義
	15.　加齢現象－2　：疾患
成績評価の方法	定期試験に合格すること。（試験は 100 点満点で 60 点以上が合格）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	講義終了時に次回の講義範囲を伝えるので、次回範囲の教科書・配布プリントを確認して講義に臨むこと。
使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学　病理学
参考書（参考資料等)	講義の前に講義に使用するプリントを配布する。
その他 (受講生への要望等)	国家試験合格を目標に勉強すること。
教員 e-mail アドレス	質問は授業中または、授業終了後教室にて受け付けます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">臨床心理学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">山田　幸代・大丸　幸</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200053</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	山田　幸代／8 回：臨床心理学の本来の意味は「死の床に臨む」医療従事者の為の心理学的立場を示す。従って医療従事者には必須である。前 8 回はフロイトに始まる臨床心理学から、「関係性」の心理学である ニューウェイブ心理学を、演習などを通して対人対応技法を学習する。 大丸　幸／7 回：臨床理学の基本を臨床事例の演習により、事例の力動学的理解と解釈およびチームワーク論を学習することで、対象者を心と体の両面から生活再建するリハビリテーションの支援技術を学修する。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の変遷をフロイトの個人心理学・精神分析、ユング理論、コフート等による関係性の心理学の各視点から学び、実践に生かせるようになる。 2. 臨床事例演習により、リハビリテーションの対象者を心理学的理解に基づいて理学療法・作業療法の実践ができるようになる。
授業計画	1.　導入　「臨床心理学」とは何か？　－事例に学ぶ　（山田） 2.　リハビリテーションとカウンセリングの関連－全人的医療の視点　（山田） 3.　自己を知ることの意義　－エゴグラムによる自己･他者分析　（山田） 4.　自己変容と他者変容の視点　－PF スタディ演習を通して　（山田） 5.　臨床心理学の変遷　(1)個人心理学　（山田） 6.　臨床心理学の変遷　(2)関係性の心理学　（山田） 7.　臨床心理学のまとめ　(1)傾聴・受容・共感・転移と逆転移　（山田） 8.　臨床心理学のまとめ　(2)全人的医療の再考。国家試験に向けて　（山田） 9.　PT/OT のための医療心理学の基本的観点　（大丸） 10.　医療スタッフ側の問題点を考えるショート事例と討議　（大丸） 11.　事例演習：脊髄損傷 A 氏～A 氏理解のためのグループ討議と発表～（大丸） 12.　事例演習：脊髄損傷 A 氏～A 氏の問題行動の意味とその理解～　（大丸） 13.　事例演習：難病患者家族の心理的な問題～グループ討議と発表～　（大丸） 14.　事例演習：難病患者家族の心理的な問題～病気発生と家族力動の理解～（大丸） 15.　医療心理学の専門用語のまとめとその理解　（大丸）
成績評価の方法	山田幸代：定期試験（100%） 大丸　幸：事例演習の発表とワークシート（50%）、定期試験（50%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	山田幸代：実習時には必ず対人対応について配慮すること。 大丸　幸 準備学修：配布される演習事例を事前に読んで出席すること。 事後学修：演習事例理解についてのワークシートは原則、翌週に提出すること。
使用テキスト	適宜、資料を配布するとともに参考書を紹介する
参考書（参考資料等）	和田秀樹：「痛快　心理学」集英社、2002 乾　吉祐：「医療心理学実践の手引き」金剛出版、2007
その他 (受講生への要望等)	講義や演習に真摯に臨むこと。患者の前に立った場合を想定し対人対応技法を獲得すること。想像力が相手の立場に立つことを可能にし全人的医療につながります。
教員 e-mail アドレス	山田：非常勤講師室でしばらく待ちます。　大丸：ohmaru@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">小児科学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">河田　泰定・中村　慶司</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200054</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	河田泰定：子どもでよく見られる病気について、症状から診断ならびに治療まで学習する。特にリハビリテーションの対象となる神経・筋・骨系疾患、重症心身障害児については、詳細に理解する。自分が親になったと思って、小児科対象疾患の基礎的知識を修得する。 中村慶司：リハビリテーションの対象となる新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系、生殖器疾患等の検査や治療について詳細に学ぶ。
授業の到達目標	子どもでよく見られる病気について、一般的特徴、原因、診断、治療の概要を学習し、理解する。また、リハビリテーションを必要とする児の疾患を把握し、いかにチーム共同医療者として、参画するかを考える。
授業計画	1.　小児科学概論　－PT/OT との関わり。病気のない子どもの成長発達を理解する。
	2.　診断と治療　－一般的な病気の病院での診療について 救急疾患：小児の BLS を修得する。
	3.　新生児・未熟児疾患－1　－胎児期・新生児期・周産期について
	4.　新生児・未熟児疾患－2　－早期産児の神経学的所見について
	5.　先天異常と遺伝病について
	6.　神経・筋・骨－１－特殊検査、髄膜炎、熱性けいれん、小児てんかんについて
	7.　神経・筋・骨－２－脳性麻痺、神経疾患、筋ジストロフィー症について
	8.　循環器疾患について
	9.　呼吸器疾患について
	10.　感染症について
	11.　消化器疾患について
	12.　内分泌疾患：低身長症、クレチン症、糖尿病について
	13.　免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系・生殖器疾患について
	14.　血液・腫瘍・眼科・耳鼻科疾患：貧血症、白血病、血友病、悪性疾患について
	15.　心身症・神経症・重症心身障害児（重心）：重心の病態、問題点について
成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	使用するテキストを用いて、各疾患などを予習および復習をすること。
使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学　小児科学（医学書院）
参考書（参考資料等）	適宜資料を配布する。
その他 (受講生への要望等)	・質問は講義時間内にして下さい。 ・最終講義時にまとめを行う。配布された講義プリント全て持参すること。（河田） ・試験に対する質問は受け付けない。
教員 e-mail アドレス	非公開とする。

授業科目名	内科学						
担当者名	宮﨑　三枝子						
科目コード	1200027	授業形態	講義				
学　　年	2	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	リハビリテーション医学の対象となる代表的な内科疾患、ならびに合併症に対する治療、リスク管理を理解する。 胸部X線や心電図、CTなど画像や検査内容を理解する。
授業の到達目標	理学療法、作業療法の対象とする疾患（消化器、循環器、呼吸器、代謝内分泌、アレルギー疾患、腎泌尿器、血液、感染症）などについて詳細に理解する。
授業計画	1.　内科総論 2.　循環器　総論(1)　心臓、血液循環の生理、血圧測定 3.　循環器　総論(2)　心電図、胸写の診かた 4.　循環器　各論 5.　呼吸器　総論 6.　呼吸器　各論 7.　消化器 8.　肝、胆、膵疾患 9.　血液疾患 10.　代謝性疾患 11.　内分泌疾患 12.　腎、泌尿器　総論 13.　腎、泌尿器　各論 14.　アレルギー、膠原病、免疫不全 15.　感染症
成績評価の方法	テストによる評価（100%）
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	事後学修として復習をしっかりとする。
使用テキスト	テキスト：標準理学療法学、作業療法学　内科学　医学書院
参考書（参考資料等）	必要に応じて資料を配布します。
その他(受講生への要望等)	質問は講義中または講義終了後教室にて受け付けます。
教員 e-mail アドレス	非公開とする。

授業科目名	整形外科学						
担当者名	神宮司・今村・安田・泉・鬼塚・河野・平塚・加治・畑中・森						
科目コード	1200028	授業形態	講義				
学　　年	2	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	リハビリテーション医学の対象となる代表的な整形外科疾患ならびに合併症に対する治療やリスク管理を理解する。また、外来診療・手術現場の情報を提供する。	
授業の到達目標	整形外科領域における症候学に基づく、基本的知識と疾患の概要について学ぶ。四肢外傷、変性疾患、炎症疾患、化膿性疾患、代謝性疾患等の治療法、特に手術療法ならびに後療法について学習する。	
授業計画	1.	運動器の基本的評価方法と基本的検査について（神宮司誠也） 教科書 P20－28（2.　運動器の評価および検査法 A.基本的評価法 B.基本的検査）
	2.	運動器の評価と検査について、体のランドマークを理解し、検査手技を行う。（神宮司誠也） P29－41（2.　運動器の評価および検査法 C.運動器の評価と検査）
	3.	骨の基礎と疾患（神宮司誠也） P2－5（1. 整形外科基礎知識 A.骨の発生と成長） P76－77（6. 先天性骨・関節疾患 A.代表的な先天性骨疾患） P71－72（5. 代謝・内分泌疾患 B.退行性疾患　1 骨粗鬆症）
	4.	軟骨や関節の基礎と疾患（神宮司誠也） P5　－8（1. 整形外科基礎知識 B.軟骨の基本構造、C.関節の基本構造） P77－78（6. 先天性骨・関節疾患 B.先天性関節疾患） P61－65（4. 炎症性疾患 B.非感染症性関節疾患）
	5.	骨格筋や神経の基礎と疾患（今村寿宏） P8－17（1. 整形外科基礎知識 D.骨間筋の基本構造と機能、E.神経系の基本構造） P93－98（9. 神経・筋疾患）
	6.	感染症や代謝内分泌疾患等（安田廣生） P59－61（4. 炎症性疾患 A.感染症（軟部組織・骨・関節）） P65－71（4. 炎症性疾患 C.炎症性疾患各論、5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患
	7.	循環障害と壊死性疾患、骨軟部腫瘍（泉貞有） P81－92（7. 循環障害と壊死性疾患、8. 骨・軟部腫瘍）
	8.	整形外科治療法前半、熱傷（皮膚移植に続いて）（安田廣生） P42－48（3. 整形外科治療法（皮膚移植まで）） P163－165（17. 熱傷）
	9.	整形外科治療法後半、切断及び離断（義肢装具に続いて）（安田廣生） P45－55（3. 整形外科治療法（手術法の皮膚衣装の他）） P166－172（18. 切断及び離断）
	10.	骨折総論、体幹並びに上肢骨折（鬼塚俊宏） P113－125（11. 骨折 A.概論－骨折とは、B.体幹の骨折、C.四肢の骨折（上肢））

	11.	下肢骨折、関節における外傷性疾患（河野勤） P126－130（11. 骨折 C.四肢の骨折） P137－140（13. 関節における外傷性疾患）
	12.	脊椎疾患（平塚徳彦） P99－110（10. 脊椎疾患）
	13.	脊髄損傷（加治浩三） P131－136（12. 脊髄損傷）
	14.	末梢神経や腱・靭帯の外傷性疾患（畑中均） P141－153 （14. 末梢神経における外傷性疾患、15. 腱・靭帯における外傷性疾患）
	15.	スポーツ障害（森達哉） P154－162（16. スポーツ障害）
成績評価の方法	定期試験（100%）	
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各講義に関連する教科書ページを前もって読んでくること。 事後には各章最後の“復習のポイント”に記載された問いに答えたり、本末にある“セルフアセスメント”を解答したりすること。	
使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学第 3 版	
参考書（参考資料等）	適宜資料を配布する。	
その他 (受講生への要望等)	効率よく、且つ分かりやすくする為に、できる限り基礎と臨床をつないだ講義内容としている。 よって、教科書の順番通りではないが、すべてを網羅できるように工夫してある。各講義の教科書ページに注意すること。	
教員 e-mail アドレス	質問等は、講義中に受け付けます。	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">神経内科学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">椎　裕章</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200029</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	神経内科では神経および筋における疾患を対象としている。まず、神経と筋の構造と機能について、次に疾患の疫学、病因、病巣、臨床症状、検査所見、診断、治療について学習する。授業では、テキストを参考としながら、スライドを用いて神経内科疾患について解説する。
授業の到達目標	神経・筋疾患の病歴より病因を想定し、神経学的所見より可能性のある病巣を挙げ、病因と病巣の組み合わせより臨床診断が行われることを理解する。
授業計画	1. 神経学のオリエンテーション 2. 神経系の構造と機能 3. 意識障害、失神 4. 頭痛、めまい 5. 筋萎縮、筋力低下、歩行障害 6. 感覚障害、失調、不随意運動 7. 筋萎縮性側索硬化症、自律神経障害 8. 認知症 9. パーキンソン病、パーキンソン症候群 10. 脊髄小脳変性症、筋疾患 11. 末梢神経障害 12. 神経系の感染症 13. 脱髄疾患、反射 14. 内科的疾患、中毒性疾患 15. てんかん
成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	講義の前に授業のテーマについて、テキストに目を通し、講義後に問題点を整理するすること。
使用テキスト	病気がみえる vlo.7 脳・神経（MEDIC MEDIA）
参考書（参考資料等）	なし
その他 (受講生への要望等)	疑問があれば、講義中もしくは講義後に質問して理解を深めるようにすること。
教員 e-mail アドレス	非公開

授業科目名	精神医学　I						
担当者名	下村　泰斗						
科目コード	1200087	**授業形態**	講義				
学　　年	2	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	1）人との接し方、共感的態度の重要性 2）環境が人の発達に与える影響について 3）精神科疾患の症状と治療について教授する。
授業の到達目標	精神疾患は何ら特別な状態ではない。誰でも陥る可能性のあることを心にとめておいてもらいたい。それらに動揺することなく、直面できる力を得る。物事を考える力を身につける。
授業計画	1.　人との接し方について 2.　精神の発達・加齢と発達障害 1（疾患の特性） 3.　精神の発達・加齢と発達障害 2（治療とリハビリテーション） 4.　統合失調症 1（疾患の特性） 5.　統合失調症 2（治療とリハビリテーション） 6.　ストレスとは 7.　うつ病と躁うつ病 1（疾患の特性） 8.　うつ病と躁うつ病 2（治療とリハビリテーション） 9.　その他の精神疾患 1（疾患の特性） 10.　その他の精神疾患 2（治療とリハビリテーション） 11.　認知症 1（疾患の特性） 12.　認知症 2（治療とリハビリテーション） 13.　課題学習 1 14.　課題学習 2 15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各講義に関する内容について、教科書を前もって読んでおくこと。
使用テキスト	標準精神医学
参考書（参考資料等）	適宜資料を配布します。
その他 (受講生への要望等)	質問は講義中または、講義終了後教室にて受け付けます。
教員 e-mail アドレス	非公開とする。

授業科目名	精神医学 Ⅱ						
担当者名	金澤　耕介						
科目コード	1220001	授業形態	講義				
学　年	2	開講期	後期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	精神症状の評価、精神疾患の診断、治療と対応の知識を得ることを目標とする。 前期は、総論として精神症候学、診断学、治療学を教授する。
授業の到達目標	・精神医学全般について、総論的理解を得る。 ・精神疾患、各々についての個別の対応を理解する。
授業計画	1.　精神医学概論　精神医学の考え方、身体基盤
	2.　精神症状学－1　意識、知覚、生理機能（睡眠、食欲等）、知能
	3.　精神症状学－2　言語、思考、感情、自我、人格
	4.　精神診断学　診断基準、面接法、検査法（心理検査、理化学検査）
	5.　精神治療学－1　身体的アプローチ（薬物療法　他）
	6.　精神治療学－2　心理学的アプローチ、社会的アプローチ
	7.　疾病各論－1　器質性精神病、症状精神病、認知症
	8.　疾病各論－2　てんかん、薬物依存
	9.　疾病各論－3　精神病性障害
	10.　疾病各論－4　気分障害
	11.　疾病各論－5　神経症性障害、ストレス障害
	12.　疾病各論－6　睡眠、食行動、性行動の障害
	13.　疾病各論－7　神経発達障害（知的障害、自閉症スペクトラム障害）
	14.　疾病各論－8　その他の病態（人格障害、行動上の問題など）
	15.　疾病各論－9　小児の特性、リエゾン精神医学、緩和医療など
成績評価の方法	・定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各講義に関連する内容について、教科書を前もって読んでくること。
使用テキスト	・標準精神医学　第6版（医学書院）
参考書（参考資料等）	・講義の進度に合わせて、適宜紹介します。
その他 (受講生への要望等)	・質問は授業中または、授業終了後教室にて受け付けます。
教員 e-mail アドレス	非公開

授業科目名	臨床医学概論						
担当者名	中島・田中・山内・椋本・河津・江上・花栗・松金・山口						
科目コード	1200078	**授業形態**	講義				
学　年	2	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	診療科別に、臨床で経験する頻度が高い疾患の症状、障害ならびに検査や治療法について詳細に講義を行う。また、理学療法や作業療法を行う際の疾患特有のリスク管理についても学ぶ。
授業の到達目標	臨床医学全般を概観し、リハビリテーションの評価や治療において必要な基礎知識の修得を図ることを目的とする。 1.　尿路の解剖とその機能を理解し、排尿管理につき学習する。 2.　口腔形態・口腔機能・口腔感覚を通して食することの基本的な知識を修得し、口腔による問題への気づきの意識の向上を図る。 3.　運動器疾患の概念・治療について理解する。 4.　耳鼻咽喉科領域の正常解剖について理解する、機能について理解する、疾患の概念治療について理解する。 5.　眼科領域の解剖や概念を理解する。

授業計画

1.	泌尿器科疾患 1	－排尿の異常	（中島信能）
2.	泌尿器科疾患 2	－自己導尿	（中島信能）
3.	口腔器疾患 1	－口腔機能	（田中　徹）
4.	口腔器疾患 2	－摂食障害	（田中　徹）
5.	看護業務		（山口美香）
6.	眼科疾患 1	－目の機能	（松金祐介）
7.	眼科疾患 2	－各疾患	（松金祐介）
8.	外科疾患 1	－救急医療	（山内潤身）
9.	耳鼻科疾患 1	－耳鼻咽喉科領域の解剖・疾患供覧	（花栗　誠）
10.	耳鼻科疾患 2	－過去の国家試験問題をたたき台にして疾患に対す理解を深める	（花栗　誠）
11.	皮膚科・形成外科疾患 1	－解剖・生理	（椋本祥子）
12.	外科疾患 2	－無菌法	（江上拓哉）
13.	皮膚科・形成外科疾患 2	－症候学	（椋本祥子）
14.	運動器疾患 1		（河津隆三）
15.	運動器疾患 2	－脊髄損傷	（河津隆三）

成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	講義前に各単元についての関連事項を予習しておくこと。 講義後は、その日のうちに復習を行い、不明な点については各自調べるか、質問すること。
使用テキスト	なし
参考書（参考資料等）	単元ごとに資料を配布する。
その他 (受講生への要望等)	積極的に講義に参加すること。 質問があれば講義中もしくは、講義終了後に受け付けます。
教員 e-mail アドレス	非公開

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">リハビリテーション医学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">蜂須賀・津田・西野・西島</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200079</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「リハビリテーション医学」では対象者の機能障害によって生じる機能的制限に至る過程のなかで理学療法や作業療法の介入は重要な治療手段の一つとして認識されている。なかでも障害の基礎的概念の一つとして位置づけられている廃用症候群に対する治療介入はリハビリテーションを進める上では特に重要となる。これら廃用症候群に対しての知識や理解を深めることは、障害の予防、活動・参加の制限や制約の視点からも必須である。さらに小児から高齢者まで幅広い領域を対象とするリハビリテーション医学において、これらの対象者の生活障害の問題点について社会的立場を含め各分野の第一人者が分担し教授する。また、施設・他職場見学、カンファレンスへの参加を実施する。
授業の到達目標	（西島英利）：精神科における地域医療について学習する。また、医学における理学療法や作業療法の治療介入としての位置づけについて理解する。 （西野憲史）：①高齢社会の進行に伴う社会の変化と高齢者自身がかかえる問題。そしてリハビリ専門職として知っておくべき内容を理解する。 ②認知症の一次、二次、三次予防の重要性にについて理解する。 ③認知症を有した高齢者とのコミュニケーションやリハビリテーションについて学習する。 （津田　徹）：呼吸機能の生理解剖を詳細に理解する。また閉塞性呼吸障害（肺気腫、気管支喘息など）、拘束性呼吸障害（じん肺、肺癌術後など）に対する呼吸リハビリテーションについて学習する。

授業計画

1.	地域リハビリテーションにおける精神科医療について	西　島
2.	高齢者に対するリハビリテーション　—高齢社会とリハビリテーション	西　野
3.	高齢者に対するリハビリテーション　—リハビリテーションのステージと回復期リハビリテーションの内容	西　野
4.	高齢者に対するリハビリテーション　—認知症の評価･診断についてと認知症予防の重要性	西　野
5.	高齢者に対するリハビリテーション　—生きがいを造る園芸療法	西　野
6.	リハビリテーション医学の概要　—成り立ち、領域、概念、対象	蜂須賀
7.	リハビリテーション医学の診療　—診断、検査、治療、処方	蜂須賀
8.	リハビリテーション医学の障害診断と評価　—障害の概念、障害評価	蜂須賀
9.	リハビリテーション医学の最新の話題（1）—高次脳機能障害、自動車運転再開	蜂須賀
10.	リハビリテーション医学の最新の話題（2）—再生医療、ロボット支援訓練	蜂須賀
11.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション—対象となる疾患と病態整理	津　田
12.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション—呼吸リハビリテーションの進め方と評価	津　田
13.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション—呼吸リハビリテーションのプログラム(1)	津　田
14.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション—呼吸リハビリテーションのプログラム(2)	津　田
15.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション—呼吸リハビリテーションの実際	津　田

成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	必要に応じて、その都度予習・復習について指示します。
使用テキスト	配布資料 津　田：動画でわかる呼吸リハビリテーション第3版（中山書店）
参考書（参考資料等）	西　島：参考書は自分で選び事前に読んでおくこと。 蜂須賀：蜂須賀研二（編集）服部リハビリテーション技術全書（第3版）、医学書院、2014年
その他(受講生への要望等)	西　島：質問は授業中に受け付けます。 西　野：試験問題には記述式で答えることとする。
教員 e-mail アドレス	非公開

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">スポーツリハビリテーション</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">石橋　敏郎</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200057</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">スポーツ傷害（外傷と障害）により選手が受ける身体的・精神的問題を十分把握したうえで、障害発生の予防法及び早期の現場復帰に向けた理学療法・作業療法の基本的なアプローチ方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">・スポーツリハビリテーションの意義と内容について説明することができる。
・スポーツリハビリテーションの具体的なアプローチ方法について、講義だけでなく映像や実技を通して内容を十分理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　スポーツリハビリテーションの概念・意義など</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　スポーツリハビリテーションとメディカルリハビリテーションの違いについて</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　スポーツ外傷とスポーツ障害の内容と違いについて</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　スポーツ外傷・障害の発生要因、身体への影響などについて</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　スポーツ傷害に対する測定と評価①（評価の進め方、疼痛・アライメントの評価）</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　スポーツ傷害に対する測定と評価②（関節可動域・徒手検査・筋力評価など）</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　スポーツ傷害に対するアプローチ①（応急処置・テーピングなど）</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　スポーツ傷害に対するアプローチ②（マッサージ・ストレッチングなど）</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　足関節・足部疾患に対するスポーツリハビリテーション①（傷害の捉え方）</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　足関節・足部疾患に対するスポーツリハビリテーション②（アプローチ方法）</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　膝関節疾患に対するスポーツリハビリテーション①（傷害の捉え方）</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　膝関節疾患に対するスポーツリハビリテーション②（アプローチ方法）</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　肩関節疾患に対するスポーツリハビリテーション（傷害の捉え方とアプローチ）</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　腰痛に対するスポーツリハビリテーション（傷害の捉え方とアプローチ）</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　補足とまとめ</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">授業参加態度（サブノートづくり）、レポート、実技内容などを総合して評価する。
評価項目と割合 授業態度（50%）、レポート（20%）、実技への参加状況（30%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">スポーツ関連雑誌（『コーチングクリニック』、『トレーニングジャーナル』など）を読んで、最新情報を知ること。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">適宜、資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">スポーツ外傷・障害の術後のリハビリテーション　園部・他書　運動と医学の出版社</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">①授業の進め方：講義やビデオなどの映像を見て、サブノートに記入して学習を進める。
②実技：実際に身体を動かしながら学びますので、積極的に参加してください。
③その他履修者へ：質問は随時受けますので、下記メールを利用してください。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">t-ishiba@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">レクリエーション</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">深町　晃次</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200058</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	医療や福祉分野における作業活動としてのレクリエーションの意義や活動に関する基礎知識を理解する。さらに、各分野のレクリエーションを学生グループで分担し、企画、実施することで、指導技術を身につける。
授業の到達目標	・レクリエーションの意義について説明することができる。 ・レクリエーションの企画、実施、評価、リスク管理ができる。
授業計画	1.　暮らしとレクリエーション 2.　レクリエーションの基本的理解 3.　様々なレクリエーション 4.　レクリエーション支援の理論 5.　身体障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習） 6.　身体障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説） 7.　発達障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習） 8.　発達障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説） 9.　精神障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習） 10.　精神障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説） 11.　老年期障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習） 12.　老年期障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説） 13.　健康増進分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習） 14.　健康増進分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説） 15.　後期まとめ
成績評価の方法	授業態度、レポート、授業課題を総合して評価する。 評価項目と割合 授業態度（10%）、レポート（20%）、授業課題（70%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	班ごとのレクリエーション企画・準備において 3 時間程度の事前学修が必要となる。
使用テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	レクリエーション　寺山久美子　三輪書店 リハビリテーション技術全書（第 3 版）　服部一郎　医学書院
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：毎回演習を行います。動きやすい服装、体育館シューズ、タオル等持参してください。 ②事前・事後学修：配布プリントを中心に事後学修し、グループごとのレクリエーション企画・実施を行います。 ③その他履修者へ：質問は随時受けますので下記メールを利用してください。
教員 e-mail アドレス	fukamachi@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">リハビリテーション栄養学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">小川　洋子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200080</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「食は命なり薬なり」といわれるように、「食」は食べ方により健康な体をつくり、一方病気にもなる。そして「食」は治療の手段にもなるのである。これを踏まえ「食」の重要性を理解し、栄養基準量、食品と栄養素、食事と疾病、さらに健康寿命延伸のため、高齢期の食事の在り方やリハビリテーションに役立つ栄養学の重要性を学ぶ。
授業の到達目標	1）食の意義と重要性を理解する 2）食品に含有される栄養素を理解する 3）食事と疾病との関連につて理解する 4）高齢期を健康に過ごすための食事の在り方を理解する 5）リハビリに役立つ栄養学を理解する

授業計画		
1.	教科のガイダンス	カリキュラムの概要と「食」について
2.	栄養学の基礎	1）5 大栄養素の機能
3.		2）栄養素含有食品
4.	栄養と食	1）「日本人のための食事摂取基準」
5.		2）摂取エネルギーの算出
6.		3）身体活動基準、食事バランスガイド
7.	病態の栄養療法	1）低栄養者・摂食障害時の栄養管理、
8.		2）サルコペニア・ロコモティブシンドローム
9.	疾患と食事療法	1）消化器疾患
10.		2）代謝性疾患
11.		3）循環器疾患
12.		4）腎臓疾患
13.	健康寿命と食事	1）健康食の考え方
14.		2）高齢者食の重要性
15.	まとめ	

成績評価の方法	定期試験（80%)、課題提出（20%)
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事後学修として復習をして下さい。
使用テキスト	講義中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等)	なし
その他 (受講生への要望等)	課題に十分取り組んでほしい。
教員 e-mail アドレス	ogawa@hcc.ac.jp

授業科目名	障害者スポーツ						
担当者名	吉田　大輔						
科目コード	1200081	**授業形態**	演習				
学　年	4	**開講期**	後期				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	この授業では、障害者福祉政策、スポーツ運動生理学・心理学、スポーツ指導方法を学び、障害をもつ人にとって「スポーツ活動」の日常化を図ることにある。また、実際にフライングディスクや車椅子バスケットといった障害者スポーツを経験する。
授業の到達目標	・障害者における「スポーツ活動」の意義と理念について理解する。 ・障害者スポーツを経験しながら、その基本的な指導方法を習得する。
授業計画	1.　オリエンテーション（全国障害者スポーツ大会と指導員制度） 2.　障害者福祉施策と障害者スポーツ 3.　ボランティア論 4.　障害に応じたスポーツの工夫・実施（フライングディスクなど） 5.　障害者スポーツの意義と理念 6.　障害に応じたスポーツの工夫・実施（スラロームなど） 7.　障害の理解とスポーツ（身体障害） 8.　障害の理解とスポーツ（知的障害） 9.　障害の理解とスポーツ（精神障害）、安全管理 10.　障害に応じたスポーツの工夫・実施（車椅子バスケットなど） 11.　北九州チャンピオンズカップの観戦 12.　バリアフリースポーツの体験（ボッチャ） 13.　バリアフリースポーツの体験（車椅子ソフトボール） 14.　車椅子バスケットボール選手との交流ゲーム 15.　総まとめ
成績評価の方法	定期試験は行わない。 授業態度（50%）と演習課題（50%）で総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業の一環として、北九州チャンピオンズカップ　国際車椅子バスケットボール大会の試合を観戦し、バリアフリースポーツを体験します。
使用テキスト	障害者スポーツ指導教本　初級・中級　改訂版　ぎょうせい
参考書（参考資料等）	No Limit（日本障がい者スポーツ協会発行誌）
その他 (受講生への要望等)	日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導者資格（初級）が取得できます（資格取得には 9,300 円が必要です）。
教員 e-mail アドレス	yoshida.d@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">リハビリテーション概論</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">橋元　隆・奥村　チカ子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200082</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	理学療法士，作業療法士の業務，役割をリハビリテーションの理念，歴史，目的，領域，現状を通して学ぶ．また，リハビリテーションにおける多職種協働やチームワークの重要性，さらには地域リハビリテーションなど包括的ケアシステムの考え方を教授する．内容が広範，かつ多岐にわたるため毎回テーマに関連した資料を配布する．
授業の到達目標	・自らが目指している理学療法士・作業療法士の業務・役割を理解できる． ・関連職種とのチームワーク・協働の在り方，またコミュニケーションの重要性について理解できる． ・理学療法・作業療法の実践にあたり，どのような知識・技術を在学中に習得し，実施する構えをつくれる．
授業計画	1.　貴方たちが目指している理学療法士・作業療法士とは？　（橋元） 2.　リハビリテーションの歴史，理念，手段，目指すところは何か．　（橋元） 3.　障害の捉え方：ICD，ICIDH，ICF　（奥村） 4.　リハビリテーションの関連法規　（奥村） 5.　リハビリテーションの関連職種　（奥村） 6.　医学的リハビリテーションの対象概説　（奥村） 7.　社会的リハビリテーション（職業的リハビリテーションを含む）　（奥村） 8.　筋・神経障害，高次脳機能障害の対象疾患　（奥村） 9.　精神・心理障害の対象疾患　（奥村） 10.　教育的リハビリテーション　（橋元） 11.　運動器障害の対象疾患　（橋元） 12.　呼吸・循環器障害，内部障害の対象疾患　（橋元） 13.　高齢者に対する介護予防・健康づくり　（橋元） 14.　地域包括ケアとリハビリテーションについて　（橋元） 15.　食と運動の融合「健康生活の番人」とは　（橋元）
成績評価の方法	評価項目と割合 定期試験：筆記（80%）を重要視する． 授業態度，レポートなど平常点（20%）にて評価する．
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	リハビリテーションの最終目的は生活の再建であり，その支援である．日々の社会変化に疎くならないように，世の中の出来事に興味を持つこと．
使用テキスト	適宜，資料を配布する．
参考書（参考資料等）	蜂須賀研二　編集：「服部リハビリテーション全書　第3版」医学書院　2014 その他，図書室に多くの関連書があるので，おおいに利用してほしい．
その他(受講生への要望等)	自ら目指すリハビリテーションの専門職として，夢を言葉として表現することから始めましょう．
教員 e-mail アドレス	橋元　隆：hashimoto@knwu.ac.jp　　奥村　チカ子：okumura@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">地域保健学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">大丸　幸・沖　勉</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200083</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	公衆衛生学の基礎知識および地域保健法を基盤とした国民の健康支援活動について、医療から日常の生活習慣、環境整備の重要性および国や北九州市の施策の動向や実践活動を学修することで、理学療法士・作業療法士として医療機関だけでなく、地域保健活動においても具体的な役割機能を発揮できるように、実務的な学修を行う。（沖：5 回、大丸：10 回）
授業の到達目標	1. 公衆衛生学の基礎知識を学修する。 2. 地域保健活動における理学療法士・作業療法士（PT/OT）の役割機能を学修する。 3. 地域理学療法学・地域作業療法学等への科目と連動できるようになる。
授業計画	1. 公衆衛生と疫学的方法について（P1～28）（沖） 2. 健康の指標（P29～49）（沖） 3. 感染症とその予防（P51～64）（沖） 4. 食品保健と栄養（P65～82）（沖） 5. 生活環境の保全（P83～105）（沖） 6. 健康教育とヘルスプロモーション（P179～）と PT/OT の役割（大丸） 7. 医療の制度（P107～）と介護予防活動における PT/OT の役割（大丸） 8. 認知症支援策とグッドプラクティス（ビデオ）のグループ討議（大丸） 9. 障害者総合支援法（P196）：身体障害者福祉法における PT/OT の役割（大丸） 10. 生活習慣病・難病（P159～）と難病者（ALS）への PT/OT の役割（大丸） 11. 精神保健福祉（P191～）と地域精神保健活動における PT/OT の役割（大丸） 12. 高次脳機能障害者のリハビリテーション（ビデオ）のグループ討議（大丸） 13. 母子保健（P135～）と相談事例のグループ討議（大丸） 14. 産業保健（P201～）と職場のメンタルヘルス（大丸） 15. 地域保健活動（P119～）と PT/OT の役割（大丸）
成績評価の方法	公衆衛生学基礎知識（5 回）と地域保健（10 回）を 1：2 の配分で評価する。 復習ワークシート（50%）と定期試験（50%）で評価する。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	準備学修は、指定した教科書の範囲を事前に読んでくる。 事後学修は、復習ワークシートを原則として翌週に提出する。
使用テキスト	清水忠彦・佐藤拓代編集：わかりやすい公衆衛生学 第 3 版,　ヌーベルヒロカワ
参考書（参考資料等）	赤澤宏平他：公衆衛生がみえる,メディックメディア,2014 厚生労働統計協会編集：国民衛生の動向,2015/2016 年版
その他(受講生への要望等)	医療に対するニーズが大きく変化し、医療保健福祉サービスを総合的こ供給するシステを理解することが求められていますので、主体的学修を期待します。
教員 e-mail アドレス	大丸：ohmaru@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">臨床統計</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">岩田　一男</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200061</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開 講 期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単 位 数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

授業の概要と方法	統計学の基礎を学び、実験データ、調査データの処理や解釈を行う。基礎的な統計学の方法の解説と演習を身近なデータで取り上げる。できるだけ数式を使わず、難解な数学的論証を省きつつも、医療現場に即した事例で幅広い内容とする。 講義形式で進めていき、必要に応じて実際に手を動かし、演習を通してその解析・活用方法を理解していく。
授業の到達目標	臨床統計の基本的な考え方をマスターし、統計を正しく使って統計結果（統計が教えてくれる有益な情報）が正しく見られるようになる。
授業計画	1.　ガイダンス、医学研究におけるコントロール 2.　ランダム化研究 3.　効果の指標 4.　統計的仮説検定 5.　信頼区間 6.　研究に必要なサンプルサイズ 7.　平均値の比較 8.　観察研究デザイン、中間まとめ 9.　オッズ比という指標 10.　交絡の問題 11.　相関関係と回帰分析 12.　回帰分析による交絡の調整 13.　スクリーニング検査の評価 14.　生存時間の解析とハザード比 15.　まとめ
成績評価の方法	提出物など日常の受講状況（60%）、および確認テスト（40%）で総合評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	概ね 1 週間単位で必ず提出しなければならない課題がある。
使用テキスト	「医療統計力を鍛える」千葉康敬、総合医学社
参考書（参考資料等）	必要に応じて授業中に案内する。
その他 (受講生への要望等)	統計のテクニカルなことは重視しないが、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」について成果を得られていない場合は、理解が困難となる。
教員 e-mail アドレス	k-iwata@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">医療人のための経営管理</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">岩田　一男</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200064</td><td>授業形態</td><td colspan="4">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="4">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>

作業療法士選択必修	○

授業の概要と方法	職種に応じてそれぞれに必要な専門知識や能力を身につけるだけでは、医療人として十分とは言えない。それを補うひとつとして経営管理がある。 ここでは、組織をマネジメントする上で必要な基礎知識と、経営課題を解決する能力と実践的な経営能力を身につける備えとして、経営基本管理、人事・組織・行動論、会計・財務と経営分析、リスクマネジメントなどを学ぶ。また、医療機関の経営スキームを理解するうえで必要な、経営の本質、収入の仕組みなども併せて採り上げる。
授業の到達目標	・経営管理の入門レベルの知識を身につける。 ・医療の仕組み、病院の仕組みを知る。
授業計画	1.　ガイダンス、医療経営学と日本の医療 2.　医療と経営学 3.　経営組織 4.　医事管理 5.　人的資源管理 6.　調達と在庫管理 7.　会計・財務と経営分析①（会計・財務の基礎、経営分析の基礎） 8.　会計・財務と経営分析②（投資等の指標、病院の場合の利益と費用） 9.　中間まとめ 10.　医療保険制度とDPC（診断群分類） 11.　医療の評価 12.　リスクマネジメント 13.　経営に役立つ医療の情報化と医療情報システム 14.　医療情報の標準化と組織 15.　まとめ
成績評価の方法	提出物など日常の受講状況（60%）、および確認テスト（40%）で総合評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	毎回授業参加前に行うべき調べ学習（キーワード）があり、その成果を授業中に発表してもらう。
使用テキスト	特に購入の必要なし。
参考書（参考資料等）	「医療経営情報学」山内一信　同友館。 そのほか必要に応じて授業中に案内する。
その他 (受講生への要望等)	なし
教員e-mail アドレス	k-iwata@knwu.ac.jp

授業科目名	フィールド・スタディ						
担当者名	岩田　一男						
科目コード	1200066	**授業形態**	演習				
学　　年	4	**開講期**	後期				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
				○			○

授業の概要と方法	フィールド・スタディとは何か？　いろいろな定義があるだろうが、そのひとつとして、「ある調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所（現地）を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、そして現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査技法」がある。 この授業では、学生がやりたいことを具体的に企画し、その計画に従い、ゴールに向かって進めることになる。講義形式が部分的に含まれるが、自主的な活動形式（調査～整理～発表など）が中心である。
授業の到達目標	・企画やプロジェクトマネジメントの基礎概要を学び、実際の活動に適用することで、将来さまざまな課題を自ら解決していくためのコツをつかむ。 ・多様な考え方を持つメンバーと共同作業を行うことで、コミュニケーション能力を養う。
授業計画	1.　ガイダンス、テーマ選定、グループ分け
	2.　企画力アップのコツ、プロジェクトマネジメント予備知識
	3.　各グループ活動（例：計画書の立案、精査）
	4.　計画報告会
	5.　各グループ活動（例：関連資料収集）
	6.　各グループ活動（例：アンケート準備）
	7.　各グループ活動（例：同上依頼、報告会①資料作成）
	8.　中間報告会①（5~7 の成果物）
	9.　各グループ活動（例：アンケート結果整理）
	10.　各グループ活動（例：データ分析）
	11.　各グループ活動（例：同上グラフ化、報告会②資料作成）
	12.　中間報告会②（9~11 の成果物）
	13.　各グループ活動（例：考察と各種整理）
	14.　各グループ活動（例：最終報告会資料作成）
	15.　最終報告会
成績評価の方法	グループ活動の進捗状況（40%）、グループでの貢献度合（40%）、 成果発表内容（20%）で総合評価する。 （教員評価、グループ内外の学生評価、自己評価など多角度から捉える）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	自主的な活動形式なので、グループによっては、授業外での活動時間が左右される。
使用テキスト	指定しない。
参考書（参考資料等）	必要に応じて授業中に案内する。
その他 (受講生への要望等)	授業計画の 1．2．4．8．12．15 以外は、各グループで定めたルールに従い活動する。 【重要】※受講希望者へ 初回授業開始までに各自がやりたいことを簡単にメモしておくと良い。 「㋐テーマ（20 文字程度）、㋑キーワード（3～5 個）、㋒要約（任意）」
教員 e-mail アドレス	k-iwata@knwu.ac.jp

授業科目名	作業療法学概論						
担当者名	大丸　幸・奥村　チカ子・佐野　幹剛・渕　雅子						
科目コード	1220065	授業形態	講義				
学　　年	1	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	人およびその生活における作業活動の意義について考え，それを基盤に作業療法を総合的・体系的に概説する。また，対象となる身体障害，老年期障害，精神障害，発達障害の作業療法について理解を深め，「障害を持つ人」の生活再建に果たす作業療法の役割について考察する。加えて，医療人としてリハビリテーションにおける作業療法士の資質について検討する.
授業の到達目標	1. 作業活動の意義や作業療法の機能と役割を理解する. 2. 医学的・社会的・教育的・職業的リハビリテーションにおける作業療法を体系的に理解する. 3. 身体障害，老年期障害，精神障害，発達障害の作業療法を理解する. 4. 医療人および作業療法士の資質とあり方について学ぶ.

授業計画	回	内容	担当
	1.	オリエンテーションおよびレポート指針（KW:論文，抄録，テーマ，序論，対象，方法，結果，考察，結論，文献，図表）	（奥村）
	2.	専門職としての資質（KW: 医療人の資質，対象者との関係）	（奥村）
	3.	作業療法士としての資質（KW:全人間的復権，障害受容）	（奥村）
	4.	作業療法とチームリハビリテーション（KW:医学モデル，生活モデル，チーム医療，Normalization，QOL，IL，自己決定，IC）	（奥村）
	5.	障害とリハビリテーション領域（KW:ICF,ICIDH，医学的リハ，教育的リハ，職業的リハ，社会的リハ，地域リハ）	（奥村）
	6.	作業療法とリハビリテーションの歴史（KW:ピネル，シモン，ADA，呉秀三，高木憲次，障害者基本法，精神保健福祉法）	（奥村）
	7.	リハビリテーションおよび作業療法に関係する定義（KW:WHO 定義 PT・OT 法定義，日本作業療法士協会定義）	（奥村）
	8.	作業療法の流れ（KW:処方箋，評価，カンファランス，リハビリテーションゴール，OT 治療計画，治療実施）	（奥村）
	9.	作業療法評価と治療計画（KW:情報収集，観察，面接，検査測定，身体機能，精神機能，MMT,ROM,ADL,QOL，ゴール）	（奥村）
	10.	精神障害の作業療法（KW:統合失調症，気分障害，認知症）	（大丸）
	11.	身体障害，高齢期障害の作業療法（KW:脳血管障害，整形疾患）	（渕）
	12.	発達障害の作業療法（KW:脳性麻痺，自閉症スペクトラム障害）	（佐野）
	13.	地域支援における作業療法（KW:北九州市，CBR，地域包括支援，地域保健法，障がい者自立支援法）	（大丸）
	14.	作業療法の動向（KW:国際交流，WFOT,JICA）	（奥村）
	15.	作業療法部門の管理運営，職業倫理（KW:記録報告，施設基準，診療報酬，医の倫理，ヒポクラテス，日本作業療法士協会倫理）	（奥村）

成績評価の方法	レポート（20%），定期試験（80%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	予習・復習を欠かさず，可能な限り疑問点を解決すること。
使用テキスト	1. 矢谷令子監修　標準作業療法学「作業療法学概論」医学書院 2. 配布資料
参考書（参考資料等)	必要に応じて資料を配布する
その他 (受講生への要望等)	① 予習による疑問点が解決できない場合は講義中に積極的に質問すること， ② 意見交換や討議を行う場合は積極的に発言すること， ③ 大学生としての態度と探求心をもって受講すること，を望みます.
教員 e-mail アドレス	奥村：okumura@knwu.ac.jp

授業科目名	基礎作業		
担当者名	渕　雅子・宮田　浩紀・平澤　勉		
科目コード	1220066	授業形態	演習
学　　年	1	開講期	前期
単位数	1	履修方法	必修：○　選択必修：　選択：　作業療法士必修：○　作業療法士選択必修：

授業の概要と方法	先人の作業療法・作業活動の哲学を学び，作業療法の最大の特徴となる“作業・活動”に関して基礎知識を修めることを目的とする．作業療法における作業の適用のしかたと実践について説明する．作業分析について学び，基礎作業学実習のファンデーションとなることを目指す． 講義の実際は第１回から第７回まで宮田，第８回と第９回を渕， 第10回から第15回まで平澤が担当する．
授業の到達目標	1. 作業療法の哲学を知り，人間と作業の関係を説明することができる． 2. 作業療法における作業の適用のしかたと実践について理解することができる． 3. 作業分析の理論と方法を説明することができる．
授業計画	1. オリエンテーション作業療法と「作業活動」について（作業活動と作業療法） 2. 作業療法と「作業活動」について（先人の哲学・作業の主観的意味） 3. 作業を遂行するための理解（活動分析の必要性） 4. 作業遂行の包括的分析とその例 5. 作業遂行の限定的分析とその例 6. 作業の治療的応用のための基本理論（機能構造障害に対する適応） 7. 作業を実践するための分析法とその例（身体機能分析とその例） 8. 作業遂行に関する理論：学習；活動制限に対する理論（教科書 p.106-113） 9. 作業遂行に関する理論：教育；参加制約に対する理論（教科書 p.113-126） 10. 作業遂行に関する理論：環境整備；環境に対する働きかけ（教科書 p.138-146） 11. 作業分析とその例：人間関係学的分析とその例（教科書 p.80-82, 183-186） 12. 作業分析とその例：精神機能分析とその例（教科書 p.167-177） 13. 作業遂行の包括的分析例（教科書 p.189, 198-200） 14. 神経発達学的治療について 15. 神経発達学的治療の実際
成績評価の方法	宮田・平澤：定期試験（70%），ワークシート（30%） ワークシートは講義内容の理解・疑問・気づき（到達目標 2, 3）を評定し，シート内の確認テストは評価に含まない． 渕　　：後日提示する．
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	準備学修（教科書の該当部分を読み講義に臨む．配布された課題を読み，不明な点は調べておく．）事後学修（確認テストに備えて，重要項目を復習する．）
使用テキスト	日本作業療法士協会監修：作業療法学全書　第２巻　基礎作業学，協同医書，2010 適宜資料を配布します．
参考書（参考資料等）	小林夏子,福田恵美子編：標準作業療法学 基礎作業学，医学書院，2012 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，医歯薬出版，2008
その他（受講生への要望等）	グループワークによる協議など，演習を交えながら進めますので積極的に参加してください．質問については，ワークシートやオフィスアワーを活用してください．
教員 e-mail アドレス	渕　：fuchi@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp 平澤：hirasawa@knwu.ac.jp

授業科目名	活動解析演習						
担当者名	佐野　幹剛						
科目コード	1220050	授業形態	演習				
学　　年	3	開講期	前期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	作業療法の中核をなす作業活動について、科学的視点で作業の持つ本質を詳細に分析演習する。特に、日常生活活動において、動作的要素、認知的要素、感情的要素にわけて、普段実行している活動の構成要素を明確にする。さらに、運動麻痺、高次脳機能障害などの障害特性からくる作業活動の問題を検討する。
授業の到達目標	・人間の動きに関する動作分析の方法を理解し、基本的動作を分析することができる。 ・日常生活活動における動作的要素、認知的要素、感情的要素を理解することができる。 ・運動障害や認知障害に伴う行動問題を分析することができる。
授業計画	1.　オリエンテーション　活動分析の目的と臨床での応用 2.　活動分析の方法①　ビデオを使った身体部位の動作解析法 3.　活動分析の方法②　重心動揺計を使った姿勢変化の解析法 4.　活動分析の方法③　フォースプレートを使った歩行分析 5.　活動分析の方法④　筋電図を使った筋活動パターンの解析 6.　活動分析の実際①　基本動作の分析 1:立ち上がり動作 7.　活動分析の実際②　基本動作の分析 2:寝返り動作 8.　活動分析の実際③　基本動作の分析 3:リーチング動作 9.　日常生活活動の分析①　お掃除の動作的要素、認知的要素、感情的要素 10.　日常生活活動の分析②　食器洗いの動作的要素、認知的要素、感情的要素 11.　日常生活活動の分析③　洗濯物を干す作業の動作的要素、認知的要素、感情的要素 12.　運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析①　更衣動作 13.　運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析②　食事動作 14.　運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析③　入浴動作 15.　まとめ
成績評価の方法	活動分析、日常生活活動、障害特性に関わる課題分析において、各自が決めたテーマで分析レポートを書いてもらいます。 評価の比率は、活動分析（40%）、日常生活活動（30%）、障害特性に関わる課題分析（30%）とする。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	「基礎作業」、「基礎作業実習Ⅰ」、「基礎作業実習Ⅱ」の演習及び実習内容を復習しておくこと。
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	「日常生活活動の分析　身体運動学的アプローチ」　医歯薬出版株式会社
その他 (受講生への要望等)	実際に機器を使用しながらテーマに沿った分析を行います。 機器の取り扱いには十分気をつけてください。
教員 e-mail アドレス	sano@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">基礎作業実習　I</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">深町　晃次・平澤　勉・宮田　浩紀</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220067</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">実習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	作業療法において活用頻度の高い種目を中心に、実際に作業活動に取り組むことを通して、学生自身が心身に起こる様々な変化を体験し、評価・治療への応用ができるようになることを目標とする。
授業の到達目標	1. 作業活動を学び、活動分析ができるようになる。 2. 作業活動の特徴を理解し、臨床で用いる準備をする。 3. 作業活動を他者に指導できるようになる。
授業計画	1.　オリエンテーション・レクリエーション①（深町）レクの活動特性，実習① 2.　レクリエーション②（平澤）　実習：対象者の想定（グループ討論）を含む 3.　レクリエーション③（宮田）　実習：活動分析，指導体験（発表） 4.　籐細工①（宮田）　籐細工の活動特性について，籐細工制作① 5.　籐細工②（宮田）　実習：籐細工制作②，制作指導体験 6.　籐細工③（宮田）　実習：籐細工制作③，活動分析（発表） 7.　陶芸①　（深町）　陶芸の活動特性，陶芸制作① 8.　陶芸②　（深町）　実習：陶芸制作② 9.　陶芸③　（深町）　実習：陶芸制作③，制作指導体験 10.　陶芸④　（深町）　実習：陶芸制作④，活動分析（発表） 11.　革細工①（平澤）　革細工の活動特性について，革細工制作① 12.　革細工②（平澤）　実習：革細工制作② 13.　革細工③（平澤）　実習：革細工制作③，制作指導体験 14.　革細工④（平澤）　実習：革細工制作④，活動分析（発表） 15.　前期のまとめ（深町・平澤・宮田）
成績評価の方法	授業態度、授業での課題、定期試験を総合して評価する。 評価項目と割合 授業態度（10%）　授業での課題（30%）　定期試験（60%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各回、次回講義への課題が提出されるため1時間程度の事前学修が必要となる。
使用テキスト	作業療法学全書　改定第3版　第2巻　基礎作業学(協同医書) 作業活動実習マニュアル（医歯薬出版）
参考書（参考資料等)	標準作業療法学　基礎作業学(医学書院) はじめての陶芸（成美堂）　革の技法（日本ヴォーグ社） 作業って何だろう（医歯薬）
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：各作業活動の最終回は、実習・製作を終了しグループメンバーでまとめた活動分析の発表を行います。 ②事前・事後学修：各活動初回授業の前に、指定した教科書を読んできてください。 ③その他履修者へ：実技や活動制作が中心となる授業のため、動きやすく汚れても大丈夫な服装で授業に臨んでください。
教員 e-mail アドレス	深町：fukamachi@knwu.ac.jp　平澤：hirasawa@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp

授業科目名	基礎作業実習 Ⅱ						
担 当 者 名	深町　晃次・平澤　勉・宮田　浩紀						
科目コード	1220068	授 業 形 態	実習				
学　　年	2	開　講　期	前期				
単　位　数	1	履 修 方 法	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○	○	

授業の概要と方法	作業療法において活用頻度の高い種目を中心に、実際に作業活動に取り組むことを通して、学生自身が心身に起こる様々な変化を体験し、評価・治療への応用ができるようになることを目標とする。
授業の到達目標	1. 作業活動を学び、活動分析ができるようになる。 2. 作業活動の特徴を理解し、臨床で用いる準備をする。 3. 作業活動を他者に指導できるようになる。
授業計画	1.　絵画①（平澤）　絵画の活動特性，コラージュ制作
	2.　絵画②（平澤）　実習：屋外写生
	3.　絵画③（平澤）　実習：ﾌｨﾝｶﾞｰ・ﾍﾟｲﾝﾃｨﾝｸﾞ制作，制作指導体験，活動分析（発表）
	4.　園芸①（平澤）　園芸の活動特性，園芸実習①
	5.　園芸②（平澤）　実習：園芸実習②，実習指導体験，活動分析（発表）
	6.　金工①（深町）　金工の活動特性，金工制作①
	7.　金工②（深町）　実習：金工制作②，制作指導体験
	8.　金工③（深町）　実習：金工制作③，活動分析（発表）
	9.　マクラメ・糸細工①（宮田）　マクラメ・糸細工の活動特性、糸細工制作①
	10.　マクラメ・糸細工②（宮田）　実習：糸細工制作②，制作指導体験
	11.　マクラメ・糸細工③（宮田）　実習：糸細工制作③，活動分析（発表）
	12.　木工①（深町）　木工の活動特性，木工制作①
	13.　木工②（深町）　実習：木工制作②，制作指導体験
	14.　木工③（深町）　実習：木工制作③，活動分析（発表）
	15.　後期のまとめ（深町・平澤・宮田）
成績評価の方法	授業態度、授業での課題、定期試験を総合して評価する。 評価項目と割合 授業態度（10%）　授業での課題（30%）　定期試験（60%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各回、次回講義への課題が提出されるため1時間程度の事前学修が必要となる。
使用テキスト	作業療法学全書　改定第3版　第2巻　基礎作業学(協同医書) 作業活動実習マニュアル（医歯薬出版）
参考書（参考資料等）	標準作業療法学　基礎作業学(医学書院) 作業って何だろう（医歯薬）
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：各作業活動の最終回は、実習・製作を終了しグループメンバーでまとめた活動分析の発表を行います。 ②事前・事後学修：各活動初回授業の前に、指定した教科書を読んできてください。 ③その他履修者へ：実技や活動制作が中心となる授業のため、動きやすく汚れても大丈夫な服装で授業に臨んでください。
教員 e-mail アドレス	深町：fukamachi@knwu.ac.jp　　平澤：hirasawa@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">作業療法ゼミナール　I</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220069</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">通年（前期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	作業療法は生活学を基盤にした臨床の学問であり、生活の多様な側面に興味を持ち、その構造や仕組みを知る必要がある。身近なテーマに着目し、作業療法の観点で論文を精読するために基礎的な事項を学ぶ。
授業の到達目標	・作業療法を研究という視点から見ることにより、作業療法の展開的発展に寄与する視点をもつことができる。 ・作業療法のプロセスや基本的なスタイルについて理解することができる。 ・論文精読のための基礎的スキルを説明できる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. レポートの書き方（書式・表紙） 3. レポートの書き方（序文・本文） 4. レポートの書き方（考察・文献） 5. タイピングソフト（ワード）の基本的な使い方①（ワードでできること） 6. タイピングソフト（ワード）の基本的な使い方②（タイピング） 7. インターネットの活用法①（本学 HP や情報検索方法） 8. インターネットの活用法②（Webmail の活用方法） 9. ノート整理とポートフィリオ①（ノートの活用方法） 10. ノート整理とポートフィリオ②（メモの集約方法） 11. 情報の整理法①（事実の見分け方） 12. 情報の整理法②（考察の書き方） 13. 資料文献の構成を知る 14. 資料文献の利用方法 15. まとめ
成績評価の方法	レポート課題、発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	討議等に向けて事前・事後の学習を必要とする。
使用テキスト	「作業療法士のための研究法入門」（三輪書店） 授業中に適宜，資料を配布する。
参考書（参考資料等）	適宜授業で紹介する。
その他 (受講生への要望等)	課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 ゼミ担当者の指示に従うこと。
教員 e-mail アドレス	ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡する.

授業科目名	作業療法ゼミナール Ⅰ						
担当者名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220069	**授業形態**	演習				
学　　年	1	**開講期**	通年（後期）				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	作業療法は生活学を基盤にした臨床の学問であり、生活の多様な側面に興味を持ち、その構造や仕組みを知る必要がある。身近なテーマに着目し、作業療法の観点で論文を精読することから具体的な研究のスタイルをゼミナール形式で学ぶ。
授業の到達目標	・作業療法を研究という視点から見ることにより、作業療法の展開的発展に寄与する視点をもつことができる。 ・研究のプロセスや基本的なスタイルについて説明することができる。 ・学術論文のスタイルに慣れる。
授業計画	16.　オリエンテーション
	17.　作業療法士の日常生活活動での関わり
	18.　文献抄読①　脳血管障害（文献検索とレポート作成）
	19.　脳血管障害（プレゼンテーションと質疑応答）
	20.　文献抄読②　整形外科疾患（文献検索とレポート作成）
	21.　整形外科疾患（プレゼンテーションと質疑応答）
	22.　文献抄読③　統合失調症（文献検索とレポート作成）
	23.　統合失調症（プレゼンテーションと質疑応答）
	24.　文献抄読④　気分障害（文献検索とレポート作成）
	25.　気分障害（プレゼンテーションと質疑応答）
	26.　文献抄読⑤　認知症（文献検索とレポート作成）
	27.　認知症（プレゼンテーションと質疑応答）
	28.　文献抄読⑥　発達障害（文献検索とレポート作成）
	29.　発達障害（プレゼンテーションと質疑応答）
	30.　まとめ
成績評価の方法	レポート課題、発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	討議等に向けて事前・事後の学習を必要とする。
使用テキスト	「作業療法士のための研究法入門」（三輪書店） 授業中に適宜，資料を配布する。
参考書（参考資料等）	適宜授業で紹介する。
その他 (受講生への要望等)	課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 ゼミ担当者の指示に従うこと。
教員 e-mail アドレス	ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法ゼミナール Ⅱ						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220070	**授 業 形 態**	演習				
学　　　年	2	**開　講　期**	通年（前期）				
単　位　数	1	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	先行研究の論文に親しみながら、学生の興味ある領域の論文を読み、 作業療法を研究の視点でとらえる。 また、学生自身が研究テーマを持って、小グループに別れ、文献を抄読し、ディスカッションし、 これまで抄録した論文をまとめ、 プレゼンテーションを行う。
授業の到達目標	1.　過去の研究を調査・整理し分析して課題を抽出し・報告することができる。 2.　収集した資料をまとめ，プレゼンテーションすることができる。 3.　研究テーマを持つことができる。
授業計画	1.　前期オリエンテーション
	2.　ゼミグループ分け，資料文献の検索方法
	3.　文献抄読会（身体障害）
	4.　文献抄読会（身体障害②）
	5.　文献抄読会（発達障害①）
	6.　文献抄読会（発達障害②）
	7.　文献抄読会（精神障害①）
	8.　文献抄読会（精神障害②）
	9.　文献抄読会（老年期障害）
	10.　文献抄読会（地域作業療法）
	11.　プレゼンテーション演習　Power Point 発表の要点
	12.　プレゼンテーション演習　Power Point による発表①
	13.　プレゼンテーション演習　Power Point による発表②
	14.　プレゼンテーション演習　Power Point による発表③
	15.　プレゼンテーション演習　Power Point による発表④
成績評価の方法	レポート課題（40%）、発表（60%） レポート課題は献抄録 3 つ作成する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	討議等に向けて事前の調査・検討や発表資料・プレゼンテーションファイルの作成、事後の学習を必要とする。
使用テキスト	鎌倉　矩子：作業療法士のための研究法入門　精神障害，三輪書店，1997 授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 ゼミ担当者の指示に従うこと。
教員 e-mail アドレス	ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法ゼミナール Ⅱ						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220070	**授 業 形 態**	演習				
学　　　年	2	**開　講　期**	通年（後期）				
単　位　数	1	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	先行研究の論文に親しみながら、作業療法を研究の視点でとらえる。 作業療法研究の流れを説明し、前期に学習した研究についての理解を深める。自分の興味のある研究テーマを設定し、研究方法を考察するための知識を習得する。
授業の到達目標	1. 研究テーマを持つことができる。 2. 研究方法を説明することができる。
授業計画	1. オリエンテーション
	2. 研究をするということ
	3. 作業療法と研究
	4. 研究疑問
	5. 研究の様式
	6. 研究の流れ①
	7. 研究の流れ②
	8. 研究の種類
	9. 研究のデザイン
	10. 研究の発表　スライド作成など
	11. 研究の発表　プレゼンテーションについて
	12. 研究と統計①
	13. 研究と統計②
	14. 研究と統計
	15. まとめ
成績評価の方法	レポート課題と授業参加度（100%） レポート課題は研究テーマ希望用紙を 2 つ作成する.
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	討議等に向けて事前の調査・検討や発表資料・プレゼンテーションファイルの作成、事後の学習を必要とする。
使用テキスト	鎌倉 矩子：作業療法士のための研究法入門 精神障害, 三輪書店, 1997 授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 ゼミ担当者の指示に従うこと。
教員 e-mail アドレス	ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法ゼミナール Ⅲ						
担当者名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220071	**授業形態**	演習				
学　年	3	**開講期**	通年（前期）				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	3 年次は、後期に「臨床実習Ⅲ」(評価実習)を履修する。よって、前期では、実習に臨む心構えやマナー、実習の進め方などについて具体的な実践演習を行う。
授業の到達目標	・実習生としての心構えとマナーを身に着けることができる。 ・実習で体験した症例についてまとめ、報告することができる。
授業計画	1.　前期オリエンテーション
	2.　臨床実習とは
	3.　実習生としての心構え
	4.　実習生としてのマナー
	5.　実習生としてのマナーに関する自覚チェック
	6.　医療安全管理について
	7.　個人情報保護について
	8.　個人情報保護に基づいた記録の演習
	9.　実習の進め方の課題
	10.　評価演習①　身体障害分野
	11.　評価演習②　精神障害分野
	12.　評価演習③　発達障害分野
	13.　評価演習④　高齢期障害分野
	14.　評価演習⑤　高次脳機能障害分野
	15.　まとめ
成績評価の方法	レポート課題、発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	作業療法評価学で学習した内容を復習しておくこと。
使用テキスト	臨床実習録
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	医療人としてのマナーは、実習のときだけでなく普段の生活から心掛けておくように。
教員 e-mail アドレス	ゼミ単位の教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法ゼミナール Ⅲ						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220071	授 業 形 態	演習				
学　　　年	3	開 講 期	通年（後期）				
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	3 年次の後期は、「臨床実習Ⅲ」(評価実習)を履修する。実習後のフォードバックとして症例発表、症例の振返り、課題レポートの見直しなどを行う。
授業の到達目標	・実習生としての心構えとマナーを身に着けることができる。 ・実習で体験した症例についてまとめ、報告することができる。
授業計画	1.　後期オリエンテーション 2.　実習の報告 3.　実習ノート・各種レポートの提出、学校及び施設フィードバックの記入 4.　症例発表資料の作成①　レジメの準備 5.　症例発表資料の作成②　レジメの作成 6.　症例発表①　(身体障害分野) 7.　症例発表②　(精神障害分野) 8.　症例発表③　(高齢期障害分野) 9.　症例発表④　(発達障害分野) 10.　症例発表⑤　(高次脳機能障害分野) 11.　症例の振返り①　評価項目の選択 12.　症例の振返り②　評価の実施 13.　症例の振返り③　評価結果の解釈と統合 14.　課題レポートの見直しと修正 15.　後期まとめ
成績評価の方法	レポート課題、発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	「作業療法評価学」で学習した内容を復習しておくこと。
使用テキスト	臨床実習録
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	医療人としてのマナーは、実習のときだけでなく普段の生活から心掛けておくように。
教員 e-mail アドレス	ゼミ単位の教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法研究法						
担当者名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220072	授業形態	演習				
学年	3	開講期	前期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○	○	

授業の概要と方法	個々の研究テーマの検討と選択し、研究論文作成に向けた具体的な体験をしながら、研究を深める際の基本的な手順を実践する。前半では、学生の研究テーマを具現化するためにそれぞれのテーマについてグループで相互に検討しテーマの絞り込みと方法論や分析法などを詳細に検討する。後半では、検討した内容を文章化し研究計画書を作成する。その内容をグループ内でプレゼンテーションする。
授業の到達目標	1. 学生ひとりひとりが研究テーマを持つことができる。 2. 自分の研究テーマに沿って、研究計画書を作成することができる。 3. 研究計画書を作成するにあたり必要であれば予備調査を実施することができる。
授業計画	1. オリエンテーション
	2. 研究テーマの分野検討と希望調査
	3. 個々のテーマの方向性報告と意見交換
	4. 個々のテーマの資料収集
	5. 個々のテーマの研究計画書の作成
	6. 研究計画書に基づいた予備調査
	7. 中間報告と検討
	8. 予備調査に基づいた研究計画書の見直し
	9. 研究計画書の作成
	10. 予備調査
	11. 調査結果の報告と検討
	12. 発表資料の作成
	13. プレゼンターションと議論
	14. 卒業研究に向けた心構えと準備
	15. まとめ
成績評価の方法	レポート課題と発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 討議等に向けて事前・事後の学習を必要とする。
使用テキスト	「作業療法士のための研究法入門」（三輪書店） 授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	作業療法卒業研究と連動した科目です。
教員 e-mail アドレス	ゼミ単位の教員アドレスは別途連絡する。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">身体障害評価論演習　I</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">四元　孝道</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220007</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>2</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	身体障害分野における身体機能の基本的な評価の知識や方法を演習を通して学習する。 これらで学んだ評価法を用いて治療に結び付けられるような視点を養う。
授業の到達目標	1.　形態測定や関節可動域検査など各種の評価の意味や方法を説明できる。 2.　各種検査を適切に実践できる。 3.　各評価をまとめ、症例についての適切な報告が行える。
授業計画	1.　オリエンテーション（評価の概論や意義） 2.　意識・バイタル 3.　形態測定①（概論と評価演習） 4.　形態測定②（評価演習とその記録報告） 5.　関節可動域①（概論と評価演習：上肢） 6.　関節可動域②（上肢とその記録報告） 7.　関節可動域③（上下肢） 8.　関節可動域④（下肢とその記録報告） 9.　徒手筋力検査①（概論と評価演習：上肢） 10.　徒手筋力検査②（上肢） 11.　徒手筋力検査③（上肢とその記録報告） 12.　徒手筋力検査④（下肢） 13.　徒手筋力検査⑤（下肢とその記録報告） 14.　COPM 15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（50%）、実技試験（30%）、小テスト（20%） 授業中に数回小テストを行う。 実技試験と定期試験と総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	関節可動域と徒手筋力検査
使用テキスト	（編）岩崎テル子、他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第 2 版. 医学書院，東京，2011. Helen J.Hislop, Jacqueline Montgomery(訳)津山直一ら：新・徒手筋力検査法　原著第 8 版．協同医書，東京，2012. その他　必要な資料はその都度配布
参考書（参考資料等)	Cynthia C.Norkin, D.Joyce White(監訳)木村哲彦：関節可動域測定法　可動域測定の手引き　改定第 2 版．協同医書，東京，2008
その他 (受講生への要望等)	演習を中心に進めていく。 演習が可能な服装・道具を準備すること。
教員 e-mail アドレス	yotsumoto@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">身体障害評価論演習 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">四元　孝道・宮田　浩紀</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220008</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	身体障害分野における身体機能の基本的な評価の知識や方法について演習を通して学習する。これらで学んだ評価法を用いて治療に結び付けられるような視点を養う。
授業の到達目標	1.　感覚検査、反射検査など各種の評価の意味や方法を説明できる。 2.　各種検査を適切に実践できる。 3.　各評価をまとめ、症例についての適切な報告が行える。
授業計画	1.　オリエンテーション・感覚検査：概論 2.　感覚検査：評価演習 3.　感覚検査：記録報告 4.　反射検査：概論と評価演習 5.　反射検査：評価演習と記録報告 6.　姿勢反射・筋緊張検査 7.　協調性検査 8.　上肢機能検査：概論 9.　上肢機能検査：評価演習 10.　上肢機能検査：片麻痺の上肢機能検査を含む 11.　脳神経検査：概論 12.　脳神経検査：評価演習と記録報告 13.　症例評価：モデルとなる症例について検討する 14.　症例報告：全体の評価からその報告を行う 15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（50%）、実技試験（30%）、小テスト（20%） 授業中に数回小テストを行う。 実技試験と定期試験と総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	小テストは前回授業の範囲について筆記試験を行う。
使用テキスト	（編）岩崎テル子、他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第2版．医学書院，東京，2011． 田崎義昭，斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた　第17版．南山堂，東京，2010． その他必要な資料はその都度配布
参考書（参考資料等）	なし
その他 (受講生への要望等)	演習を中心に進めていく。 演習が可能な服装・道具を準備すること。
教員 e-mail アドレス	四元：yotsumoto@knwu.ac.jp、　宮田：miyata.h@knwu.ac.jp

授業科目名	精神障害評価論演習						
担当者名	中山　広宣・深町　晃次・平澤　勉						
科目コード	1220086	授業形態	演習				
学　　年	2	開講期	後期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	精神障害者のリハビリテーションに必要な評価とその方法，および疾患別における評価方法について演習とともに提示する．
授業の到達目標	1. 精神障害リハビリテーションの流れを説明できる． 2. 精神機能，社会生活機能の評価を理解する． 3. 対象者を理解し治療計画を立てることができる． 4. 疾患別，回復段階に応じた作業療法評価を習得し，実習に備える．
授業計画	1. 各種理論と評価Ⅰ：芸術療法（絵画療法，音楽療法），箱庭療法　（中山）
	2. 各種理論と評価Ⅱ：行動療法，森田療法，心理劇　（中山）
	3. 各種理論と評価Ⅲ：社会生活技能訓練，心理教育，認知行動療法（中山）
	4. 精神分析理論，交流分析理論　（中山）
	5. 精神障害の構造　（中山）
	6. 精神障害作業療法の流れ：評価と治療計画　（中山）
	7. 精神障害作業療法の評価方法と評価内容，治療目的　（中山）
	8. 疾患別作業療法評価：統合失調症　（深町）
	9. 症例評価演習：統合失調症　（深町）
	10. 疾患別作業療法評価：認知症　（深町）
	11. 症例評価演習：認知症　（深町）
	12. 疾患別作業療法評価・症例評価演習：アルコール，薬物依存　（深町）
	13. 神経症性障害：強迫症および身体症状症　（平澤）
	14. パーソナリティ障害：境界性パーソナリティ障害　（平澤）
	15. 摂食障害：神経性やせ症および神経性過食症　（平澤）
成績評価の方法	評価項目と割合　小テスト（40%），定期試験（60%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各自，各種理論や評価について予習すること．そして疑問点を整理して，可能な限り理解するよう調べること．その中で文献検索の方法を学び，同時に興味や問題意識を深めるとともに，問題解決能力を養うこと．
使用テキスト	・中山：標準作業療法学　作業療法評価学（第2版），医学書院，2011．配布資料 ・深町：標準作業療法学　作業療法評価学（第2版），医学書院，2011 ・平澤：作業療法学全書　改定第3版　第5巻　作業治療学2　精神障害，協同医書，2010
参考書（参考資料等）	・精神疾患の理解と精神科作業療法(朝田隆，中島直，堀田英樹），中央法規出版，2012
その他 (受講生への要望等)	① 予習による疑問点が解決できない場合は講義中に積極的に質問すること， ② 意見交換や討議を行う場合は積極的に参加・発言すること， ③ 学生としての態度と探求心をもって受講すること，を望みます．
教員 e-mail アドレス	中山：nakayama@knwu.ac.jp　　深町：fukamachi@knwu.ac.jp 平澤：hirasawa@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">認知機能障害評価論演習</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">四元　孝道・宮田　浩紀</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220073</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択
必修</td><td>選択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	高次脳機能障害に関する障害像を理解し、その評価方法の基本的な知識と技術について演習を通して体験し、発表することでその技術を獲得する。
授業の到達目標	1. 高次脳機能障害の臨床症状を理解して適切な検査を選択することができる。 2. 各高次脳検査の手順と方法を説明し、実施することができる。 3. 各検査の結果を解釈し、治療へつなげることができる。
授業計画	1. オリエンテーション：高次脳機能検査の種類 2. 知能検査①（WAIS ・HDS-R・MMSE） 3. 知能検査②（Kohs 立方体組み合わせテスト・RCPM） 4. 注意評価①（CAT） 5. 注意評価②（CAT・TMT・行動観察） 6. 記憶検査①（WMS-R） 7. 記憶検査②（Rey の複雑図形検査、RBMT） 8. 前頭葉検査①（FAB、FT） 9. 前頭葉検査②（KWCST、TOT） 10. 遂行機能検査（BADS） 11. 失行検査（SPTA、他） 12. 失認検査①（BIT） 13. 失認検査②（VPTA） 14. 失語症検査（SLTA・WAB・日常生活） 15. まとめ
成績評価の方法	発表(50%)、レポート(50%) グループごとに検査方法をまとめ各グループ間で発表しレポートを提出する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各グループ間で検査評価方法を調べて担当ごとに練習しグループ内で発表するため、各自発表の際にはしっかりと練習してその評価法に精通すること。
使用テキスト	石合純生：高次脳機能障害学　第２版．医歯薬出版，2012. 授業中に適宜資料配布
参考書（参考資料等）	長崎重信：作業療法学ゴールド・マスターテキスト 5 高次脳機能作業療法学. メジカルビュー社，2012.
その他 (受講生への要望等)	高次脳機能障害の症状から適宜検査を選択して結果を被験者にわかりやすく伝えることをイメージしてください。
教員 e-mail アドレス	yotsumoto@knwu.ac.jp

授業科目名	発達障害評価論演習						
担当者名	佐野　幹剛						
科目コード	1220010	授業形態	演習				
学　　年	2	開講期	前期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	
授業の概要と方法	発達障害児の作業療法について理解を深めながら、発達途上にある子どもたちの健康な部分と障害の部分を見分け、治療につなげていく評価法について学習する。多様化する発達障害の臨床像に適した評価法を選択し、実施する手順を教授する。また、評価結果を分析し、作業療法を計画できる一連の課程を演習することにより習得していく。						
授業の到達目標	・発達障害の作業療法で用いる評価の種類を理解することができる。 ・発達障害を持つ子どもの臨床像を運動学的解剖学的に評価することができる。 ・発達障害に対する標準的な評価の具体的な内容と手順を理解することができる。						
授業計画	1.　発達障害に対する作業療法評価の意義 2.　発達障害の概要とその臨床像 3.　評価手段の分類と種類 4.　静止画像を用いた臨床像の分析 5.　動作分析法 1：床上動作 6.　動作分析法 2：移動動作 7.　動作分析法 3：巧緻動作 8.　動作分析法 4：口腔機能 9.　反射と反応の評価 10.　発達スクリーニング検査の使い方 11.　視知覚発達検査の実際 12.　認知発達評価と人物画テストの実際 13.　神経生理学的検査の実際 14.　ADL 評価と面接法 15.　まとめ						
成績評価の方法	レポート課題「基本動作の分析レポート」、「発達障害児の画像分析レポート」および期末試験を行い総合的に評価する。 評価の比率は、レポート課題（40%）、期末試験（60%）とする。						
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	人間発達学、運動学総論で学習した内容を復習しておくこと。						
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。						
参考書（参考資料等）	「作業療法評価学」　協同医書						
その他(受講生への要望等)	静止画像の分析では、発達障害を持つ児童の画像を見ながら姿勢の特徴を捉えていく演習を行う。運動学用語を使えるように各自学習しておくこと。 動作分析法では、身体を動かしながら分析する演習を行うので実習着を準備しておくこと。						
教員 e-mail アドレス	sano@knwu.ac.jp						

授業科目名	日常生活活動分析論演習						
担当者名	宮田　浩紀						
科目コード	1220011	**授業形態**	演習				
学　　年	2	**開講期**	前期				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	
授業の概要と方法	私達は日常生活活動（食事・整容・更衣・排泄・入浴など）を通して毎日の生活をしている。しかし病気や障害，老化によりこれらの動作を円滑に行えないことが多く、作業療法士の役割の一つとして日常生活動作の改善が求められる。 この演習では日常生活活動に関する概念の基礎から各動作の評価、活動分析の視点、さらに福祉用具や住宅改修などの工夫や援助について理解を深めることを目的にする。						
授業の到達目標	1. ADL の概念や範囲を説明できる 2. 代表的な ADL 評価方法を説明できる 3. 基本動作を理解し，動作分析および対象者に対する支援方法を実践する 4. 各活動の工程，動作を理解し，動作特徴，身体活動について理解できる 5. 歩行補助具や車椅子，福祉用具を用いた日常生活活動の支援技術が理解できる						
授業計画	1.　オリエンテーション・日常生活活動の概念						
	2.　ADL 評価　①代表的な ADL 評価						
	3.　ADL 評価　②FIM，BI						
	4.　身体機能の ADL,APDL　①起居						
	5.　身体機能の ADL,APDL　②移乗・移動						
	6.　身体機能の ADL,APDL　③食事・整容・更衣						
	7.　身体機能の ADL,APDL　④排泄・入浴						
	8.　睡眠・栄養・運動・炊事						
	9.　掃除・買い物・経済管理						
	10.　運動器障害・整形外科疾患の ADL						
	11.　精神機能・発達過程の ADL						
	12.　福祉用具						
	13.　住宅環境						
	14.　生活行為支援						
	15.　まとめ						
成績評価の方法	レポート・定期試験を総合して評価する 1）レポート（20%）　2）定期試験（80%）						
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	教科書を用いての準備学習、事後学習に心がけてください。						
使用テキスト	1）斉藤　宏ら：姿勢と動作 第 3 版 ADL その基礎から応用 メヂカルフレンド社 2）濱口　豊太編：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 医学書院						
参考書（参考資料等）	1）田川　義勝ら編：標準作業療法学　社会生活行為学　医学書院 2）適宜プリント配布します						
その他(受講生への要望等)	予習・復習に努めること						
教員 e-mail アドレス	miyata.h@knwu.ac.jp						

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">医療安全管理学</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">大丸　幸</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220074</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単 位 数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">リハビリテーション業務での医療事故は年々増加しており、個人情報の漏洩などもあげられる。作業療法士には対象者のリスクのみならず物品や情報、自分自身の管理能力を身につけることも必要となる。また、作業療法事故防止のために、身体・発達・精神障害領域におけるリスク管理の臨床実態を知り、安全対処ができるチームの一員となれるための基本的知識を整理して発表することにより、臨床に臨む準備態勢を培う。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">1.　疾患の急変予測とリスクマネジメントを学修する。
2.　安全な福祉用具と選び方とリスク管理を発表できる。
3.　作業療法を実施するうえでの安全管理・職場マネジメントを学修する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">1.　リハビリテーションでの急変の心構えと基本的知識 P2～
2.　リハビリテーション中におきたアクジデントと法的責任 P44～
3.　身体障害領域での疾患ごとの急変予測：疾患別グループ学修 P55～
4.　身体障害領域での疾患ごとの急変予測：疾患別グループ発表 P55～
5.　身体障害領域での遭遇しやすい症状とその対処法：グループ学修 P127～
6.　身体障害領域での遭遇しやすい症状とその対処法：グループ発表 P127～
7.　福祉用具の選び方とリスク管理のグループ学修：配布資料
8.　福祉用具の選び方とリスク管理のグループ発表：配布資料
9.　精神障害領域での急性期の対応：グループ学修 P21～
10.　精神障害領域での急性期の対応：グループ発表 P21～
11.　精神障害領域・発達障害領域でのリスクマネジメント
12.　個人情報保護と職業・医療倫理
13.　作業療法士の倫理に係る事例から臨床実習に向けて
14.　急変を生じた場合 P197～、その他のリスク P239～　のグループ発表
15.　作業療法事故防止マニュアルからのリスク管理：協会版</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">グループ学修（20%）、ワークシート（30%）、定期試験（50%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">準備学修：グループ別の課題発表の準備
事後学修：ワークシートを毎週、提出する</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">1. 亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理, 第 2 版, メジカルビュー, 2012
2. 野村進：救急精神病棟, 講談社文庫, 2010（急性期精神障害作業療法学と併用）
3. なごや福祉用具プラザ：福祉用具ハンドブック, 大井企画</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等)</td><td colspan="7">日本作業療法協会：作業療法　事故防止マニュアル,2005</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">グループ別の課題学修と発表によるプレゼンテーションに主体的に取り組んでください。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">ohmaru@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	身体障害作業療法学　I						
担 当 者 名	村田　奈保子						
科目コード	1220075	**授 業 形 態**	講義				
学　　年	2	**開　講　期**	後期				
単　位　数	2	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	身体障害に対し作業療法は、身体機能と生活動作を関連させたアプローチを提供する。中枢神経疾患，運動器疾患をはじめ，内部障害など多様な病態と生活障害に対応するため，身体障害に対する作業療法の治療理論、介入方法の基礎的知識を学習する。その後、主要疾患である脳血管障害の症状や病態像，評価，作業療法介入・治療の実際について学ぶ。
授業の到達目標	1. 身体障害領域の対象，目的を説明することができる。 2. 作業療法の実践として必要な評価からアプローチへの流れを説明できる。 3. 治療理論として作業療法の臨床に応用されている様々な理論体系を理解する。 4. 脳血管障害の病態像・評価・作業療法介入について説明することができる。
授業計画	1.　身体障害における作業療法の役割
	2.　作業療法の実践過程
	3.　生体力学的アプローチと神経筋アプローチ
	4.　関節可動域（ROM）制限の起因と改善
	5.　作業療法における関節可動域訓練
	6.　筋力・筋持久力低下の起因と改善
	7.　作業療法における筋力・筋持久力の訓練
	8.　感覚障害への再教育
	9.　筋緊張異常の起因と改善
	10.　失調症の発生原因と分類・改善
	11.　不随意運動の分類と改善
	12.　脳血管障害１（病態と障害像）
	13.　脳血管障害２（評価と目標設定）
	14.　脳血管障害３（治療と予後）
	15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（70%）、小テスト（20%）、疾患別ノート（10%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・既に履修済みの解剖学・生理学・運動学・身体障害評価論をよく確認して、授業に臨むようにして下さい。 ・疾患・障害・治療の理解を深めるため疾患別ノートを作成します。作成の要点は①疾患名②病因③病態④主要徴候⑤機能障害⑥重症度・回復の程度を知るための評価
使用テキスト	菅原洋子：作業療法学全書「作業治療学１身体障害」、協同医書出版社 適宜、授業の中で資料を配布します
参考書（参考資料等）	Lorraine Willams Pedretti：身体障害の作業療法、協同医書出版社 岩崎テル子、他：標準作業療法学「作業療法評価学」、医学書院 中村隆一：基礎運動学、医歯薬出版株式会社 田崎義昭、他：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂
その他 (受講生への要望等)	場合によっては、実技チェックの実施もあり得ますので、予習・復習および各回の授業での理解を充分に深めるようにして下さい。
教員 e-mail アドレス	murata@ knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">身体障害作業療法学 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">奥村　チカ子・村田　奈保子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220076</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	身体障害治療学Ⅱでは，身体障害に対する作業療法の代表的疾患について症状や病態像，評価，作業療法介入・治療の実際について学ぶ。また、各疾患の主要徴候・一次障害・二次障害について学生自ら調べ、授業の中で確認する。
授業の到達目標	1. 各疾患の病態像・評価・作業療法介入について説明することができる。 2. 各疾患の主要徴候・一次障害・二次障害について説明することができる。
授業計画	1.　整形外科疾患（骨折）（奥村） 2.　末梢神経損傷（奥村） 3.　熱傷・腱損傷（奥村） 4.　パーキンソン病 1（病態と障害像）（村田） 5.　パーキンソン病 2（評価と治療）（村田） 6.　関節リウマチ 1（病態と障害像）（村田） 7.　関節リウマチ 2（評価と支援）（村田） 8.　脊髄損傷 1（障害と評価）（村田） 9.　脊髄損傷 2（治療）（村田） 10.　脊髄損傷 3（ADL）（村田） 11.　脊髄小脳変性症（村田） 12.　筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症（村田） 13.　心臓疾患・呼吸器疾患（村田） 14.　糖尿病・乳がん（村田） 15.　まとめ（村田）
成績評価の方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、疾患別ノート（20%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各テーマごとに理解を深めるため，各疾患について予習・復習が必要です。 ・各疾患についてノートにまとめて下さい。まとめる要点は①疾患名②病因③病態④主要徴候⑤機能障害⑥重症度・回復の程度を知るための評価
使用テキスト	菅原洋子：作業療法学全書「作業治療学 1 身体障害」、協同医書出版社 適宜、授業の中で資料を配布します
参考書（参考資料等）	Lorraine Willams Pedretti：身体障害の作業療法、協同医書出版社 岩崎テル子、他：標準作業療法学「作業療法評価学」、医学書院 中村隆一：基礎運動学、医歯薬出版株式会社 田崎義昭、他：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂
その他 (受講生への要望等)	各疾患終了後の翌講義に、小テストを実施します。
教員 e-mail アドレス	奥村：okumura@ knwu.ac.jp　村田：murata@ knwu.ac.jp

授業科目名	急性期精神障害作業療法学						
担当者名	大丸　幸・平澤　勉						
科目コード	1220077	授業形態	講義				
学　　年	2	開講期	後期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	前半(大丸幸)は発症後早期に,病相特異的で包括的な支援を継続的かつ集中的に実施する精神科リハビリテーションについて,救急病棟の事例を基本に急性期精神科作業療法を学修する.後半(平澤勉)は,様々な精神疾患の理解と作業療法の治療構造について,視聴覚教材を用いながら解説し,協議を進める.
授業の到達目標	1. 救急精神病棟の事例から急性期作業療法の役割機能を学修する. 2. 急性期のステージ別に対応する作業療法の取り組み視点を理解する. 3. 自分の意見をまとめ,グループで議論することができる. 4. 各精神疾患の作業療法の基礎知識を修得する.
授業計画	1.　早期精神病の臨界期と包括的・病相特異的な介入とは　(大丸) 2.　混乱期:1. 入院時の対応コンセプトと事例演習　(大丸) 3.　混乱期:2. 急性期の対応コンセプトと事例演習　(大丸) 4.　消耗期:3. 急性期の対応コンセプトと事例演習　(大丸) 5.　消耗期:4. 回復期前期の対応コンセプトと事例演習　(大丸) 6.　回復期:5. 回復期後期の対応コンセプトと事例演習　(大丸) 7.　急性期心理教育〜家族と向かい合える作業療法〜　(大丸) 8.　気分障害　うつ病性障害(教科書 p141-144):障害像と作業療法の目的　(平澤) 9.　気分障害　うつ病性障害(教科書 p144-147):作業療法の援助過程　(平澤) 10.　気分障害　リワーク(教科書 p230-231):うつ病復職デイケアの援助過程　(平澤) 11.　気分障害　双極性障害(教科書 p143-144):躁状態の特徴と作業療法　(平澤) 12.　認知行動療法(教科書 p293-298):気分障害への認知行動療法の適用　(平澤) 13.　神経症性障害(教科書 p149-154):不安症および強迫症　(平澤) 14.　神経症性障害(教科書 p149-154):身体症状症及び解離症群　(平澤) 15.　まとめ　(大丸・平澤)
成績評価の方法	大丸幸:ワークシート(25%),定期試験(25%) 平澤勉:定期試験(25%),平常点(12.5%),ワークシート(12.5%) 平常点は倫理観をもった行動,主体的な協議行動(到達目標 3)を評定する. ワークシートは講義内容の理解・疑問・気づき(到達目標 4)を評定し,シート内の確認テストは評価に含まない.
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	大丸:準備学修(テキスト事例を読んでおく)　事後学修(ワークシート提出) 平澤:準備学修(教科書の該当部分を読み講義に臨む.配布された症例を読み,不明な用語は調べておく.)事後学修(確認テストに備えて,重要項目を復習する.)
使用テキスト	野村進:救急精神病棟,講談社,2010(医療安全学と併用する) 日本作業療法協会監修:作業療法学全書　作業治療学 2　精神障害,協同医書,2010
参考書(参考資料等)	水野雅文他監訳:精神疾患早期介入の実際,金剛出版,2002 香山明美他監修:精神障害作業療法(第 2 版),医歯薬出版,2014 小林夏子監修:精神機能作業療法学,医学書院,2014 宮田雄吾:14 歳からの精神医学,日本評論社,2011 高木希奈:あなたの周りの身近な狂気,セブン&アイ出版,2014
その他 (受講生への要望等)	事例演習を基本にしてグループ演習するので,準備・事後学修して望むこと.(大丸) 「精神障害評価論演習」で配布される指定の資料を持参して出席して下さい.質問はオフィスアワーを積極的に利用してください.(平澤)
教員 e-mail アドレス	大丸:ohmaru@knwu.ac.jp　　平澤:hirasawa@knwu.ac.jp

授業科目名	地域移行精神障害作業療法学						
担当者名	中山　広宣・深町　晃次						
科目コード	1220078	授業形態	講義				
学　　年	3	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	入院医療中心から地域生活中心へという精神保健福祉施策の基本的方策の実現に向けた退院後の地域生活支援を強化するため，アウトリーチ（訪問支援）や外来医療における精神科作業療法の手法を学ぶ．加えて，地域で生活している精神障害者が活用できる社会資源評価や開発および個別に応じた環境調整技術を習得する．
授業の到達目標	1. 精神医療の治療醸造を説明できる． 2. 精神障害作業療法の治療構造を理解・解説できる． 3. 精神障害の地域リハビリテーションを説明できる． 4. 作業療法を計画・立案できる．
授業計画	1.　精神医療の歴史と変遷：病院医療から地域医療　（中山） 2.　精神保健福祉法と作業療法　（中山） 3.　精神療法　（中山） 4.　疾患別精神療法：統合失調症，うつ病など　（中山） 5.　集団精神療法，治療共同体　（中山） 6.　デイケア，ナイトケア　（中山） 7.　精神障害作業療法総論　（中山） 8.　精神障害作業療法の治療構造　（中山） 9.　作業活動の治療的意義　（中山） 10.　精神障害作業療法の流れと治療計画　（中山） 11.　精神障害作業療法の面接と評価　（中山） 12.　治療構造のまとめ　（中山） 13.　社会生活技能訓練　（深町） 14.　心理教育ミーティング　（深町） 15.　チームリハビリテーション，ACT，オレンジプラン，自立支援など　（深町）
成績評価の方法	授業態度，小テスト，定期試験で総合的に評価する．
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	各自予習すること．そして疑問点を整理して，可能な限り理解するよう調べること．その中で文献検索の方法を学び，同時に興味や問題意識を深める．
使用テキスト	・中山：資料配布 ・深町：作業療法学全書改定第 3 版第 5 巻　作業療法治療学 2　精神障害，協同医書，2010
参考書（参考資料等）	・精神疾患の理解と精神科作業療法(朝田隆，中島直，堀田英樹)，中央法規出版，2012
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：予習における質問を重視しながら授業を進めます． ②事前・事後学修：各回の前に教科書の指定した箇所を読んできてください．
教員 e-mail アドレス	中山：nakayama@knwu.ac.jp　　深町：fukamachi@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">発達障害作業療法学</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">佐野　幹剛</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220079</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	発達障害の臨床像を理解するとともに、子どもの潜在的な能力を引き出し、社会に適応できるスキル獲得に向けた治療立案・指導を教授する。また、家族に対する対応、保育園・学校などと地域とのつながりについても検討する。講義では、映像や画像を活用し理解を深める。
授業の到達目標	・複雑な臨床所見を持つ子どもたちの疾患特性を理解することができる。 ・子どもの潜在能力を引き出し、社会適応できるスキル獲得に向けた作業療法プログラムを考えることができる。 ・家族に対する対応、保育園・学校など地域とのつながりについても理解することができる。
授業計画	1.　オリエンテーション、発達障害とは 2.　知的障害、ダウン症候群の臨床像と作業療法 3.　自閉スペクトラム症の臨床像と作業療法 4.　注意欠如多動性症候群の臨床像と作業療法 5.　限局性学習障害の臨床像と作業療法 6.　脳性まひの臨床像と治療 1　痙直型片麻痺 7.　脳性まひの臨床像と治療 2　痙直型四肢麻痺 8.　脳性まひの臨床像と治療 3　痙直型両麻痺 9.　脳性まひの臨床像と治療 4　アテトーゼ型四肢麻痺 10.　筋ジストロフィー症の臨床像と治療 11.　重症心身障害の臨床像と治療 12.　作業療法技術論 1：ADL と口腔機能 13.　作業療法技術論 2：移動と移乗 14.　姿勢管理と座位保持装置 15.　まとめ
成績評価の方法	「二分脊椎の臨床像と作業療法」というテーマで課題レポートをまとめてもらい、期末試験を行い総合的に評価する。 評価の比率は、課題レポート（30%）、期末試験（70%）とする。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	人間発達学、発達障害評価論演習、小児科学で学習した内容を復習しておくこと。
使用テキスト	「脳性麻痺の類型別運動発達」 医歯薬出版、「小児リハビリテーションⅠ、Ⅱ」 医歯薬出版、授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	「神経発達学的治療と感覚統合理論」 協同医書
その他 (受講生への要望等)	発達障害に関わるボランティアなどチャンスがあれば積極的に参加してください。
教員 e-mail アドレス	sano@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">基礎義肢装具学</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">奥村　チカ子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1210017</td><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>2</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	義肢装具の種類、構造やその適応を理解し機能障害や能力障害への介入時に有益な治療手段として役立てることが臨床では強く求められる．そのためには義肢装具の基本となる種類、構造やその機能について理解することが重要となる．本科目では代表的な義肢・装具の名称、構造や機能の確認など、基礎を中心とした学習を行い、義肢装具に関心や興味が持てる講義を目指す．
授業の到達目標	①義肢の基礎的知識を理解することができる． ②体幹および下肢装具の目的、機能、適応について理解することができる． ③上肢装具の目的、機能、適応について理解することができる．
授業計画	1.　義肢装具の概説：定義，歴史
	2.　義肢装具のメカニクス
	3.　切断と義肢の概要：切断の現況，義手の分類
	4.　義手のパーツ：名称，機能
	5.　義手の適応：切断部位とパーツの選択
	6.　義手のチェックアウト：適合判定と問題解決法
	7.　義手の総括，フォローアップ
	8.　装具の分類
	9.　体幹装具：名称，機能，適応
	10.　下肢装具：名称，機能，適応
	11.　上肢装具に必要なバイオメカニクス
	12.　上肢装具の分類
	13.　上肢装具の適応：末梢神経障害
	14.　上肢装具の適応：RA
	15.　上肢装具の適応：頚髄損傷
成績評価の方法	中間試験（50%），期末試験（50%）で成績評価を行う。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	授業内容については必ず復習を行い、疑問点は質問したり教科書で調べて明確に理解できるようにしておくこと．質問に関しては科目担当教員まで．
使用テキスト	義肢装具のチェックポイント（医学書院） 適宜プリントを配布する．
参考書（参考資料等）	義肢装具学第 4 版（医学書院）
その他 (受講生への要望等)	義肢装具はその構造や機能が革新的に進歩しており障害者に対する QOL 向上（障害者スポーツなど）に大きく　貢献している．このような点にも日頃から関心を持つように心掛けること．
教員 e-mail アドレス	okumura@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">臨床義肢装具演習</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">奥村　チカ子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200068</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「基礎義肢装具学」に引き続き、より臨床に即した義肢装具の知識と技術を習得する。スプリントの製作、義肢装着訓練、義肢を使った生活の理解と支援、適合判定、装具療法等について演習と講義を通じ、臨床での実践力を身につける。
授業の到達目標	①切断端管理を理解し、切断者の生活の理解と支援の視点を持てる。 ②上肢切断に対する作業療法プログラムを立案できる。 ③基本的なスプリントを作成できる。 ④スプリントのチェックアウトができる。
授業計画	1.　切断術と切断者の断端管理
	2.　上肢切断者の作業療法：評価
	3.　上肢切断者の作業療法：義手訓練
	4.　上肢切断者の作業療法：生活設計
	5.　電動義手
	6.　義手の理解と利用者支援の展望
	7.　スプリントのデザイン，作成上の留意点
	8.　スプリント材料の種類と特質
	9.　スプリント作成：器具の使用法
	10.　スプリント作成：デザインの決定
	11.　スプリント作成：カッティング，モールディング
	12.　スプリント作成：チェックアウトおよび修正
	13.　スプリント作成：試用および評価
	14.　装具装着と生活
	15.　装具の理解と利用者支援の展望
成績評価の方法	演習に基づいたレポート（40%）　定期試験（60%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	基礎義肢装具学の学習内容を復習しておくこと。 討議に備えて事前の検討・事後の学習をすること。
使用テキスト	適宜資料を配布する。
参考書（参考資料等）	義肢装具のチェックポイント（医学書院）
その他 (受講生への要望等)	制作実習にあたっては安全管理に注意すること。
教員 e-mail アドレス	okumura@knwu.ac.jp

授業科目名	高次脳機能障害作業療法学						
担当者名	渕　雅子・四元　孝道						
科目コード	1220080	授業形態	講義				
学　　年	3	開講期	前期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	高次脳機能障害に関する障害像を理解し、作業療法実践（評価方法、治療方法）に関する基本的知識と技術を獲得する。 渕が 7 回、四元が 8 回担当する。
授業の到達目標	1.　高次脳機能障害の定義、分類、症状を説明することができる。 2.　高次脳機能障害の評価方法と手順を説明し実施することができる。 3.　高次脳機能障害に対する作業療法方法を説明し実践することができる。
授業計画	1.　オリエンテーション；高次脳機能障害総論
	2.　脳の機能解剖
	3.　画像診断：CT・MRI
	4.　意識・見当識・知能の障害
	5.　記憶障害：概要と評価
	6.　記憶障害：認知リハビリテーション
	7.　注意障害：概要と評価
	8.　注意障害：認知リハビリテーション
	9.　前頭葉障害（遂行機能障害）・感情・社会的行動障害
	10.　半側空間無視
	11.　視覚の高次脳機能障害
	12.　運動・動作の高次脳機能障害
	13.　脳外傷の作業療法：頭部障害
	14.　言語とコミュニケーション：失語症とその対応
	15.　症例検討
成績評価の方法	定期試験（80%）、小テスト（20%） 授業中に数回小テストを行う。また定期試験も行い総合的に評価する。
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	小テストを前回授業範囲から出題するので復習を行うこと。
使用テキスト	石合純生：高次脳機能障害学　第２版.　医歯薬出版，2012. 授業中に適宜資料配布
参考書（参考資料等)	長崎重信：作業療法学ゴールド・マスターテキスト 5 高次脳機能作業療法学. メジカルビュー社，2012.
その他(受講生への要望等)	授業でふれられた検査については練習して習熟しておくこと。
教員 e-mail アドレス	渕：fuchi@knwu.ac.jp　　四元：yotsumoto@knwu.ac.jp

授業科目名	高齢期障害作業療法学							
担当者名	村田　奈保子							
科目コード	1220081	**授業形態**	講義					
学　年	3	**開講期**	前期					
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修	
			○			○		

授業の概要と方法	超高齢社会を迎えたわが国における高齢者を取り巻く環境を含めて、高齢期作業療法のプロセスを学習する。高齢者の身体面精神面の加齢性変化から、疾患の理解、作業療法評価と介入について理解し、症例検討をもとに評価結果の統合、目標設定、介入計画の検討を通して、個別事例の特性に応じた作業療法過程を学習する。
授業の到達目標	1. 高齢者の身体面精神面の加齢性変化並びに、生活課題を説明できる。 2. 高齢期作業療法が実施されている領域の特徴と作業療法の役割を説明できる。 3. 高齢期作業療法で必要とされる評価及び介入技術の基本を身につける。 4. 提示された事例について、評価結果の統合、目標設定、介入計画について説明できる。
授業計画	1.　高齢者の心身機能と身体構造
	2.　高齢者を巡る日本の現状と生活課題
	3.　高齢者に起こりやすい症候（転倒・低栄養・失禁など）
	4.　高齢期作業療法の特徴と役割
	5.　高齢期作業療法の評価 1（身体機能評価・精神機能評価）
	6.　高齢期作業療法の評価 2（ADL 評価）
	7.　高齢期作業療法の介入 1（ADL の遂行支援）
	8.　高齢期作業療法の介入 2（環境調整）
	9.　認知症の理解
	10.　認知症の評価と介入
	11.　事例を用いた評価計画立案（グループワーク）
	12.　提示された事例の検討（グループワーク）
	13.　各グループによる検討内容の報告と質疑応答 1（症例 A）
	14.　各グループによる検討内容の報告と質疑応答 2（症例 B）
	15.　まとめ
成績評価の方法	定期試験（60%）、レポート（20%）、事例報告書（20%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・グループワークでは，授業時間外でのグループ内ディスカッションあるいはプレゼンテーションの作業が含まれることがあります。
使用テキスト	松房利憲、小川恵子：標準作業療法学「高齢期作業療法」医学書院 大塚俊男，本間　明：高齢者のための知的機能検査の手引き．ワールドプランニング
参考書（参考資料等）	浅海奈津美・守口恭子：老年期の作業療法、三輪書店 山田孝：クリニカル作業療法シリーズ　高齢期障害領域の作業療法、中央法規出版株式会社　　他
その他 (受講生への要望等)	グループワークでは事例報告書作成にあたり、他人任せではなく積極的な参加を望みます。
教員 e-mail アドレス	murata@ knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">臨床作業療法学演習　Ⅰ</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220082</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>3</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択
必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士
必修</td><td>作業療法士
選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	「臨床実習Ⅲ(評価実習)」を受講するための準備として、実習生としての心得や評価方法の選択、実施、統合と解釈などを演習する。
授業の到達目標	・実習生としての心得を理解し、あいさつ、身だしなみに注意することができる。 ・疾患特性を理解し、適切に評価方法を選択することができる。 ・評価目的を理解し、適切に実施することができる。
授業計画	1.　オリエンテーション
	2.　ソーシャルマナーについて
	3.　個人情報保護法の理解と臨床での記録
	4.　問題志向型診療記録「SOAP」の書き方演習
	5.　身体機能の評価演習、神経学的検査
	6.　身体機能の評価演習、筋骨格系の評価
	7.　身体機能の評価演習、ADL 評価
	8.　身体機能の評価演習、高次脳機能の評価
	9.　精神機能の評価演習、面接
	10.　精神機能の評価演習、観察
	11.　精神機能の評価演習、社会生活
	12.　精神機能の評価演習、精神症状
	13.　発達評価演習、粗大運動の評価
	14.　発達評価演習、知的機能の評価
	15.　まとめ
成績評価の方法	演習した内容をまとめたレポート、疾患特性を整理したレポートなどを総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	これまで学習してきた作業療法評価学を復習しておくこと。
使用テキスト	臨床実習録
参考書（参考資料等)	講義の中で紹介する。
その他 (受講生への要望等)	清潔な実習着で演習を行うこと。評価に必要な備品の内、ゴニオメーター、メジャー、打鍵器、ストップウォッチなどは各自用意すること。
教員 e-mail アドレス	教員アドレスは別途連絡する。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">臨床作業療法学演習 Ⅱ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220083</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">「臨床実習Ⅳ」を受講するための準備として、実習生としての心得、疾患に応じた評価の選択、評価の実施、統合と解釈などを演習する。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">・実習生としての心得を理解し、あいさつ、身だしなみに注意することができる。
・疾患特性を理解し、適切に評価方法を選択することができる。
・評価目的を理解し、適切に実施することができる。
・評価結果を統合・解釈し、作業療法プログラムを立案することができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1. オリエンテーション</td></tr>
<tr><td colspan="7">2. 接遇ついて</td></tr>
<tr><td colspan="7">3. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">4. 身体機能の評価演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">5. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">6. 身体障害に関するプログラム立案演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">7. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">8. 精神機能の評価演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">9. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">10. 精神機障害に関するプログラム立案演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">11. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">12. 発達評価演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">13. 〃</td></tr>
<tr><td colspan="7">14. 発達障害に関するプログラム立案演習</td></tr>
<tr><td colspan="7">15. 〃</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">演習した内容をまとめたレポート、疾患特性に応じた作業療法プログラム立案レポートなどを総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">これまで学習してきた作業療法評価学や治療学を復習しておくこと。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">臨床実習録</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">授業中に紹介する。</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">清潔な実習着で演習を行うこと。評価に必要な備品の内、ゴニオメーター、メジャー、打鍵器、ストップウォッチなどは各自用意すること。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">教員アドレスは別途連絡する。</td></tr>
</table>

授業科目名	作業療法卒業研究						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・村田						
科目コード	1220084	授 業 形 態	演習				
学　　年	4	開　講　期	後期				
単　位　数	4	履 修 方 法	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○		

授業の概要と方法	卒業研究はこれまで取り組んできた研究テーマの集大成であり、学生は学習した理論と実践の体系付けに務めること。研究内容は規定に沿ってまとめ提出すること。 完成後は学会形式で卒業研究発表会を行う。発表に当たっては、規定に従って運営も行う。
授業の到達目標	1）学生ひとりひとりが研究テーマを持つことができる。 2）研究計画書及び予備調査に沿って、本調査を実施することができる。 3）本調査の結果を分析し、論文規定に基づいて卒業論文を作成することができる。

授業計画

1.	オリエンテーション	16.	本調査	31.	データ処理演習	46.	抄録作成
2.	研究の心得	17.	本調査	32.	データ処理演習	47.	発表資料作成
3.	研究計画書作成	18.	本調査	33.	データ処理演習	48.	発表資料作成
4.	研究計画書作成	19.	本調査	34.	データ分析	49.	発表資料作成
5.	研究計画書作成	20.	本調査	35.	データ分析	50.	発表資料作成
6.	研究方法論の検討	21.	本調査	36.	データ分析	51.	発表資料作成
7.	研究方法論の検討	22.	本調査	37.	データ分析	52.	研究発表会
8.	研究方法論の検討	23.	本調査	38.	データ分析	53.	研究発表会
9.	予備調査	24.	本調査	39.	データ分析	54.	研究発表会
10.	予備調査	25.	本調査	40.	報告書作成	55.	研究発表会
11.	予備調査	26.	本調査	41.	報告書作成	56.	研究発表会
12.	研究方法論の見直し	27.	本調査	42.	報告書作成	57.	研究発表会
13.	研究方法論の見直し	28.	本調査	43.	報告書作成	58.	研究発表会
14.	研究方法論の見直し	29.	本調査	44.	報告書作成	59.	研究発表会
15.	中間報告	30.	中間報告	45.	中間報告	60.	まとめ

成績評価の方法	研究計画書、研究報告書、研究発表を総合的に評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	導担当教員の指導の下、学生は研究デザイン、データ収集、統計処理、報告書作成、研究発表（スライド、原稿）の準備を自主的に進めていくこと。
使用テキスト	「作業療法士のための研究法入門」（三輪書店）
参考書（参考資料等）	授業中に紹介する。
その他 (受講生への要望等)	研究機器の取り扱いには十分注意すること。
教員 e-mail アドレス	指導担当教員の e-mail アドレスは別途連絡する。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">作業療法基礎演習</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="7">大丸・奥村・佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220060</td><td>授業形態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>4</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	専門基礎科目に関する復習を行い、理解を高める。 特に人体の構造と機能及び心身の発達、各疾患の特性、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念などについてまとめる。
授業の到達目標	1）人体の構造・機能及び心身の発達を理解し、解説できる 2）各疾患の特性・なりたち・回復過程を理解し、解説できる
授業計画	1. オリエンテーション 人体の構造と機能及び心身の発達①（解剖学、筋骨格系） 2. 人体の構造と機能及び心身の発達②（解剖学、神経系、循環・呼吸器系） 3. 人体の構造と機能及び心身の発達③（生理学、神経系） 4. 人体の構造と機能及び心身の発達④（生理学、循環・呼吸器系） 5. 人体の構造と機能及び心身の発達⑤（運動学、筋骨格系） 6. 人体の構造と機能及び心身の発達⑥（運動学、動作分析） 7. 人体の構造と機能及び心身の発達⑦（人間発達学） 8. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進①（病理学） 9. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進②（臨床心理学） 10. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進③（精神医学） 11. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進④（内科学） 12. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進⑤（整形外科学） 13. 疾病・障害の成り立ち及び回復過程の促進⑥（神経内科学） 14. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念①（地域保健学） 15. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念②（リハビリテーション医学）
成績評価の方法	期末試験（100%）で評価します。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	解剖学、生理学、運動学、病理学、精神医学、人間発達学、内科学、整形外科学、神経内科学、臨床心理学、リハビリテーション医学、地域保健学を復習しておくこと。
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。 国家試験問題集（OT チャレンジ：基礎編）
参考書（参考資料等）	都度紹介する。
その他 (受講生への要望等)	積極的に参加し、自発的に学習すること。
教員 e-mail アドレス	教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	作業療法専門演習						
担当者名	大丸・奥村・佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220061	授業形態	演習				
学　　年	4	開講期	後期				
単位数	1	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○	○	

授業の概要と方法	専門分野に関する復習を行う。 特に関連法規、教科書及び臨床に基づいた基礎作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学について理解を深める。
授業の到達目標	1）作業療法専門分野の各項目について、整理して理解できるようになる。 2）作業療法専門分野の演習課題を正確に遂行できるようになる。
授業計画	1.　オリエンテーション 、基礎作業療法学①　（医療保健福祉）
	2.　基礎作業療法学②　（基礎作業学）
	3.　作業療法評価学①（身体障害）
	4.　作業療法評価法②（精神障害）
	5.　作業療法治療法①（脳血管障害、高次脳機能障害）
	6.　作業療法治療法②（整形外科疾患）
	7.　作業療法治療法③（神経疾患・内部疾患）
	8.　作業療法治療法④（統合失調症）
	9.　作業療法治療法⑤（神経症）
	10.　作業療法治療法⑥（気分障害・認知症・高齢期障害）
	11.　作業療法治療法⑦（脳性まひ、筋ジストロフィー症）
	12.　作業療法治療法⑧（自閉症すペクトラム、ADHD、知的障害、学習障害）
	13.　作業療法治療法⑨（義肢装具学）
	14.　地域作業療法学①（日常生活活動）
	15.　まとめ
成績評価の方法	期末試験(100%)で評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	これまで学習してきた作業療法に関する評価学や治療学などを十分復習しておくこと。
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。 国家試験問題集（OT チャレンジ：専門編）
参考書（参考資料等）	都度、紹介する。
その他 (受講生への要望等)	積極的に参加し、自発的学習すること。
教員 e-mail アドレス	教員アドレスは別途連絡する。

授業科目名	地域作業療法学						
担当者名	大丸　幸						
科目コード	1220085	**授業形態**	講義				
学　　年	3	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	地域作業療法は、地域住民のうち、家庭・地域・職業生活などにおける作業行動に不自由があってそのために各生活課題の遂行に支障を来たすあるいは恐れがある人に対して（対象)、作業行動の自立促進の立場から治療訓練指導援助することによって（手段)、人としての生活の再建・再構築を行い、人生課題に尊厳をもって主体的に遂行するよう（目標)、支援することである。そのため人々が日常の活動に参加することができる様々な支援技術について事例学習する。
授業の到達目標	1. 地域活動に必要な各種制度や行政機関との連携システムについて知る。 2. 地域で暮らす高齢、障害児者の支援および予防活動の実際を知る。 3. 地域の支援事例（高齢・障害・母子）について、意見交流ができる。
授業計画	1. 地域作業療法とは：医療モデルと生活モデル（地域診断）
	2. 医療体制と地域医療：訪問看護と訪問作業療法
	3. 介護保険制度と介護保険事業
	4. 介護予防事業と地域リハビリテーション活動支援事業
	5. 生活不活発病と生活行為向上リハビリテーションの事例演習
	6. 認知症支援策と作業療法の実際の事例演習
	7. 高齢者の住環境と訪問診断による住宅改修の事例演習
	8. 障害者総合支援法と障害福祉サービス
	9. 身体障害者福祉法と市町村の事例演習
	10. 精神保健福祉法と地域移行の事例演習
	11. 知的障害者福祉法、発達障害者支援法と事例演習
	12. 地域包括支援センターの役割と取り組み事例の演習
	13. 高次脳機能障害者の就労支援の事例演習
	14. 介護老人保健施設、他の地域の拠点機関との連携事例
	15. 終末期（在宅）の作業療法
成績評価の方法	毎回のワークシート（25%)、小グループ討議と意見発表（25%) 定期試験（50%)
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	準備学修：前回のワークシート（復習ノート）を修了させて臨むこと。 事後学修：毎回のワークシートは、授業内容を復習して提出するもの。 （ワークシートは原則、翌週までに提出してください。)
使用テキスト	小川恵子監修：地域作業療法学　第 2 版, 医学書院, 2005
参考書（参考資料等)	蜂須賀研二編集：服部リハビリテーション技術全書,第 3 版,医学書院,2014 簗瀬誠：精神障害作業療法入門,協同医書出版社,2012 赤澤宏平他：公衆衛生がみえる,メディックメデイア,2014
その他 (受講生への要望等)	・病気や障害があって地域で暮らすための生活支援が必要となる出発点は医療です。 ・1~2 年生までに学習した基礎教養、専門基礎、専門の各科目を踏まえて学修します。
教員 e-mail アドレス	ohmaru@knwu.ac.jp

授業科目名	障害支援工学						
担当者名	小林・寺師・片本・江原						
科目コード	1200084	**授業形態**	講義				
学　　年	3	**開講期**	前期				
単位数	2	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	障害者に対する工学的支援方法に関する既存技術及び将来展望の概要。 リハビリテーションへの応用ができる基礎を身につける。 各専門分野４人の講師が担当　主にプロジェクタを用いスクリーン投影する形式。
授業の到達目標	障害者が日常生活で遭遇する問題やバリアを工学的支援によって解決できる基礎知識や方法を習得する。
授業計画	1.　概論：工学的支援の過去・現在・将来及び福祉用具　（寺師良輝） 2.　コミュニケーション（1）：アクセシビリティ　（寺師良輝） 3.　コミュニケーション（2）：コミュニケーション支援機器　（寺師良輝） 4.　コミュニケーション（3）：インターフェース・入力装置　（寺師良輝） 5.　技術の人間化（1）：プロダクトデザイン　（片本隆二） 6.　技術の人間化（2）：　デジタルファブリケーション　（片本隆二） 7.　技術の人間化（3）：人間工学　（片本隆二） 8.　移動（1）：車いす　（小林博光） 9.　移動（2）：電動車いす　（小林博光） 10.　移動（3）：自動車　（小林博光） 11.　移動（4）：介助移動　（小林博光） 12.　生活環境（1）：住環境整備の考え方　（江原喜人） 13.　生活環境（2）：住環境整備のための基礎知識　（江原喜人） 14.　生活環境（3）：住環境整備支援の実　（江原喜人） 15.　生活環境（4）：公共施設・公共交通機関　（江原喜人）
成績評価の方法	定期試験（100%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	web サイト等を利用し再確認。 西日本国際福祉機器展の見学。
使用テキスト	講義中に適宜、資料を配付する。
参考書（参考資料等）	はじめての福祉機器選び方・使い方（一般財団法人　保健福祉広報協会） https://hcr.or.jp/howto/index.html からダウンロード可能
その他 (受講生への要望等)	自分なりの意見を持てるだけの基礎知識を身につける。
教員 e-mail アドレス	office@sekisonh.rofuku.go.jp

授業科目名	職業関連支援						
担当者名	平澤　勉・宮田　浩紀						
科目コード	1220062	**授業形態**	演習				
学　　年	3	**開講期**	前期				
単位数	1	**履修方法**	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	職業リハビリテーションの実際を解説し，障害を持ちながら働くことについての理解を深める．職業リハビリテーションに関する制度や支援機関，評価について説明する．就労支援における作業療法士の役割を，実例を通して考察する． 第 1-3 回，第 8-11 回を宮田，第 4-7，第 12-15 回を平澤が担当する．
授業の到達目標	1.　職業リハビリテーションの動向，支援制度について説明することができる． 2.　就労に関する評価について説明することができる． 3.　就労への支援計画を協議・立案することができる．
授業計画	1.　オリエンテーション・障害者の就労（障害者にとっての職業の意味） 2.　障害者の就労支援に関わる制度・関連諸機関 3.　職業関連活動における作業處法の役割 4.　職業準備評価①GATB（教科書 p.58-60） 5.　職業準備評価②VPI, ERCD（教科書 p.60-62） 6.　職業準備評価③ワークサンプル法，他（教科書 p.63-66） 7.　職業準備評価④環境の評価，他（教科書 p.66-68） 8.　就労支援の実際例①　身体障害領域（脳卒中） 9.　就労支援の実際例②　身体障害領域（脊髄損傷） 10.　就労支援の実際例③　高次脳機能障害 11.　就労支援の実際例④　視覚・聴覚・内部障害 12.　就労支援の実際例⑤　精神障害領域/統合失調症（教科書 p.77-81） 13.　就労支援の実際例⑥　精神障害領域/統合失調症・うつ病（教科書 p.82-95） 14.　就労支援の実際例⑦　精神障害領域/うつ病（教科書 p.96-117） 15.　就労支援の実際例⑧　知的障害領域（教科書 p.160-180）
成績評価の方法	宮田：定期試験（70%），ワークシート（30%） 平澤：定期試験（70%），ワークシート（30%）　ワークシートは講義内容の理解・疑問および協議姿勢（到達目標 1-3）を評定し，シート内の確認テストは評価に含まない．
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	準備学修（教科書の該当部分を読み講義に臨む．配布された課題を読み，不明な点は調べておく．）事後学修（確認テストに備えて，重要項目を復習する．）
使用テキスト	日本作業療法士協会監修：作業療法学全書　作業療法技術学 4　職業関連活動，協同医書，2010 適宜資料を配布します．
参考書（参考資料等）	なし
その他 (受講生への要望等)	グループワークによる協議や，評価体験など，演習を交えながら進めますので積極的に参加してください．質問については，ワークシートやオフィスアワーを活用してください．
教員 e-mail アドレス	宮田: miyata.h@knwu.ac.jp　　平澤: hirasawa@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="7">日常生活活動支援</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="7">奥村　チカ子・宮田　浩紀</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1200069</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">演習</td></tr>
<tr><td>学　　　年</td><td>2</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="7">作業療法士の役割である対象者の生活の再建を達成するために必要な知識と技術を習得するのがこの演習のねらいである。
具体的には、臨床で用いられている評価様式や介助方法について学び、臨床実習さらには臨床家として働く際の一助になるように基本的事項から応用的なものあるいは臨床で行われている介助技術の獲得を目標とする。講義担当について第 1 回から第 8 回までを奥村、第 9 回から第 15 回までを宮田が担当する。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="7">1）作業療法における日常生活活動の支援（役割）について理解する。
2）作業療法対象者の日常生活活動に対する評価について理解する。
3）事例を通した日常生活活動の評価が行えるようになる。
4）臨床で行われている介助方法（セルフケア・起居動作）が実施できるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画</td><td colspan="7">1.　生活文化としての日常生活活動の概念</td></tr>
<tr><td colspan="7">2.　日常生活活動の基礎事項・活動の構成要素について</td></tr>
<tr><td colspan="7">3.　生活活動別の支援機器と用具の特性と種類、利用制度</td></tr>
<tr><td colspan="7">4.　自力移動のための支援機器と課題</td></tr>
<tr><td colspan="7">5.　介助による移動のための支援機器と課題</td></tr>
<tr><td colspan="7">6.　入浴（自立・介助）のための支援機器と課題</td></tr>
<tr><td colspan="7">7.　食事（自立・介助）のための支援機器と課題</td></tr>
<tr><td colspan="7">8.　APDL 領域のための支援機器と課題</td></tr>
<tr><td colspan="7">9.　ADL 評価①（Barthel Index・機能的自立度評価法ＦＩＭについて）</td></tr>
<tr><td colspan="7">10.　ADL 評価②（評価の実践）</td></tr>
<tr><td colspan="7">11.　起居動作の評価および介助方法①（ベッド上の介助について）</td></tr>
<tr><td colspan="7">12.　起居動作の評価および介助方法②（ベッドから車いすへの移乗介助①）</td></tr>
<tr><td colspan="7">13.　起居動作の評価および介助方法③（ベッドから車いすへの移乗介助②）</td></tr>
<tr><td colspan="7">14.　起居動作の評価および介助方法④（ベッドから床・床からの立ちあがり）</td></tr>
<tr><td colspan="7">15.　起居・移動動作の自立視点からの住宅改修</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">授業態度・レポート・定期試験を総合して評価する。
・評価項目と割合
1）授業態度（10%）　2）レポート（20%）　3）定期試験（70%）</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修
(準備学修・事後学修等)</td><td colspan="7">日常生活を送る上で支障をきたす方への支援について、作業療法士が必要とされる理由を考えながら講義に臨み、講義後の復習を必ず行うこと。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="7">1) もっとらくらく動作介助マニュアル―寝返りからトランスファーまで (医学書院)
2）脳卒中の機能評価　SIAS と FIM[基礎編]（金原出版）
3）その他講義中に配布する資料</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="7">1）標準作業療法学専門分野　日常生活活動・社会生活行為学（医学書院）
2）新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際（医歯薬出版）
3) 作業療法学全書改訂第 3 版第 11 巻作業療法技術学 3　日常生活活動 (共同医書)</td></tr>
<tr><td>その他
(受講生への要望等)</td><td colspan="7">この演習では講義と実技を交えながら進めていくので、動きやすい服装で受講すること。</td></tr>
<tr><td>教員 e-mail アドレス</td><td colspan="7">奥村：okumura@knwu.ac.jp　　宮田：miyata.h@knwu.ac.jp</td></tr>
</table>

授業科目名	地域作業療法学演習						
担 当 者 名	大丸・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220087	**授 業 形 態**	演習				
学　　年	4	**開　講　期**	前期				
単　位　数	4	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○		

授業の概要と方法	医療・福祉・保健および周辺領域における作業療法の専門性に対する知見を深めるために、近隣のリハビリテーション関連の社会資源情報を演習することによって、学生のニーズに応じて学生自身に適性のある領域を自ら探索し、課題を設定して主体的に学習する。
授業の到達目標	作業療法関連領域における社会資源情報を演習することで、地域作業療法の実態について、その事業の目的や内容の詳細について学習する。
授業計画	1.　地域作業療法の社会資源情報について
	2.　社会資源の演習方法についてのオリエンテーション
	3.　精神科領域演習、身体障害領域演習、高齢期領域演習、小児領域演習×4 回
	4.　各領域演習
	5.　各領域演習
	6.　各領域演習
	7.　各領域演習
	8.　各領域演習
	9.　各領域演習
	10.　各領域演習
	11.　各領域演習
	12.　各領域演習
	13.　総合発表
	14.　総合発表
	15.　演習結果のまとめ
成績評価の方法	演習のワークシート提出と発表内容により評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	演習方法に応じて、事前点検および事後学習のワークシートを提出する。
使用テキスト	関係資料を配布する。
参考書（参考資料等）	北九州市リハビリテーション連絡協議会：社会資源情報冊子、2011 他
その他 (受講生への要望等)	社会資源情報は自ら学び、地域作業療法の活用方法について学習するものですから、主体的参加が求められます。
教員 e-mail アドレス	大丸：ohmaru@knwu.ac.jp

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">臨床実習　Ⅰ</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="6">奥村・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220035</td><td>授業形態</td><td colspan="5">実習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>1</td><td>開講期</td><td colspan="5">後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">履修方法</td><td>必修</td><td>選択必修</td><td>選択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	医療・福祉領域で障害を持たれた方への働きかけを見学し、作業療法との関連を理解します。 各施設へはグループで訪問し見学実習を行います。指導者の指示を遵守し自ら行動することを心がけます。
授業の到達目標	1. 社会人として行動できる。 2. 障害を持った方とコミュニケーションをとることができる。 3.「障害を持つ」ということを理解できる。 4. 障害を持った方の生活実態を知る。
授業計画	1.　実習オリエンテーション 2.　接遇について　＜施設実習時の注意・配慮点などを中心に＞ 3.　施設実習①＜身体障害・精神障害・発達障害・福祉関連いずれか1か所での実習（以下同様）＞ 4.　施設実習② 5.　施設実習③ 6.　（学内）施設実習①～③の振り返り 7.　施設実習④ 8.　施設実習⑤ 9.　施設実習⑥ 10.　（学内）施設実習④～⑥の振り返り 11.　施設実習⑦ 12.　施設実習⑧ 13.　施設実習⑨ 14.　（学内）施設実習⑦～⑨の振り返り 15.　実習のまとめ
成績評価の方法	授業態度、ポートフォリオを総合して評価する。 評価項目と割合 授業態度（20%）　ポートフォリオ＜デイリーノートを含む＞（80%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	学外実習の前には施設調査、実習後にはデイリーノート作成の各1時間程度の学修が必要となる。
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	市川和子、他：臨床実習とケーススタディ．医学書院，2005.
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：基本的に毎回違う施設実習と学内実習を繰り返し、授業目標を達成する。 ②事前・事後学修：事前に実習施設について調べ、事後では施設実習での疑問についての自学と教員への質問を重視します。 ③その他履修者へ：デイリーノートは施設実習の翌日に提出します。 施設実習日は10分前行動を心がけてください。身なりや接遇には十分配慮してください。
教員 e-mail アドレス	奥村：okumura@knwu.ac.jp　　深町：fukamachi@knwu.ac.jp

授業科目名	臨床実習 Ⅱ						
担当者名	奥村・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220088	授業形態	実習				
学　　年	2	開講期	後期				
単位数	2	履修方法	必修	選択必修	選択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
			○			○	

授業の概要と方法	2 年次後期に地域系施設での実習を通して、医療分野において作業療法士が治療している臨床を見学し、役割を理解する。また、基本的な対象者への働きかけを臨床実習指導者の下で行うことができるようになることを目的とする。
授業の到達目標	1. 医療の中で作業療法士の役割について解説できる。 2. 作業療法評価や治療プログラムを見学し、対象者の全体像を推察できる。
授業計画	1. 実習オリエンテーション　接遇について　～施設内でのマナー、感染症対策～
	2. 評価実技演習①身体障害分野
	3. 評価実技演習②精神障害分野
	4. 評価実技演習③検査測定
	5. 施設実習①の準備・予習
	6. 施設実習①－1
	7. 施設実習①－2
	8. （学内）施設実習①振り返り・施設実習②の準備・予習
	9. 施設実習②－1
	10. 施設実習②－2
	11. （学内）施設実習②振り返り・施設実習③の準備・予習
	12. 施設実習③－1
	13. 施設実習③－2
	14. （学内）施設実習③振り返り
	15. 実習のまとめ
成績評価の方法	授業態度、ポートフォリオを総合して評価する。 評価項目と割合 授業態度（20%）　ポートフォリオ<デイリーノートを含む>（80%）
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	学外実習の前には施設調査、実習後にはデイリーノート作成の各 1 時間程度の学修が必要となる。
使用テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。
参考書（参考資料等）	市川和子、他：臨床実習とケーススタディ．医学書院，2005.
その他 (受講生への要望等)	①授業の進め方：基本的に毎回違う施設実習と学内実習を繰り返し、授業目標を達成する。 ②事前・事後学修：事前に実習施設について調べ、事後では施設実習での疑問についての自学と教員への質問を重視します。 ③その他履修者へ：　デイリーノートは施設実習の翌日に提出します。 施設実習日は 10 分前行動を心がけてください。身なりや接遇には十分配慮してください。
教員 e-mail アドレス	奥村：okumura@knwu.ac.jp　　深町：fukamachi@knwu.ac.jp

授業科目名	臨床実習 Ⅲ						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220089	**授 業 形 態**	実習				
学　　　年	3	**開　講　期**	後期				
単　位　数	4	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○	○	

授業の概要と方法	施設実習を通して、作業療法の対象者に必要な基本的評価技術を習得する。また、対象者の問題点に適切な治療計画を考えることができるようになることを目的とする。
授業の到達目標	1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の作業療法評価を計画・実施し、評価結果から全体像をまとめ、将来像を予想することができる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 個人情報の保護に配慮した記録・報告ができる。
授業計画	後期(11～12 月)に医療施設・福祉施設の 1 施設で 4 週間の評価実習を行う。 ＜実習内容＞ 個人情報の保護に配慮した記録・報告ができるよう医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、対象者の作業療法評価を計画・実施し、評価結果から全体像をまとめ、将来像を予想し、作業療法計画を立案するといったプロセスを実習する。 ＜実習後セミナー＞ 全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。
成績評価の方法	臨床実習Ⅲ指導報告およびセミナーへの参加，客観的な臨床演習の結果等の内容を総合的に考慮して評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事前に各自各分野の評価学を復習しておいて下さい。
使用テキスト	九州栄養福祉大学　編：臨床実習録 九州作業療法士学校連絡協議会　編：事例研究報告書作成指針（ICF モデル)，2005
参考書（参考資料等）	「臨床実習とケーススタディ」　医学書院
その他 (受講生への要望等)	施設実習では 10 分前行動を心がけ、身なりや接遇には十分配慮してください。
教員 e-mail アドレス	各担当教員のアドレスは別途連絡します。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="6">臨床実習 Ⅳ</td></tr>
<tr><td>担 当 者 名</td><td colspan="6">大丸・奥村・佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>1220090</td><td>授 業 形 態</td><td colspan="5">実習</td></tr>
<tr><td>学　　年</td><td>4</td><td>開　講　期</td><td colspan="5">前期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単　位　数</td><td rowspan="2">8</td><td rowspan="2">履 修 方 法</td><td>必 修</td><td>選択必修</td><td>選 択</td><td>作業療法士必修</td><td>作業療法士選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

授業の概要と方法	作業療法士の責任と指導の下に、偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分把握し、作業療法評価・治療プログラム立案・介入・プログラム実施ができるようになることを目的とする。
授業の到達目標	1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。
授業計画	前期（5～7 月）に医療施設の 1 施設で 8 週間の評価及び作業療法実施の実習を行う。 ＜実習内容＞ 医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、対象者の全体像を把握し、作業療法計画の立案、実施・指導・援助を体験する。また、作業療法の成果を確認し作業療法計画を見直し、記録・報告及び管理・運営が理解できるまでのプロセスを実習する。 ＜実習後セミナー＞ 実習後セミナーでは、全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。
成績評価の方法	臨床実習Ⅳ指導報告およびセミナーへの参加，客観的な臨床演習の結果等の内容を総合的に考慮して評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事前に各自各分野の評価学を復習しておいて下さい。
使用テキスト	九州栄養福祉大学　編：臨床実習録 九州作業療法士学校連絡協議会　編：事例研究報告書作成指針（ICF モデル），2005
参考書（参考資料等）	「臨床実習とケーススタディ」　医学書院
その他 (受講生への要望等)	施設実習では 10 分前行動を心がけ、身なりや接遇には十分配慮してください。
教員 e-mail アドレス	各担当教員のアドレスは別途連絡します。

授業科目名	臨床実習 V						
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・渕・深町・四元・村田・平澤・宮田						
科目コード	1220091	**授 業 形 態**	実習				
学　　年	4	**開　講　期**	前期				
単　位　数	8	**履 修 方 法**	必 修	選択必修	選 択	作業療法士必修	作業療法士選択必修
					○	○	

授業の概要と方法	作業療法士の責任と指導の下に、偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分把握し、作業療法評価・治療プログラム立案・介入・プログラム実施ができるようになることを目的とする。
授業の到達目標	1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。
授業計画	前期(7～9 月)に医療施設の 1 施設で 8 週間の評価及び作業療法実施の実習を行う。 ＜実習内容＞ 医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、対象者の全体像を把握し、作業療法計画の立案、実施・指導・援助を体験する。また、作業療法の成果を確認し作業療法計画を見直し、記録・報告及び管理・運営が理解できるまでのプロセスを実習する。 ＜実習後セミナー＞ 実習後セミナーでは、全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。
成績評価の方法	「臨床実習Ⅴ」指導報告およびセミナーへの参加, 客観的な臨床演習の結果等の内容を総合的に考慮して評価する。
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	事前に各自各分野の評価学を復習しておいて下さい。
使用テキスト	九州栄養福祉大学　編：臨床実習録 九州作業療法士学校連絡協議会　編：事例研究報告書作成指針（ICF モデル), 2005
参考書（参考資料等）	「臨床実習とケーススタディ」　医学書院
その他 (受講生への要望等)	施設実習では 10 分前行動を心がけ、身なりや接遇には十分配慮してください。
教員 e-mail アドレス	各担当教員のアドレスは別途連絡します。